

(様式第10)

厚生労働大臣 殿

久大病(管) 番 26 号
令和 5 年 10 月 5 日
開設者名 学校法人久留米大学
理事長 永田 見生

久留米大学病院の業務に関する報告について

標記について、医療法(昭和23年法律第205号)第12条の3第1項及び医療法施行規則(昭和23年厚生省令第50号)第9条の2の2の第1項の規定に基づき、令和4年度の業務に関して報告します。

1 開設者の住所及び氏名

住所	〒830-0011 福岡県久留米市旭町67番地
氏名	学校法人久留米大学 理事長 永田 見生

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名称

久留米大学病院

3 所在の場所

〒830-0011 福岡県久留米市旭町67番地
電話(0942) 31 - 7602

4 診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

<input checked="" type="radio"/>	1 医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、有すべき診療科名すべてを標榜
<input type="radio"/>	2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定により読み替えられた同条第一項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜

(注) 上記のいずれかを選択し○を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1) 内科

内科				有			
内科と組み合わせた診療科名等							
<input checked="" type="radio"/>	1呼吸器内科	<input checked="" type="radio"/>	2消化器内科	<input checked="" type="radio"/>	3循環器内科	<input checked="" type="radio"/>	4腎臓内科
<input checked="" type="radio"/>	5神経内科	<input checked="" type="radio"/>	6血液内科	<input checked="" type="radio"/>	7内分泌内科	<input checked="" type="radio"/>	8代謝内科
<input checked="" type="radio"/>	9感染症内科	<input checked="" type="radio"/>	10アレルギー疾患内科またはアレルギー科	<input checked="" type="radio"/>	11リウマチ科	<input checked="" type="radio"/>	

診療実績

循環器内科は心臓・血管内科、血液内科は血液・主要内科、内分泌内科及び代謝内科は内分泌・代謝・糖尿病内科、感染症内科は呼吸器内科及び感染制御科(院内診療科)、アレルギー疾患内科は呼吸器内科、小児科、耳鼻いんこう科、皮膚科等、リウマチ科は膠原病内科(院内診療科)、整形外科で診療を行っている。

(注) 1 「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。
2 「診療実績」欄については、「内科と組み合わせた診療科名等」欄において、標榜していない診療科がある場合、その診療科で提供される医療を、他の診療科で提供している旨を記載すること。

(2) 外科

外科						有	
外科と組み合わせた診療科名							
○	1呼吸器外科	○	2消化器外科		3乳腺外科		4心臓外科
	5血管外科	○	6心臓血管外科		7内分泌外科	○	8小児外科
診療実績							
乳腺外科及び内分泌外科は乳腺・内分泌外科(院内診療科)で診療を行っている。							

- (注) 1 「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。
 2 「診療実績」欄については、「外科」「呼吸器外科」「消化器外科」「乳腺外科」「心臓外科」「血管外科」「心臓血管外科」「内分泌外科」「小児外科」のうち、標榜していない科がある場合は、他の標榜科での当該医療の提供実績を記載すること(「心臓血管外科」を標榜している場合は、「心臓外科」「血管外科」の両方の診療を提供しているとして差し支えないこと)。

(3) その他の標榜していることが求められる診療科名

○	1精神科	○	2小児科	○	3整形外科	○	4脳神経外科
○	5皮膚科	○	6泌尿器科		7産婦人科	○	8産科
○	9婦人科	○	10眼科	○	11耳鼻咽喉科	○	12放射線科
	13放射線診断科		14放射線治療科	○	15麻酔科	○	16救急科

- (注) 標榜している診療科名に○印を付けること。

(4) 歯科

歯科						有	
歯科と組み合わせた診療科名							
○	1小児歯科	○	2矯正歯科	○	3歯科口腔外科		
歯科の診療体制							

- (注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。
 2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5) (1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

1	形成外科	2	リハビリテーション科	3	病理診断科	4	美容外科	5	
6		7		8		9		10	
11		12		13		14		15	
16		17		18		19		20	
21		22		23		24		25	

- (注) 標榜している診療科名について記入すること。

5 病床数

精神	感染症	結核	療養	一般	合計	(単位:床)
53	0	0	0	965	1,018	

6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職種	常勤	非常勤	合計
医師	519	7	520.1
歯科医師	12	0	12
薬剤師	67	1	67.5
保健師	0	0	0
助産師	40	4	43.2
看護師	1,030	43	1,060.3
准看護師	0	0	0
歯科衛生士	4	1	4.5
管理栄養士	15	0	15

職種	員数
看護補助者	136
理学療法士	26
作業療法士	10
視能訓練士	9
義肢装具士	0
臨床工学士	28
栄養士	1
歯科技工士	1
診療放射線技師	61

職種	員数
診療エックス線技師	0
臨床検査技師	82
衛生検査技師	0
その他	0
あん摩マッサージ指圧師	0
医療社会事業従事者	28
その他の技術員	43
事務職員	168
その他の職員	40

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めなくて記入すること。
 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7 専門の医師数

専門医名	人数(人)	専門医名	人数(人)
総合内科専門医	66	眼科専門医	9
外科専門医	79	耳鼻咽喉科専門医	12
精神科専門医	13	放射線科専門医	0
小児科専門医	31	脳神経外科専門医	20
皮膚科専門医	8	整形外科専門医	27
泌尿器科専門医	11	麻酔科専門医	14
産婦人科専門医	24	救急科専門医	19
		合計	333

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
 2 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8 管理者の医療に係る安全管理の業務の経験

管理者名 (野村 政壽) 任命年月日 令和 5 年 4 月 1 日

令和2年4月～ 医療安全管理対策委員会委員

9 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	749.4 人	14.9 人	764.3 人
1日当たり平均外来患者数	1991.7 人	74.3 人	2066 人
1日当たり平均調剤数		1242.4	剤
必要医師数		193.3	人

必要歯科医師数	6	人
必要薬剤師数	26	人
必要(准)看護師数	455	人

- (注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。
2 入院患者数は、前年度の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。
3 外来患者数は、前年度の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
4 調剤数は、前年度の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。
5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要(准)看護師数については、医療法施行規則第二十二条の

10 施設の構造設備

施設名	床面積	主要構造	設備概要			
集中治療室	1,546.99 m ²	鉄筋コンクリート	病床数	61 床	心電計	有
			人工呼吸装置	有	心細動除去装置	有
			その他の救急蘇生装置	有	ペースメーカー	有
無菌病室等	[固定式の場合] 床面積 483.43 m ²		病床数	41 床		
	[移動式の場合] 台数			台		
医薬品情報管理室	[専用室の場合] 床面積 79.8 m ²					
	[共用室の場合] 共用する室名					
化学検査室	468.78 m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備)	※別紙1の通り		
細菌検査室	198.36 m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備)	※別紙1の通り		
病理検査室	274.1 m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備)	※別紙1の通り		
病理解剖室	56.53 m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備)	※別紙1の通り		
研究室	26,018 m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備)	パソコン		
講義室	1,588.2 m ²	鉄筋コンクリート	室数 16 室	収容定員	1,247	人
図書室	2838.18 m ²	鉄筋コンクリート	室数 6 室	蔵書数	196,671	冊程度

- (注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。
2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

11 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

紹介率	91.4	%	逆紹介率	69.5	%
算出根拠	A: 紹介患者の数		18,701		人
	B: 他の病院又は診療所に紹介した患者の数		15,141		人
	C: 救急用自動車によって搬入された患者の数		1,206		人
	D: 初診の患者の数		21,791		人

- (注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

12 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由(注)

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
古賀 和徳	産業医科大学病院	○	医療安全管理の識見のある医師	無	1

手島 康德	産業医科大学病院		医療安全管理の識見のある看護師	無	1
中村 圭佑	産業医科大学病院		医療安全管理の識見のある薬剤師	無	1
平田 ナツ子			医療を受ける者	無	2

(注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1～3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者(1.に掲げる者を除く。)
3. その他

13 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由の公表の状況

委員名簿の公表の有無	有
委員の選定理由の公表の有無	有
公表の方法	
ホームページで公表	

主 な 設 備

様式10 別紙①

		機 器
化学検査室	生化学	グルコース ADAMS Glucose GA1172(2台)
		グリコヘモグロビン ADAMS A1c HA-8182 (2台)
		臨床化学自動分析装置 LABOSPECT 008α (2機)
		自動浸透圧測定装置 OSMO STATION OM-6060
		呼気中13CO2分析装置 (POCone ピロリ検査)
		ABL90 FLEX (2台) 血ガス
		自動分析装置 Dimension EXL200
		赤血球沈降速度測定装置 Quick eye-8 SESR-2001-08
	免疫	自動化学発光酵素免疫分析装置 Accuraseed
		全自動蛍光免疫測定装置 ミュータスワコー i30
		エンドトキシン、β-グルカン測定装置 トキシノメーター MT-6500、拡張モジュール2台
		全自動臨床検査システム STACIA
		カテコールアミン分析計 HLC-725CAⅢ
		全自動化学発光酵素免疫測定システム ルミパルスL2400
		全自動化学発光免疫測定装置 Alinity i
		全自動電気泳動分析装置 Epalyzer 2 Junior
	血液	XN9100 (CBC)
		コバス8000 e 801 (2台)
	一般	小型便潜血分析装置 QUICK RUN (Ⅱ)
		尿化学分析装置 クリテック ノーバス
		全自動尿中有形成成分分析装置 UF-5000
	凝固	全自動免疫測定装置 HISCL-5000
		血液凝固自動分析装置 S400CF (2台)
	輸血	全自動輸血検査装置 オートビュー イノーバⅡ
	輸血	全自動輸血検査装置 ビジョン
	細菌検査室	細菌検査
遺伝子解析装置 コバス6800可動式×1式 遺伝子解析装置 コバスTaqMan 48×1式		
自動細菌同定感受性装置 VITEK 2 Compact		
血液培養自動分析装置 BACTEC FX40 血液培養自動分析装置 BACTEC FX(2台)		
質量分析装置 MALDI Biotyper smart		
遺伝子解析装置 Verigeneシステム		
遺伝子解析装置 GeneXpertシステム		
遺伝子解析装置 コバス z 480		
遺伝子解析装置 コバスLiat		
Ion Torrent Genexusシステム		
病理検査室	病理検査	密閉式自動固定包埋装置 (VIP6AI-J0)
		自動特殊染色装置 (Ventana NX-SS System)
		自動免疫染色装置 (Ventana BenchMark ULTRA PLUS)
		cobas® 4800システム (コバ s z 480)
		自動HE染色装置 (Ventana HE600)
		組織切片自動作製装置 (ティシュー・テック スマートセクション SS-QAI)
病理解剖室		解剖台
		カメラ、モニター

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	植込み型補助人工心臓	取扱患者数	1
当該医療技術の概要 植込み型補助人工心臓は、十分な薬物治療を行っても改善の見込みのない重症心不全に対し、循環器内科、心臓血管外科によるハートチームで十分な検討を行った上で、心臓移植への橋渡しを前提に、体内へ植え込む補助循環治療である。日本国内で44施設のみ実施施設が認定されている高度医療である。			
医療技術名	胸腔鏡下弁形成術、弁置換術	取扱患者数	32
当該医療技術の概要 胸腔鏡下弁形成術、弁置換術は、従来、胸部正中切開で行われていた心臓弁膜症手術を、胸腔鏡下に右肋間からの小切開で行う低侵襲手術で、近年、急速普及している。診療報酬請求には厳格な施設基準を求められる高度医療である。			
医療技術名	Sutureless生体弁(Perceval)による大動脈弁置換術	取扱患者数	3
当該医療技術の概要 Sutureless生体弁は大動脈弁置換術を施行する際に自己弁輪と人工弁の縫合を必要とせず、手術時間の短縮に貢献できる新たな手術手技である。その使用は胸腔鏡下弁置換術を診療報酬請求が可能な施設のみに限定されている高度医療である。			
医療技術名	ロボット支援下手術(呼吸器)	取扱患者数	10
当該医療技術の概要 ロボット支援胸腔鏡下肺葉切除術			
医療技術名	ロボット支援下手術(大腸)	取扱患者数	28
当該医療技術の概要 ロボット支援下低位前方切除術,高位前方切除術,内肛門括約筋切除術,腹会陰式直腸切断術			
医療技術名	ロボット支援下手術(胃)	取扱患者数	27
当該医療技術の概要 ロボット支援下胃全摘、ロボット支援下噴門側胃切除術、ロボット支援下幽門側胃切除術			
医療技術名	頭頸部癌再建術、頭蓋底手術	取扱患者数	24
当該医療技術の概要 頭頸部外科、形成外科、食道外科で再建チームを編成し、頭頸部癌に対する拡大切除後の再建手術を行っている。また、脳神経外科と協力し頭蓋底部に浸潤する腫瘍の一塊切除を目的とした頭蓋底手術を行っている。これらの手術は高度な技術、またチーム医療が不可欠であり、特定機能病院として高度な医療を提供していると判断する。			
医療技術名	造血幹細胞移植	取扱患者数	28
当該医療技術の概要 難治性の造血器腫瘍および造血不全に対する根治治療としての造血細胞移植 自家移植11件 同種移植17件			
医療技術名	重症外傷患者に対する戦略的アプローチと集中治療	取扱患者数	50
当該医療技術の概要： 重症外傷患者の最大の死因は、制御困難な出血と重症頭部外傷である。これらに対し受傷直後の止血戦略と異型輸血を含む緊急輸血戦略、さらに重症頭部外傷に対する脳保護を考慮した集中治療を行い重症外傷例の救命と社会復帰を目指すチーム医療技術。			
医療技術名	心肺停止蘇生後患者に対する体温管理療法	取扱患者数	20
当該医療技術の概要： 心肺停止蘇生後の患者の脳保護、社会復帰を目指すための脳指向型集中治療である。蘇生直後より高体温を回避し、急性期の積極的体温調整を行うことにより、脳を含む全身の臓器障害の進行防止、積極的な脳波モニタリングと痙攣抑制による脳保護を行う技術。			
医療技術名	心肺停止患者に対する体外式人工心肺(ECMO)を用いた心肺蘇生法	取扱患者数	25
当該医療技術の概要： 心肺停止患者に対し、通常の手術的マッサージによる蘇生ではなく、人工心肺装置を用いた心肺蘇生を行うもの。神経学的に良好な予後、社会復帰を得るためには、迅速な導入と処置(no-flow, low-flow時間の短縮)が必要で、かつ出血・血管損傷、感染といった合併症を回避するための知識と技術を必要とする。			
医療技術名	産科危機的出血に対する産科・救急医連携による急性期治療	取扱患者数	15
当該医療技術の概要： 前置胎盤や子癇出血等の分娩後危機的出血に対し、産科医と救急医が積極的に連携し、産科的処置とともに大動脈内バルーン閉塞(REBOA)や経カテーテル動脈塞栓術(TAE)、大量輸血プロトコールに基づく緊急輸血などを施行し、機能的出血から蘇生する技術。			

医療技術名	ロボット支援下子宮悪性腫瘍手術	取扱患者数	14
当該医療技術の概要 子宮悪性腫瘍に対し、ロボット支援技術(Da Vinci Xi)を用いた手術を行う			
医療技術名	腹腔鏡下傍大動脈リンパ節郭清術	取扱患者数	3
当該医療技術の概要 子宮体がんに対する傍大動脈リンパ節郭清術を腹腔鏡下に行う。			
医療技術名	内視鏡下副鼻腔手術V型(拡大副鼻腔手術)	取扱患者数	2
当該医療技術の概要 前頭洞炎に対する内視鏡下前頭洞単洞化手術である。2015年に当院では施設基準を満たしている。			
医療技術名	経外耳道的内視鏡下耳科手術(TEES)	取扱患者数	31
当該医療技術の概要 経外耳道的内視鏡下耳科手術(transcanal endoscopic ear surgery:TEES)は、 耳下手術のほとんどのプロセスを内視鏡下で行う低侵襲手術であり、ハイビジョン画質(Full HD)の3CCDカメラを搭載した内視鏡と精細で高解像度な細径内視鏡の出現により、近年国内外で急速に普及しつつある。			
医療技術名	頭頸部癌再建術、頭蓋底手術	取扱患者数	26
当該医療技術の概要 形成外科、食道外科と再建チームを編成し、頭頸部癌に対する拡大切除後の再建手術を行っている。 また、脳神経外科と協力し頭蓋底部に浸潤する腫瘍の一塊切除を目的とした頭蓋底手術を行っている。 これらの手術は高度な技術、またチーム医療が不可欠であり、特定機能病院として高度な医療を提供していると判断する。			
医療技術名	声帯内自家脂肪注入術	取扱患者数	4
当該医療技術の概要 一側声帯麻痺など発声時の声門閉鎖不全に対する手術で、脂肪組織を採取し精製した後に直達喉頭鏡下に声帯内に脂肪を注射する。術後に嗄声や嚥下障害の改善が期待出来る術式であり、近年普及して来た術式である。			
医療技術名	喉頭形成手術(人工形成材料装置術)	取扱患者数	1
当該医療技術の概要 甲状軟骨を切開し人工材料を挿入する甲状軟骨形成術と、披裂軟骨を糸で牽引することで声帯を内転する披裂軟骨内転術があり、いずれも発声機能を回復させる手術である。 医療者の高度の技術を要し、なかでも甲状軟骨形成術II型は施設基準が設けられている。			
医療技術名	誤嚥防止手術	取扱患者数	1
当該医療技術の概要 喉頭と気管を分離する術式、喉頭を閉鎖あるいは摘出する術式があり、いずれも重度嚥下障害による嚥下性肺炎を防止することができる。医療者の高度な解剖学的知識と、技術習得が必要である。			
医療技術名	人工内耳埋込手術およびハビリテーション	取扱患者数	7
当該医療技術の概要 高度難聴者に対して人工内耳植込手術を行い、術後リハビリテーションを行うことで聴覚を取り戻すことができる。			
医療技術名	硬性内視鏡を用いた咽喉頭癌の経口的レーザー切除術(TLM)	取扱患者数	14
当該医療技術の概要 咽頭喉頭の癌を含めた腫瘍性病変に対し、頸部外切開を加えない経口的切除を行っている。 また、切除デバイスにCO2レーザーを用い、電気メスよりも熱侵襲の少ない低侵襲手術を行っている。			
医療技術名	低酸素療法	取扱患者数	1
当該医療技術の概要 肺血流増多型の心不全を呈している新生児に対して低酸素療法を行うことにより肺血管抵抗を増強させ手術待機を可能にする。			
医療技術名	脳保護を目的とした低体温療法	取扱患者数	3
体温を軽度低体温に維持することで心肺停止蘇生後や重症頭部外傷での脳保護をねらう医療技術。 導入期・維持期・復温期を通して沈静下に人工呼吸器管理・循環管理を行うため、 極めの細かい集中治療の装置とマンパワーを必要とする。			
医療技術名	新生児の動脈管開存症に対するカテーテル治療	取扱患者数	1
当該医療技術の概要 低体重の新生児における動脈管開存症に対して閉塞栓で動脈管を閉塞させるカテーテル治療。 新生児、小児循環器、麻酔、小児心臓血管外科などがチームとなり、細かい治療管理を必要とする			

医療技術名	原発性免疫不全症における遺伝子検査を用いた個別化医療	取扱患者数	20
当該医療技術の概要 原発性免疫不全疑い患者にたいして遺伝子検査で病原遺伝子を同定、原因に即した治療を行う			
医療技術名	自己炎症性疾患における遺伝子検査を用いた個別化医療	取扱患者数	20
当該医療技術の概要 自己炎症性疾患疑い患者にたいして遺伝子検査で病原遺伝子を同定、原因に即した治療を行う			
医療技術名	難治性小児膠原病に対する生物学的製剤治療	取扱患者数	5
当該医療技術の概要 小児では希少な難治性膠原病(高安動脈炎、全身性強皮症、皮膚筋炎等)、特に難治例に対して生物学的製剤、免疫抑制剤を併用した集学的な治療を行う			
医療技術名	経カテーテル的大動脈弁留置術(TAVI)	取扱患者数	80
当該医療技術の概要 重症大動脈弁狭窄症に対して、開胸を行わずにカテーテルを用いて低侵襲に大動脈弁位に生体弁を留置する方法。心臓外科、麻酔科とチームを形成し、導入には施設基準が設けられており、適切な施設でのみ施行可能である。			
医療技術名	ロボット補助経皮的冠動脈形成術(PCI)	取扱患者数	11
当該医療技術の概要 補助ロボット「コーパス(CorPath GRX)」を用いたPCI治療。我が国では2018年に保険償還され、当院では2019年東アジアで初めて導入した。術者の被曝線量の大幅な低減とプロテクター不要による肉体的負担の軽減が可能となる。			
医療技術名	心房中隔欠損症および卵円孔開存症に対するカテーテル的閉鎖術	取扱患者数	7
当該医療技術の概要 心房中隔欠損症(ASD)と卵円孔開存症(PFO)に対してカテーテルによる孔閉鎖を行う方法。低侵襲で短時間の治療が可能となった。小児循環器とのチームを形成し、施設基準を有する。			
医療技術名	カテーテルアブレーション治療(高周波アブレーション)	取扱患者数	318
当該医療技術の概要 頻拍性不整脈、期外収縮などに対して、高周波を用いた心筋焼灼を行う方法。最近ではカルトシステムを用いることで、心臓内を3D可視化することが可能となり、焼灼率の向上に寄与している。			
医療技術名	心房細動に対する冷凍(クライオ)アブレーション	取扱患者数	39
当該医療技術の概要 心房細動に対して、肺静脈に冷凍バルーンを挿入して、1回で組織凝固を行う方法。手技時間の短縮と正常組織への侵襲が少ない。施設基準を要する。			
医療技術名	心房細動に対するレーザーバルーンアブレーション	取扱患者数	18
当該医療技術の概要 心房細動に対して、肺静脈にレーザーバルーンを挿入して、その中から内視鏡で直接焼灼部位を観察できる。そのため造影剤使用がなく、焼灼部位の内臓損傷も少ない。施設基準を有する。			
医療技術名	対外式膜型人工肺(ECMO)を用いた心肺補助法	取扱患者数	39
当該医療技術の概要 致死的不整脈や45分以内の心停止症例に対して、カテーテル的に大腿動静脈からそれぞれ人工肺とポンプ用のシースを挿入し、心肺補助を行う方法。			
医療技術名	補助循環用ポンプカテーテル(インペラ)を用いた心肺補助法	取扱患者数	33
当該医療技術の概要 左心不全を優位とした重症心不全や心原性ショックに対して、カテーテル的に大腿動脈から小型ポンプを挿入し、心肺補助を行う方法。上記A-V ECMOと併用することが多く、更なる救命率の向上が得られている。施設基準を要する。			
医療技術名	重症頭部外傷後の脳浮腫に対する新たなバルビツレート療法	取扱患者数	10
当該医療技術の概要 重症頭部外傷後の脳浮腫による二次性脳損傷を予防のため、頭蓋内圧降下作用は強力だが副作用のため使いにくいバルビツレートをstep-downinfusion投与方法を用いて血中濃度の急激な上昇を避けて投与することで、安全に管理し良好な頭蓋内圧降下を得る。			
医療技術名	脳内出血患者に対する積極的短時間降圧による血腫増大予防療法	取扱患者数	25
当該医療技術の概要 脳内出血急性期患者において、造影CT遅延相における造影剤漏出所見であるleakage signが陽性であった場合に、通常よりも強力な降圧を短時間行い、降圧に伴う副作用や合併症を避けて血腫の増大を予防する治療。神経症状の悪化や緊急手術のリスクを減らす。			
医療技術名	悪性脳腫瘍に対する術中光線力学療法(PDT)	取扱患者数	2
当該医療技術の概要 Eloquent areaの病変のため積極的全摘出が不可能な悪性脳腫瘍の症例に対し、術前に光感受性物質を経口投与し、可及的摘出後に摘出腔へレーザー照射して残存させた領域の神経機能温存と殺腫瘍効果を同時に得る治療。2週間の暗室管理が必要となる。			

医療技術名	正中部巨大頭蓋底腫瘍に対する開頭・経鼻同時手術	取扱患者数	0
当該医療技術の概要 視神経近傍や脳幹腹側の腫瘍では、経鼻内視鏡手術が有用な反面、分葉状で外側進展や血管の巻き込みを伴う腫瘍では開頭手術に劣る。開頭と経鼻手術を同時に行うことでお互いの死角や操作性を担保し合い、摘出度を上げ、かつ合併症の発生を予防できる。			
医療技術名	ロボット支援前立腺悪性腫瘍手術	取扱患者数	72
当該医療技術の概要 限局性前立腺癌に対する主たる根治治療法として従来の開腹あるいは腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術に比較してda Vinciシステムの利用により、さらに精密な手術操作が可能となり、結果として出血量の低減やがん根治性の向上、術後機能(勃起、尿禁制)維持の改善が期待される術式である。			
医療技術名	尿管鏡による上部尿路腫瘍の診断と治療	取扱患者数	56
当該医療技術の概要 診断がしばしば困難とされる上部尿路腫瘍に対し、細径尿管鏡を用いた組織診断と適応症例に対するレーザー切除術を施行している。			
医療技術名	ロボット支援腹腔鏡下腎部分切除術	取扱患者数	28
当該医療技術の概要 腹腔鏡手術は開腹手術に比して低侵襲手術であるが、特に腹腔鏡下腎部分切除術では高度な技術が必要であり、術後の腎機能に影響を与える阻血時間(腫瘍切除のために腎動脈を遮断する時間)が延長される。ロボット支援手術は、腹腔鏡手術では困難であった切除・縫合が正確かつ迅速に行えるため阻血時間が短縮され、術後の合併症も軽減される。また腹腔鏡手術では困難であった位置や大きさの腫瘍も切除可能となり、手術適応が拡大すると考えられている。			
医療技術名	ロボット支援腹腔鏡下根治的腎摘除術	取扱患者数	1
当該医療技術の概要 腹腔鏡手術は開腹手術に比して低侵襲手術であるが、手術支援ロボットを用いることによってより精密な手術が可能となっている高解像度の3D画像を見ながら、人間の手の関節以上の高い関節自由度を持つロボット鉗子を用いて手術を行うことで、精密な切開が可能となっている。			
医療技術名	ロボット支援腹腔鏡下腎盂形成術	取扱患者数	2
当該医療技術の概要 腹腔鏡手術は開腹手術に比して低侵襲手術であるが、手術支援ロボットを用いることによってより精密な手術が可能となっている。腹腔鏡手術では腎盂の形成時の縫合は極めて難しく、習得するまでの長期間を要し、結果的に手術時間も長くなる傾向があったがロボット手術支援手術で、10倍以上に拡大した視野で、自由度の高い鉗子により細かい正確な縫合が可能となっている。			
医療技術名	肩関節周囲炎による慢性疼痛に関するカテーテル治療	取扱患者数	2
当該医療技術の概要 肩関節周囲炎による激しい痛みが接続する場合に、周囲に血管増生がおこり、それを寒栓することで痛みの軽減を得る治療法。日本で開発された治療法。少数の施設のみで施行されているものである。			
医療技術名	腹腔鏡下拡張胆管切除術	取扱患者数	1
当該医療技術の概要 内視鏡外科技術認定医(小児外科領域)が先天性の胆道拡張症に対して、開腹を行わずに低侵襲に拡張胆管を切除する方法。			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

その他の高度医療の種類合計数	47
取り扱い患者数の合計(人)	1,160

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
1	球脊髄性筋萎縮症	10	56	血栓性血小板減少性紫斑病	1
2	筋萎縮性側索硬化症	28	57	原発性免疫不全症候群	23
3	脊髄性筋萎縮症	26	58	IgA 腎症	248
4	原発性側索硬化症	2	59	多発性嚢胞腎	129
5	進行性核上性麻痺	30	60	黄色靱帯骨化症	135
6	パーキンソン病	417	61	後縦靱帯骨化症	357
7	大脳皮質基底核変性症	18	62	広範脊柱管狭窄症	6
8	ハンチントン病	3	63	特発性大腿骨頭壊死症	11
9	シャルコー・マリー・トゥース病	13	64	下垂体性TSH分泌亢進症	4
10	重症筋無力症	213	65	クッシング病	22
11	先天性筋無力症候群	2	66	家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	48
12	多発性硬化症/視神経脊髄炎	120	67	甲状腺ホルモン不応症	1
13	慢性炎症性脱髄性多発神経炎/多巣性運動	29	68	アジソン病	10
14	封入体筋炎	7	69	サルコイドーシス	305
15	多系統萎縮症	18	70	特発性間質性肺炎	155
16	脊髄小脳変性症(多系統萎縮症を除く。)	61	71	肺動脈性肺高血圧症	164
17	ライゾゾーム病	43	72	慢性血栓塞栓性肺高血圧症	33
18	副腎白質ジストロフィー	1	73	リンパ脈管筋腫症	11
19	ミトコンドリア病	22	74	網膜色素変性症	67
20	もやもや病	101	75	バッド・キアリ症候群	4
21	プリオン病	1	76	特発性門脈圧亢進症	4
22	HTLV-1関連脊髄症	18	77	原発性胆汁性胆管炎	202
23	特発性基底核石灰化症	1	78	原発性硬化性胆管炎	17
24	全身性アミロイドーシス	33	79	自己免疫性肝炎	171
25	遠位型ミオパチー	1	80	クローン病	203
26	神経線維腫症	68	81	潰瘍性大腸炎	531
27	天疱瘡	108	82	好酸球性消化管疾患	3
28	表皮水疱症	12	83	慢性特発性偽性腸閉塞症	5
29	膿疱性乾癬(汎発型)	21	84	ルビンシュタイン・テイビ症候群	1
30	スティーヴンス・ジョンソン症候群	12	85	チャージ症候群	7
31	中毒性表皮壊死症	4	86	クリオピリン関連周期熱症候群	2
32	高安動脈炎	29	87	若年性特発性関節炎	44
33	巨細胞性動脈炎	22	88	TNF受容体関連周期性症候群	1
34	結節性多発動脈炎	21	89	非典型溶血性尿毒症症候群	2
35	顕微鏡的多発血管炎	62	90	ブラウ症候群	5
36	多発血管炎性肉芽腫症	85	91	先天性ミオパチー	6
37	好酸球性多発血管炎性肉芽腫症	50	92	マリネスコ・シェーグレン症候群	2
38	悪性関節リウマチ	21	93	筋ジストロフィー	32
39	バージャー病	32	94	非ジストロフィー性ミオトニー症候群	1
40	原発性抗リン脂質抗体症候群	3	95	アトピー性脊髄炎	1
41	全身性エリテマトーデス	460	96	脊髄空洞症	31
42	皮膚筋炎/多発性筋炎	263	97	脊髄髄膜瘤	26
43	全身性強皮症	109	98	アイザックス症候群	1
44	混合性結合組織病	80	99	前頭側頭葉変性症	6
45	シェーグレン症候群	547	100	ビッカースタッフ脳幹脳炎	1
46	成人スチル病	32	101	痙攣重積型(二相性)急性脳症	2
47	再発性多発軟骨炎	12	102	メビウス症候群	1
48	ベーチェット病	163	103	中隔視神経形成異常症/ドモルシア症候群	2
49	特発性拡張型心筋症	116	104	アイカルディ症候群	1
50	肥大型心筋症	227	105	片側巨脳症	1
51	拘束型心筋症	2	106	先天性大脳白質形成不全症	4
52	再生不良性貧血	106	107	ドラベ症候群	5
53	自己免疫性溶血性貧血	35	108	海馬硬化を伴う内側側頭葉てんかん	5
54	発作性夜間ヘモグロビン尿症	10	109	ミオクロニー欠神てんかん	3
55	特発性血小板減少性紫斑病	175	110	ミオクロニー脱力発作を伴うてんかん	6

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
111	レノックス・ガストー症候群	38	166	閉塞性細気管支炎	2
112	ウエスト症候群	26	167	肺胞蛋白症(自己免疫性又は先天性)	6
113	片側痙攣・片麻痺・てんかん症候群	1	168	肺胞低換気症候群	4
114	ラスムッセン脳炎	2	169	副甲状腺機能低下症	261
115	レット症候群	20	170	偽性副甲状腺機能低下症	6
116	スタージ・ウェーバー症候群	9	171	ビタミンD抵抗性くる病/骨軟化症	2
117	結節性硬化症	34	172	ビタミンD依存性くる病/骨軟化症	1
118	色素性乾皮症	2	173	フェニルケトン尿症	22
119	先天性魚鱗癬	10	174	メープルシロップ尿症	6
120	家族性良性慢性天疱瘡	3	175	プロピオン酸血症	4
121	類天疱瘡(後天性表皮水疱症を含む。)	174	176	メチルマロン酸血症	9
122	特発性後天性全身性無汗症	3	177	イソ吉草酸血症	3
123	眼皮膚白皮症	5	178	グルコーストランスポーター1欠損症	1
124	弾性線維性仮性黄色腫	8	179	グルタル酸血症2型	1
125	マルファン症候群	40	180	尿素サイクル異常症	32
126	エーラス・ダンロス症候群	5	181	ポルフィリン症	1
127	メンケス病	1	182	原発性高カイロミクロン血症	1
128	ウィルソン病	30	183	脳腱黄色腫症	2
129	低ホスファターゼ症	3	184	脂肪萎縮症	7
130	ジュベール症候群関連疾患	1	185	家族性地中海熱	73
131	ウィリアムズ症候群	7	186	化膿性無菌性関節炎・壊疽性膿皮症・アクネ	13
132	ATR-X症候群	1	187	慢性再発性多発性骨髄炎	3
133	クルーゾン症候群	2	188	強直性脊椎炎	15
134	アペール症候群	3	189	骨形成不全症	22
135	ファイファー症候群	1	190	軟骨無形成症	14
136	アントレー・ビクスラー症候群	1	191	リンパ管腫症/ゴーハム病	5
137	歌舞伎症候群	4	192	巨大静脈奇形(頸部口腔咽頭びまん性病変)	1
138	多脾症候群	2	193	巨大動静脈奇形(頸部顔面又は四肢病変)	10
139	無脾症候群	4	194	クリッペル・トレノネー・ウェーバー症候群	8
140	コケイン症候群	1	195	先天性赤血球形成異常性貧血	2
141	プラダー・ウィリ症候群	15	196	ダイヤモンド・ブラックファン貧血	3
142	ヌーナン症候群	11	197	ファンコニ貧血	2
143	ヤング・シンプソン症候群	1	198	クロンカイト・カナダ症候群	3
144	4p欠失症候群	1	199	非特異性多発性小腸潰瘍症	3
145	5p欠失症候群	5	200	ヒルシュスプルング病(全結腸型又は小腸型)	11
146	第14番染色体父親性ダイソミー症候群	1	201	総排泄腔外反症	1
147	アンジェルマン症候群	3	202	総排泄腔遺残	4
148	スミス・マギニス症候群	1	203	先天性横隔膜ヘルニア	10
149	22q11.2欠失症候群	10	204	胆道閉鎖症	27
150	修正大血管転位症	9	205	アラジール症候群	6
151	完全大血管転位症	20	206	IgG4関連疾患	130
152	単心室症	25	207	黄斑ジストロフィー	12
153	左心低形成症候群	4	208	レーベル遺伝性視神経症	2
154	三尖弁閉鎖症	9	209	遅発性内リンパ水腫	1
155	心室中隔欠損を伴う肺動脈閉鎖症	2	210	好酸球性副鼻腔炎	66
156	ファロー四徴症	86	211	進行性ミオクローヌステんかん	6
157	両大血管右室起始症	30	212	先天異常症候群	5
158	エプスタイン病	9	213	左肺動脈右肺動脈起始症	2
159	アルポート症候群	8	214	カルニチン回路異常症	6
160	急速進行性糸球体腎炎	50	215	シトリン欠損症	16
161	抗糸球体基底膜腎炎	5	216	β-ケトチオラーゼ欠損症	1
162	一次性ネフローゼ症候群	2	217	遺伝性自己炎症疾患	3
163	紫斑病性腎炎	25	218	無虹彩症	7
164	間質性膀胱炎(ハンナ型)	11	219	先天性気管狭窄症/先天性声門下狭窄症	9
165	オスラー病	7	220	特発性多中心性キャスルマン病	1

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(基本診療料)

施設基準の種類	施設基準の種類
地域歯科診療支援病院歯科初診料	患者サポート体制充実加算
歯科外来診療環境体制加算2	重症患者初期支援充実加算
歯科診療特別対応連携加算	ハイリスク妊娠管理加算
特定機能病院入院基本料	ハイリスク分娩管理加算
特定機能病院入院基本料 ADL維持向上等体制加算(注10)	精神科救急搬送患者地域連携紹介加算
特定機能病院入院基本料 入院栄養管理体制加算(注11)	術後疼痛管理チーム加算
救急医療管理加算	後発医薬品使用体制加算2
超急性期脳卒中加算	病棟薬剤業務実施加算1
診療録管理体制加算2	データ提出加算
医師事務作業補助体制加算1(25対1)	入退院支援加算2
急性期看護補助体制加算25:1(看護補助者5割以上)	入退院支援加算2に伴う入院時支援加算(注7)
急性期看護補助体制加算 注2に掲げる夜間100対1急性期看護補助体制加算	入退院支援加算3
急性期看護補助体制加算 注3に掲げる夜間看護体制加算	せん妄ハイリスク患者ケア加算
看護職員夜間配置加算(12対1配置加算1)	精神疾患診療体制加算
療養環境加算	精神科急性期医師配置加算2のロ
重症者等療養環境特別加算	地域医療体制確保加算
無菌治療室管理加算1	救命救急入院料1
無菌治療室管理加算2	救命救急入院料1 早期栄養介入管理加算(注9)
緩和ケア診療加算	救命救急入院料1 救急体制充実加算2(注3)
精神科身体合併症管理加算	救命救急入院料4
精神科リエゾンチーム加算	救命救急入院料4 早期栄養介入管理加算(注9)
栄養サポートチーム加算	救命救急入院料4 救急体制充実加算2(注3)
医療安全対策加算1	特定集中治療室管理料1
感染対策向上加算1	特定集中治療室管理料1 早期離床・リハビリテーション加算(注4)
感染対策向上加算1 指導強化加算(注2)	特定集中治療室管理料1 早期栄養介入管理加算(注5)
摂食障害入院医療管理加算	ハイケアユニット入院医療管理料1

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療料)

施設基準の種類	施設基準の種類
ウイルス疾患指導料の注2	在宅持続陽圧呼吸療法指導管理料 遠隔モニタリング加算(注2)
外来栄養食事指導料の注2	在宅植込型補助人工心臓(非拍動流型)指導管理料
外来栄養食事指導料の注3	在宅腫瘍治療電場療法指導管理料
高度難聴指導管理料	在宅経肛門の自己洗腸指導管理料
慢性維持透析患者外来医学管理料 腎代替療法実績加算(注3)	持続血糖測定器加算(間歇注入シリンジポンプと連動する持続血糖測定器を用いる場合)
糖尿病合併症管理料	持続血糖測定器加算(間歇注入シリンジポンプと連動しない持続血糖測定器を用いる場合)
がん性疼痛緩和指導管理料	遺伝学的検査
がん患者指導管理料イ	染色体検査の注2に規定する基準
がん患者指導管理料ロ	骨髄微小残存病変量測定
がん患者指導管理料ハ	BRCA1/2遺伝子検査
がん患者指導管理料ニ	がんゲノムプロファイリング検査
外来緩和ケア管理料	先天性代謝異常症検査
移植後患者指導管理料(造血幹細胞移植後)	抗アデノ随伴ウイルス9型(AAV9)抗体
糖尿病透析予防指導管理料	HPV核酸検出及びHPV核酸検出(簡易ジェノタイプ判定)
小児運動器疾患指導管理料	検体検査管理加算(I)
乳腺炎重症化予防・ケア指導料	検体検査管理加算(IV)
婦人科特定疾患治療管理料	国際標準検査管理加算
腎代替療法指導管理料	遺伝カウンセリング加算
一般不妊治療管理料	遺伝性腫瘍カウンセリング加算
生殖補助医療管理料1	心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算
外来放射線照射診療料	時間内歩行試験及びシャトルウォーキングテスト
外来腫瘍化学療法診療料1	胎児心エコー法
連携充実加算	ヘッドアップティルト試験
療養・就労両立支援指導料 相談支援加算(注2)	人工腎臓 1 慢性維持透析を行った場合1
がん治療連携計画策定料	人工腎臓 ロ 導入期加算2(注2)
ハイリスク妊産婦連携指導料1	人工膵臓検査

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療料)

施設基準の種類	施設基準の種類
ハイリスク妊産婦連携指導料2	皮下連続式グルコース測定
肝炎インターフェロン治療計画料	長期継続頭蓋内脳波検査
薬剤管理指導料	脳波検査判断料1
検査・画像情報提供加算及び電子的診療情報評価料	神経学的検査
医療機器安全管理料1	補聴器適合検査
医療機器安全管理料2	ロービジョン検査判断料
医療機器安全管理料(歯科)	小児食物アレルギー負荷検査
精神科退院時共同指導料	内服・点滴誘発試験
歯科疾患管理料の注11に掲げる総合医療管理加算	センチネルリンパ節生検(単独)
歯科治療時医療管理料	CT透視下気管支鏡検査加算
歯科疾患在宅療養管理料の注4に掲げる在宅総合医療管理加算	経気管支凍結生検法
在宅患者歯科治療時医療管理料	有床義歯咀嚼機能検査 2 有床義歯咀嚼機能検査2 ロ 咬合圧測定のみを行う場合
救急搬送診療料の注4に規定する重症患者搬送加算	歯科技工加算
咬合圧検査	皮膚悪性腫瘍切除術(センチネルリンパ節加算)
精密触覚機能検査	自家脂肪注入
画像診断管理加算3	組織拡張器による再建手術(一連につき)(乳房(再建手術)の場合に限る。)
遠隔画像診断	処理骨再建加算
ポジトロン断層・コンピュータ断層複合撮影	椎間板内酵素注入療法
CT撮影及びMRI撮影	原発性悪性脳腫瘍光線力学療法加算(頭蓋内腫瘍摘出術 その他のもの 注2)
冠動脈CT撮影加算	内視鏡下脳腫瘍生検術及び内視鏡下脳腫瘍摘出術
血流予備量比コンピュータ断層撮影	頭蓋骨形成手術(骨移動を伴うものに限る。)
外傷全身CT加算	脳刺激装置植込術(頭蓋内電極植込術を含む)及び脳刺激装置交換術
心臓MRI撮影加算	脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術
乳房MRI撮影加算	癒着性脊髄くも膜炎手術(脊髄くも膜剥離操作を行うもの)
小児鎮静下MRI撮影加算	仙骨神経刺激装置植込術及び仙骨神経刺激装置交換術(便失禁に対して実施する場合)
頭部MRI撮影加算	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療料)

施設基準の種類	施設基準の種類
全身MRI撮影加算	舌下神経電気刺激装置植込術
肝エラストグラフィ加算	角結膜悪性腫瘍切除手術
抗悪性腫瘍剤処方管理加算	角膜移植術(内皮移植加算)
外来化学療法加算1	羊膜移植術
無菌製剤処理料	緑内障手術(緑内障治療用インプラント挿入術(プレートのあるもの))
心大血管疾患リハビリテーション料(Ⅰ)	緑内障手術(流出路再建術(眼内法)及び水晶体再建術併用眼内ドレーン挿入術)
脳血管疾患等リハビリテーション料(Ⅰ)	緑内障手術(濾過胞再建術(needle法))
運動器リハビリテーション料(Ⅰ)	網膜付着組織を含む硝子体切除術(眼内内視鏡を用いるもの)
呼吸器リハビリテーション料(Ⅰ)	網膜再建術
がん患者リハビリテーション料	経外耳道的内視鏡下鼓室形成術
歯科口腔リハビリテーション料2	人工内耳植込術、植込型骨導補聴器移植術及び植込型骨導補聴器交換術
経頭蓋磁気刺激療法	植込型骨導補聴器(直接振動型)植込術、人工内耳植込術、植込型骨導補聴器移植術及び植込型骨導補聴器交換術
精神科作業療法	内視鏡下鼻・副鼻腔手術V型(拡大副鼻腔手術)及び経鼻内視鏡下鼻副鼻腔悪性腫瘍手術(頭蓋底郭清、再建を伴うもの)
認知療法・認知行動療法1	鏡視下咽頭悪性腫瘍手術(軟口蓋悪性腫瘍手術を含む。)
精神科ショート・ケア「大規模なもの」	内喉頭筋内注入術(ボツリヌス毒素によるもの)
精神科デイ・ケア「大規模なもの」	鏡視下喉頭悪性腫瘍手術
抗精神病特定薬剤治療指導管理料(治療抵抗性統合失調症治療指導管理料に限る。)	喉頭形成手術(甲状軟骨固定用具を用いたもの)
医療保護入院等診療料	上顎骨形成術(骨移動に伴う場合に限る。)、下顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)
エタノールの局所注入(甲状腺)	上顎骨形成術(骨移動に伴う場合に限る。)(歯科)、下顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科)
エタノールの局所注入(副甲状腺)	乳がんセンチネルリンパ節加算1(併用法)
下肢末梢動脈疾患指導管理加算	乳がんセンチネルリンパ節加算2(単独法)
手術用顕微鏡加算	乳腺悪性腫瘍手術(乳輪温存乳房切除術(腋窩郭清を伴わないもの)及び乳輪温存乳房切除術(腋窩郭清を伴うもの))
口腔粘膜処置	ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術(乳房切除後)
CAD/CAM冠	胸腔鏡下拡大胸腺摘出術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
胸腔鏡下縦隔悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	体外衝撃波腎・尿管結石破碎術
胸腔鏡下良性縦隔腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	腹腔鏡下腎悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術(区域切除)(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	同種死体腎移植術
胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術(肺葉切除又は1肺葉を超えるものに限る)(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	生体腎移植術
胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術(気管支形成を伴う肺切除)	膀胱水圧拡張術
経皮的冠動脈形成術(特殊カテーテルによるもの)	腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術
経カテーテル大動脈弁置換術	精巣内精子採取術
経皮的僧帽弁クリップ術	腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術
胸腔鏡下弁形成術	腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
胸腔鏡下弁置換術	腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮頸がんに限る。)
不整脈手術 左心耳閉鎖術(胸腔鏡下によるもの)	腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに限る。)
経皮的中隔心筋焼灼術	腹腔鏡下子宮瘢痕部修復術
ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術(電池交換を含む。)	腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに対して内視鏡下手術用支援機器を用いる場合)
ペースメーカー移植術 リードレスペースメーカーの場合	胎児胸腔・羊水腔シャント術(一連につき)
両心室ペースメーカー移植術(心筋電極の場合)及び両心室ペースメーカー交換術(心筋電極の場合)	体外式膜型人工肺管理料
植込型除細動器移植術(心筋リードを用いるもの)及び植込型除細動器交換術(心筋リードを用いるもの)	胃瘻造設術(内視鏡下胃瘻造設術、腹腔鏡下胃瘻造設術を含む。)
両室ベージング機能付き植込型除細動器移植術(心筋電極の場合)及び両室ベージング機能付き植込型除細動器交換術(心筋電極の場合)	医科点数表第2床第10部手術の通則の19に掲げる手術 乳房切除術(遺伝性乳癌卵巣癌症候群の患者に対して行うものに限る)
大動脈バルーンパンピング法(IABP法)	医科点数表第2床第10部手術の通則の19に掲げる手術 子宮附属器腫瘍摘出術(遺伝性乳癌卵巣癌症候群の患者に対して行うものに限る)
経皮的循環補助療法(ポンプカテーテルを用いたもの)	輸血管管理料 I
補助人工心臓	輸血適正使用加算
植込型補助人工心臓(非拍動流型)	自己生体組織接着剤作成術
経皮的下肢動脈形成術	自己クリオプレシピテート作製術(用手法)及び同種クリオプレシピテート作製術
腹腔鏡下リンパ節群郭清術(傍大動脈)	人工肛門・人工膀胱造設前処置加算
腹腔鏡下リンパ節群郭清術(側方)	胃瘻造設時嚥下機能評価加算
腹腔鏡下胃切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	歯周組織再生誘導手術
腹腔鏡下噴門側胃切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	広範囲顎骨支持型装置埋入手術

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績						
No.	研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額(単位:円)	どちらかに○	補助元又は委託元名
1	microRNAを標的とした膵神経内分泌腫瘍の新規治療法の開発	内藤嘉紀	臨床検査部	20,000	補委	科学研究費助成事業(科研費)基盤研究(C)(分担)
2	胆汁細胞診における新たな診断区分の確立	内藤嘉紀	臨床検査部	2,000,000	補委	公益社団法人 日本臨床細胞学会 班研究課題
3	直腸癌局所再発に対する標準治療確立のための研究開発	藤田文彦	外科	300,000	補委	日本医療研究開発機構
4	局所進行胃癌に対する術前化学療法の有効性を検証する臨床第III相試験	磯邊太郎	外科	100,000	補委	日本医療研究開発機構
5	患者層別化マーカー探索技術の開発/医療ニーズの高い特定疾患・薬剤に対する患者層別化基盤技術の開発	赤木由人	外科	2,000,000	補委	日本医療研究開発機構
6	患者層別化マーカー探索技術の開発/医療ニーズの高い特定疾患・薬剤に対する患者層別化基盤技術の開発	藤吉健司	外科	200,000	補委	科学研究費助成事業(科研費)若手研究B
7	無莢膜型インフルエンザ菌による侵襲性感染症の病態解析	後藤 憲志	感染制御科	100,000	補委	千葉大学真菌医学研究センター共同研究
8	成人の侵襲性細菌感染症サーベイランスの強化のための研究	後藤 憲志	感染制御科	450,000	補委	厚生労働科学研究費(新興・再興感染症及び予防接種政策推進研究事業研究事業)
9	更なる「視覚の質」向上を目指した糖尿病網膜症に対する高精度医療の探索	吉田茂生	眼科	1,300,000	補委	科学研究費助成事業(科研費)基礎研究(C)
10	ケロイド+B12:B17発生に細胞内シグナルタンパクは関与するか?ノックアウトマウスを用いた解析	右田 尚	形成外科・顎顔面外科	2,730,000	補委	科学研究費助成事業(科研費)若手研究
11	PATはどのように生着するのか?~三次元血管構築と免疫細胞群の解析~	山内 大輔	形成外科・顎顔面外科	1,300,000	補委	科学研究費助成事業(科研費)若手研究
12	陳旧性顔面神経麻痺に対する咬筋を用いた多方向収縮ベクトルを持つ筋移行術の開発	原 茂	形成外科・顎顔面外科	1,300,000	補委	科学研究費助成事業(科研費)若手研究

No.	研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額(単位:円)	どちらかに○	補助元又は委託元名
13	最適な移植脂肪作製を目指して～採取・処理の違いによる細胞ダメージ機序の解明～	小山 麻衣	形成外科・顎顔面外科	1,040,000	補委	科学研究費助成事業(科研費) 若手研究
14	長期移植軟骨の軟骨量減少のメカニズム解明～蛍光イメージング手法を用いた解析～	力丸 由起子	形成外科・顎顔面外科	780,000	補委	科学研究費助成事業(科研費) 若手研究
15	感染性難治性足潰瘍に対するペプチドを併用した創内持続陰圧洗浄療法の開発	井野 康	形成外科・顎顔面外科	650,000	補委	科学研究費助成事業(科研費) 若手研究
16	創内ピンポイント持続陰圧洗浄療法での洗浄効率と適正陰圧の解明	坂田 憲亮	形成外科・顎顔面外科	400,000	補委	日本私立学校振興・共済事業団 若手研究者奨励金
17	成人T細胞白血病に対する移植後シクロフォスファミドを用いた非血縁者間末梢血幹細胞移植法の確立と移植後再発への対策に関する研究	長藤宏司	内科学講座 血液・腫瘍内科部門	260,000	補委	日本医療研究開発機構(AMED)
18	成人T細胞白血病/リンパ腫の治癒を目指したHTLV-1ウイルス標的樹状細胞ワクチン療法の確立: 薬事承認を目的とした第II相医師主導治験	長藤宏司	内科学講座 血液・腫瘍内科部門	1,040,000	補委	日本医療研究開発機構(AMED)
19	適切な末梢血幹細胞採取法の確立及びその効率的な普及による非血縁者間末梢血幹細胞移植の適切な提供体制構築と、それに伴う移植成績向上に資する研究	長藤宏司	内科学講座 血液・腫瘍内科部門	200,000	補委	厚生労働科学研究費
20	抗MDA5抗体陽性の皮膚筋炎患者の肺障害の分子免疫学的解析	星野 友昭	呼吸器・神経・膠原病内科	1,690,000	補委	科学研究費助成事業(科研費)基盤研究(C)
21	呼吸困難感の脳内基盤解明: 安静時機能的MRIによる解析	谷脇 考恭	呼吸器・神経・膠原病内科	1,300,000	補委	科学研究費助成事業(科研費)基盤研究(C)
22	重症好酸球性気管支ぜん息に対する個別化医療を目指した好酸球サブセットの基盤研究	川山 智隆	呼吸器・神経・膠原病内科	1,690,000	補委	科学研究費助成事業(科研費)基盤研究(C)
23	新規サイトカインIL-38の機能解明の基礎研究と新規治療薬の開発	富永 正樹	地域医療連携講座	390,000	補委	科学研究費助成事業(科研費)基盤研究(C)
24	マスト細胞を介したIgG4関連疾患組織繊維化メカニズム解析と治療への応用	海江田 信二郎	呼吸器・神経・膠原病内科	1,170,000	補委	科学研究費助成事業(科研費)基盤研究(C)
25	長期大規模コホートを用いた気管支ぜん息と肺の発育障害と生命予後に関する研究	佐々木 潤	呼吸器・神経・膠原病内科	1,690,000	補委	科学研究費助成事業(科研費)若手研究

No.	研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額(単位:円)	どちらかに○	補助元又は委託元名
26	自己炎症疾患PAC症候群におけるKIF7変異の炎症惹起メカニズムの解析	日高 由紀子	呼吸器・神経・膠原病内科	1,950,000	補委	科学研究費助成事業(科研費)若手研究
27	抗PD-1抗体療法におけるCXCL2による腫瘍免疫制御機構の解明	松尾 規和	呼吸器・神経・膠原病内科	130,000	補委	科学研究費助成事業(科研費)若手研究
28	自己炎症性疾患関連遺伝子SH3BP2およびKIF7の炎症惹起メカニズムの解明	井田 弘明	呼吸器・神経・膠原病内科	130,000	補委	科学研究費助成事業(科研費)基盤研究(C)
29	自己炎症性疾患とその類縁疾患の全国診療体制整備、移行医療体制の構築、診療ガイドライン確立に関する研究	井田 弘明	呼吸器・神経・膠原病内科	600,000	補委	難治性疾患政策研究事業(厚生労働科学研究費)
30	慢性閉塞性肺疾患患者における加熱式たばこの経年的な肺機能への影響に関する前向き観察研究	川山 智隆	呼吸器・神経・膠原病内科	150,000	補委	循環器病・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業(厚生労働科学研究費)
31	統合レジストリによる多発性筋炎/皮膚筋炎関連間質性肺疾患の個別化医療基盤の構築	星野 友昭	呼吸器・神経・膠原病内科	390,000	補委	難治性疾患実用化研究事業(AMED)
32	MEFV遺伝子の網羅的なVUS機能的アノテーションと新規Ex vivo assayを用いた患者細胞機能評価・詳細な遺伝子型解析の統合による家族性地中海熱の病態及びパイリンインフラマソーム活性化機構解明	井田 弘明	呼吸器・神経・膠原病内科	650,000	補委	ゲノム創薬基盤推進研究事業(AMED)
33	高齢者切除不能局所進行非小細胞肺癌に対する化学放射線療法のランダム化比較第Ⅲ相試験	東 公一	呼吸器・神経・膠原病内科	650,000	補委	革新的がん医療実用化研究事業(AMED)
34	患者層別化マーカー探索技術の開発/医療ニーズの高い特定疾患・薬剤に対する患者層別化基盤技術の開発	東 公一	呼吸器・神経・膠原病内科	14,300,000	補委	次世代治療・診断実現のための創薬基盤技術開発事業(AMED)
35	子宮内膜異型増殖症・子宮体癌妊孕性温存療法に対するメトホルミンの適応拡大にむけた多施設共同医師主導治験	牛嶋 公生	産婦人科	562,120	補委	臨床研究・治験推進研究事業(AMED)
36	上皮性卵巣癌の妊孕性温存治療の対象拡大のための非ランダム化検証的試験	牛嶋 公生	産婦人科	260,000	補委	革新的がん医療実用化研究事業(AMED)
37	妊娠28週未満発症の早産期前期破水妊婦に対するアジスロマイシン投与による気管支肺異形成の予防法の開発:第Ⅲ相,非盲検,ランダム化比較試験	吉里 俊幸	産婦人科	13,000	補委	成育疾患克服等総合研究事業(AMED)
38	子宮頸癌IB期-IIB期根治手術例における術後放射線と術後化学療法の第Ⅲ相ランダム化比較試験	西尾 真	産婦人科	65,000	補委	革新的がん医療実用化研究事業(AMED)

No.	研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額(単位:円)	どちらかに○	補助元又は委託元名
39	Sprouty2 による上皮間葉転換制御を介した扁平上皮癌転移抑制機構の解明	武富 孝治	歯科口腔医療センター	910,000	補委	科学研究費助成事業(科研費)基盤研究(C)
40	ヒトOSCCにおける抗PD-1抗体製剤の治療効果と癌幹細胞との関連に関する検討	轟 圭太	歯科口腔医療センター	650,000	補委	科学研究費助成事業(科研費)若手研究
41	喉頭乳頭腫における宿主局所免疫応答の解明	栗田 卓	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学	897,855	補委	科学研究費助成事業(科研費)若手研究
42	食道入口部括約機構における自律神経支配様式の解明	深堀光緒子	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学	2,282,675	補委	科学研究費助成事業(科研費)若手研究
43	ヒト声帯粘膜の組織幹細胞システム・微小環境の解明と再生医療への応用	佐藤 公則	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学	1,430,000	補委	科学研究費助成事業(科研費)基盤研究(C)
44	FIB/SEMトモグラフィー法、CLEM法による声帯の三次元的微細構造の解明	佐藤 公宣	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学	780,000	補委	科学研究費助成事業(科研費)若手研究
45	包括的評価法による嚥下機能改善手術の効果予測と手術適応の標準化	千年 俊一	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学	2,340,000	補委	科学研究費助成事業(科研費)基盤研究(C)
46	オーファンドラッグ開発基盤の構築	山下裕史朗	小児科	8,000,000	補委	株式会社 久留米リサーチパーク
47	原発性免疫不全症・自己炎症性疾患・早期発症型炎症性腸疾患の臨床ゲノム情報を連結した患者レジストリの構築研究	西小森 隆太	小児科	988,000	補委	難治性疾患実用化研究事業(AMED)
48	乾燥ろ紙血プロテオーム解析を用いた原発性免疫不全症診断の効率化研究	西小森 隆太	小児科	780,000	補委	難治性疾患実用化研究事業(AMED)
49	MEFV遺伝子の網羅的なVUS機能的アノテーションと新規Ex vivo assayを用いた患者細胞機能評価・詳細な遺伝子型解析の統合による家族性地中海熱の病態及びパイリンインフラマソーム活性化機構解明	西小森 隆太	小児科	13,000,000	補委	難治性疾患実用化研究事業(AMED)
50	自己炎症性疾患とその類縁疾患の全国診療体制整備、移行医療体制の構築、診療ガイドライン確立に関する研究	西小森 隆太	小児科	13,000,000	補委	難治性疾患等政策研究事業(厚生労働省)
51	原発性免疫不全症候群の診療ガイドライン改訂、診療提供体制・移行医療体制構築、データベースの確立に関する研究	西小森 隆太	小児科	1,000,000	補委	難治性疾患等政策研究事業(厚生労働省)

No.	研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額(単位:円)	どちらかに○	補助元又は委託元名
52	難治性・希少免疫疾患におけるアンメット ニーズの把握とその解決に向けた研究	西小森 隆太	小児科	代表者一括計上	補 委	免疫・アレルギー疾患政策研究 事業(厚生労働省)
53	細胞工学的手法によるエカルディ・グティ エール症候群の中樞神経系炎症の機序 解明	西小森 隆太	小児科	1,690,000	補 委	科学研究費助成事業(科研 費)基盤研究(C)
54	小児期発症自己免疫性肝疾患の新生児 バイオマーカーと病因遺伝子の探索	西小森 隆太	小児科	100,000	補 委	科学研究費助成事業(科研 費)基盤研究(C)
55	小児期発症自己免疫性間疾患の新規バ イオマーカーと病因遺伝子の探索	水落 建輝	小児科	2,210,000	補 委	科学研究費助成事業(科研 費)基盤研究(C)
56	小児ウイルス性肝炎患者の病態進展評価 及び治療選択に関する研究開発	水落 建輝	小児科	520,000	補 委	肝炎等克服実用化研究事業 肝炎等克服緊急対策研究事 業(AMED)
57	難治性小児消化器疾患の医療水準向上 および移行期・成人期のQOL向上に関す る研究	水落 建輝	小児科	200,000	補 委	難治性疾患政策研究事業 (厚生労働省)
58	交感神経細胞の分化転換が レット症候群の脳心連関システム 制御異常の原因か？	原宗嗣	小児科	1,470,000	補 委	科学研究費助成事業(科研費) 基盤研究(C)
59	レット症候群のグレリン投与による 治療メカニズムの解明～睡眠障害を改善 できるか～	弓削康太郎	小児科	1,700,000	補 委	科学研究費助成事業(科研費) 基盤研究(若手)
60	ICTと医療・健康・生活情報を活用した 「次世代型子ども医療支援システム」の 構築に関する研究	石井隆大	小児科	800,000	補 委	日本医療研究開発機構研究費 (AMED)
61	ウェスト症候群患者におけるガスクロマト/質 量分析(GC/MS)を用いた尿中代謝プロファイル 解析	小池敬義	小児科	210,000	補 委	住友ファーマ株式会社 SMP研 究サポート
62	親と死別した大学生を対象とした複雑性悲嘆 の早期発見、予防プログラムの開発	吉塚梯子	小児科	800,000	補 委	公益財団法人川野小児医学奨 学財団 第33回研究助成(若手 枠)
63	オキシステロールは胆道閉鎖症のバイオ マーカーとして有用か？	安田 亮輔	小児科	910,000	補 委	科学研究費助成事業(科研 費)若手研究
64	児童虐待予防に向けた地域母子保健連 携の戦略モデルに関する研究	酒井 さやか	小児科	1,560,000	補 委	科学研究費助成事業(科研 費)若手研究

No.	研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額(単位:円)	どちらかに○	補助元又は委託元名
65	身体的・精神的・社会的 (biopsychosocial) に乳幼児・学童・思春期の健やかな成長・発達をポピュレーションアプローチで切れ目なく支援するための社会実装化研究	酒井 さやか	小児科	代表者一括計上	補委	成育疾患克服等次世代育成基盤研究事業(健やか次世代育成総合研究事業)(厚生労働省)
66	脂肪肝を背景とする代謝関連がん発生の病態解明に関する研究	川口 巧	消化器内科	3,900,000	補委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構(AMED) 肝炎等克服実用化研究事業(肝炎等克服緊急対策研究事業)
67	筋肉-肝臓連関と代謝、免疫の包括的理解を基軸とした慢性肝疾患患者の予後改善に資する研究	川口 巧	消化器内科	3,250,000	補委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構(AMED) 肝炎等克服実用化研究事業(肝炎等克服緊急対策研究事業)
68	高ぶり応力を伴う循環器疾患に随伴する消化管血管異形成の形成・消退の実態解明	川口 巧	消化器内科	260,000	補委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構(AMED) 難治性疾患実用化研究事業
69	非ウイルス性を含めた肝疾患のトータルケアに資する人材育成等に関する研究	川口 巧	消化器内科	300,000	補委	厚生労働行政推進調査事業費補助金(肝炎等克服政策研究事業)
70	マイオカインdecorinによるNASH関連肝癌抑制効果の検討	川口 巧	消化器内科	1,040,000	補委	科学研究費助成事業(科研費)基盤研究(C)
71	全国規模の肝炎ウイルス感染状況の把握及びウイルス性肝炎eliminationに向けた方策の確立に資する疫学研究	古賀 浩徳	消化器内科	1,000,000	補委	厚生労働科学研究費補助金(肝炎等克服政策研究事業)
72	C型肝炎ウイルスに起因する肝硬変患者に対するG-CSF動員自家末梢血CD34陽性細胞の経肝動脈投与に関する臨床研究	中村 徹	消化器内科	34,115,723	補委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構(AMED) 再生医療実用化研究事業
73	CD34陽性細胞を用いたNASHに対する肝再生治療の機序解明と血管幹細胞への影響	中村 徹	消化器内科	1,690,000	補委	科学研究費助成事業(科研費)基盤研究(C)
74	NASH治療を目的とした革新的BDDS製剤の創出	増田 篤高	消化器内科	780,000	補委	科学研究費助成事業(科研費)若手研究
75	SGLT2阻害剤の肝癌微小環境への影響	中野 暖	消化器内科	1,950,000	補委	科学研究費助成事業(科研費)若手研究
76	非ウイルス性を含めた肝疾患のトータルケアに資する人材育成等に関する研究	井出達也	消化器内科	300,000	補委	肝炎等克服政策研究事業(厚生労働省)
77	新たな手法を用いた肝炎ウイルス検査受検率・陽性者受診率の向上に資する研究	井出達也	消化器内科	500,000	補委	肝炎等克服政策研究事業(厚生労働省)

No.	研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額(単位:円)	どちらかに○	補助元又は委託元名
78	ネットワーク社会における地域の特性に応じた肝疾患診療連携体制構築に資する研究	井出達也	消化器内科	1,000,000	補委	肝炎等克服政策研究事業(厚生労働省)
79	心筋障害ストレスに対する線維芽細胞の活性化制御におけるSTAT/SOCSの役割	安川秀雄	保健管理センター/ 心臓・血管内科	1,170,000	補委	科学研究費助成事業(科研費)基盤研究(C)
80	病態特異的免疫グロブリンで制御される大動脈解離メカニズムの解明	古庄 文	心臓・血管内科	1,300,000	補委	科学研究費助成事業(科研費)基盤研究(C)
81	一般住民において血清IGF-Iが動脈硬化性疾患と認知機能に与える影響	野原 夢	心臓・血管内科	1,170,000	補委	科学研究費助成事業(科研費)基盤研究(C)
82	医療用ビッグデータを用いた本邦における抗がん剤治療後の心血管疾患発症の実態解明	野原正一郎	心臓・血管内科	780,000	補委	科学研究費助成事業(科研費)基盤研究(C)
83	恒常性維持機構から解明する大動脈解離の分子病態:制御性T細胞の役割	橋本洋平	心臓・血管内科	1,300,000	補委	科学研究費助成事業(科研費)基盤研究(C)
84	大動脈解離における破壊性炎症の増幅機構:フィブリン免疫複合体の役割	柴田 怜	心臓・血管内科	1,430,000	補委	科学研究費助成事業(科研費)基盤研究(C)
85	血管形成術後の慢性血栓栓性肺高血圧症再燃を肺動脈の微小血管抵抗指数で予測する	佐々木健一郎	循環器病センター	1,430,000	補委	科学研究費助成事業(科研費)基盤研究(C)
86	一般住民における血中オキシトシン値と認知機能維持や抑うつ状態緩和との関連	榎本美佳	心臓・血管内科	1,690,000	補委	科学研究費助成事業(科研費)基盤研究(C)
87	心肺蘇生術普及のためのKURUME MODELの構築~学童へのアプローチ~	大塚麻樹	高度救命救急センター	1,950,000	補委	科学研究費助成事業(科研費)基盤研究(C)
88	虚血再灌流障害に対する心筋保護機構におけるIL-22結合タンパクの役割の解明	高橋甚彌	心臓・血管内科	1,690,000	補委	科学研究費助成事業(科研費)基盤研究(C)
89	虚血心筋細胞生存の病態解明 線維芽細胞のJAK/STAT3/SOCS3経路の探求	岡部浩太	心臓・血管内科	1,690,000	補委	科学研究費助成事業(科研費)基盤研究(C)
90	梗塞後心筋リモデリングの病態におけるIL22結合蛋白の役割の解明	赤垣大樹	心臓・血管内科	1,560,000	補委	科学研究費助成事業(科研費)基盤研究(C)

No.	研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額(単位:円)	どちらかに○	補助元又は委託元名
91	大動脈解離病態の統合的理解を目指して:細胞老化と液性免疫の役割	中尾英智	心臓・血管内科	1,560,000	補委	科学研究費助成事業(科研費)基盤研究(C)
92	大動脈解離分子病態における癌原遺伝子c-Mycの機能解明	伊東壮平	心臓・血管内科	2,340,000	補委	科学研究費助成事業(科研費)若手研究
93	軽度認知機能障害における血清エクソソーム内アンジオテンシノーゲン値の臨床的意義	森川 渚	心臓・血管内科	2,340,000	補委	科学研究費助成事業(科研費)若手研究
94	アミロイドーシスに関する調査研究	田原宣広	循環器病センター	200,000	補委	疾病・障害対策研究分野難治性疾患政策研究(厚生労働省)
95	全身性強皮症に伴う皮膚潰瘍に対する自家骨髄単核球移植を用いた血管再生療法に関する研究開発	福本義弘	心臓・血管内科	863,840	補委	再生医療実用化研究事業(AMED)
96	包括的高度慢性下肢虚血に対し、筋組織酸素飽和度(StO2)をモニタリングする近赤外線分光装置(NIRS)を使用した至適運動療法を確立する研究	福本義弘	心臓・血管内科	1,950,000	補委	再生医療実用化研究事業(AMED)
97	高ずり応力を伴う循環器難病に随伴する消化管血管異形成の形成・消退の実態解明	福本義弘	心臓・血管内科	260,000	補委	難治性疾患実用化研究事業(AMED)
98	ARICコホートにおける栄養調査データを用いたCTでの冠動脈石灰化進展に関する前向き疫学調査	野原 夢	心臓・血管内科	1,000,000	補委	2022年度公益信託九州大学医学部同窓会国際研究助成基金
99	大動脈解離の分子病態における血管周囲脂肪組織の役割	大野聡子	循環器病センター	250,000	補委	令和4年度 久留米大学内村助成金 女性研究者枠
100	アルドステロン値と心肥大の関連～10年間の田主丸研究より～	佐藤宏美	心臓・血管内科	300,000	補委	令和4年度久留米大学石橋学術振興基金助成金 研究支援プログラム制度
101	AKI-toCKDにおけるBreg-1K-10系の動態解明と治療法の開発	深水 圭	腎臓内科	1,950,000	補委	科学研究費助成事業(科研費)基盤研究(C)
102	母子保健からはじまるCKD予防のモデル地区をめざして	甲斐田 裕介	腎臓内科	715,000	補委	科学研究費助成事業(科研費)基盤研究(C)
103	エリスポエチン受容体を介した急性腎障害の新規治療法の開発	中山 陽介	腎臓内科	1,300,000	補委	科学研究費助成事業(科研費)若手研究(B)

No.	研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額(単位:円)	どちらかに○	補助元又は委託元名
104	電界放出形走査電子顕微鏡を用いた糸球体足細胞変化の解析	實吉 帝奈	腎臓内科	400,000	補委	日本私立学校振興・共済事業団 若手研究者奨励金
105	脊柱靭帯骨化症に関する調査研究	佐藤 公昭	整形外科	250,000	補委	厚生労働科学研究費補助金(難治性疾患政策研究事業)
106	独自開発・革新性能の増殖制御型アデノウイルスの骨腫瘍(希少・難治性がん)承認への第Ⅱ相医師主導治験	平岡 弘二	整形外科	4,420,000	補委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構(AMED) 革新的がん医療実用化研究事業
107	進行軟部肉腫に対する二次治療における標準治療の開発のための研究	平岡 弘二	整形外科	650,000	補委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構(AMED) 革新的がん医療実用化研究事業
108	変形性膝関節症に対するJAK阻害薬 Peficitinibの効果	大園宏城	整形外科	1,300,000	補委	科学研究費助成事業(科研費) 若手研究
109	IL-6とオステオカルシンを介した筋骨格関連に効果的な運動療法の開発に関する研究	松瀬 博夫	リハビリテーション部	1,430,000	補委	文部科学省科学研究費(基盤C)
110	CO中毒による高次脳機能障害患者の経年変化や環境変化に対応した包括的リハビリテーション・支援モデルに関する研究	松瀬 博夫	リハビリテーション部	9,861,000	補委	労災疾病臨床研究事業費補助金
111	睡眠障害・睡眠ポリグラフデータバンク構築研究	小曾根 基裕	精神神経科	800,000	補委	精神・神経疾患研究開発費(国立研究開発法人国立精神・神経医療センター(NCNP))
112	生活習慣病等疾病予防と介護予防との一体的実施を可能にする通いの場のモデル構築	小路 純央	精神神経科	260,000	補委	科学研究費助成事業(科研費) 基盤研究(C)
113	ベンゾジアゼピン受容体作動薬の減量・中止をめざして:うつ病治療での前向き研究	土生川 光成	精神神経科	780,000	補委	科学研究費助成事業(科研費) 基盤研究(C)
114	トラウマへの気づきを高める“人-地域-社会”によるケアシステムの構築	大江 美佐里	精神神経科	390,000	補委	戦略的創造研究推進事業(国立研究開発法人科学技術振興機構(JST))
115	トラウマ関連障害への認知処理療法の有効性及び作用機序の検証と適用拡大	大江 美佐里	精神神経科	390,000	補委	科学研究費助成事業(科研費) 基盤研究(B)
116	青少年の心的外傷後ストレス関連障害への認知処理療法の効果検証と導入プログラム開発	大江 美佐里	精神神経科	195,000	補委	科学研究費助成事業(科研費) 基盤研究(C)

No.	研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額(単位:円)	どちらかに○	補助元又は委託元名
117	もの忘れ予防検診を通じた聴覚障害に関連する包括的研究と支援体制の構築	柳本 寛子	精神神経科	2,730,000	補 委	科学研究費助成事業(科研費) 基盤研究(C)
118	精神疾患患者の子ども支援;主治医、患者、患者の子、3方向同時心理教育ツールの作成	松岡 美智子	精神神経科	1,040,000	補 委	科学研究費助成事業(科研費) 若手研究
119	怒り・攻撃性がcomplex PTSD症状に及ぼす影響に関する研究	千葉 比呂美	精神神経科	1,040,000	補 委	科学研究費助成事業(科研費) 若手研究
120	高齢者の運転安全性向上を目指した運転適性評価法の構築	児玉 英也	精神神経科	2,860,000	補 委	科学研究費助成事業(科研費) 基盤研究(C)
121	Complex PTSDにおける嗜癮問題の臨床心理学的理解と介入プログラムの作成	石田 哲也	精神神経科	1,040,000	補 委	科学研究費助成事業(科研費) 若手研究
122	ミトコンドリアダイナミクスが制御するATPシグナル	野村 政壽	内分泌代謝内科	1,560,000	補 委	独立行政法人日本学術振興会科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金:基盤研究(C))
123	細胞内コルチゾール過剰作用による脂肪・骨格筋・骨の老化進展機構の解明	蘆田 健二	内分泌代謝内科	1,170,000	補 委	独立行政法人日本学術振興会科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金:基盤研究(C))
124	細胞外ATPによる肝臓VLDL分泌促進の分子機構	蓮澤 奈央	内分泌代謝内科	1,560,000	補 委	独立行政法人日本学術振興会科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金:若手研究)
125	GnRHシグナル制御による動脈硬化抑制作用の解明	永山 綾子	内分泌代謝内科	1,950,000	補 委	独立行政法人日本学術振興会科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金:基盤研究(C))
126	脳内出血の転帰改善を目指した選択的・積極的・短時間降圧療法の開発	森岡基浩	脳神経外科	700,000	補 委	文部科研 基盤研究C(代表)
127	脳循環変化に伴う有害事象を予測する、新たな術中モニタリングシステムの開発	河野隆幸	脳神経外科	600,000	補 委	文部科研 基盤研究C(代表)
128	Cellm-001による初発膠芽腫治療効果無作為比較対照試験に関する医師主導治験	中村英夫	脳神経外科	500,000	補 委	東京女子医大との共同研究(AMES補助事業)(分担)
129	脳表用反射型パルスオキシメトリデバイスを用いた術中脳血流測定の有用性の検証	坂田清彦	脳神経外科	1,900,000	補 委	石橋財団研究助成(代表)

No.	研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額(単位:円)	どちらかに○	補助元又は委託元名
130	漢方薬と抗PD-1抗体併用による抗腫瘍効果と腸内細菌叢の変化に関する検討	植田 浩介	泌尿器科	1,000,000	補 委	科学研究費助成事業(科研費) 若手研究(B)
131	FIB/SEMを用いた射精障害における精管間質細胞の3D超微細構造解析	広重 佑	泌尿器科	900,000	補 委	科学研究費助成事業(科研費) 若手研究(B)
132	天疱瘡における好中球及び好酸球活性化機序の解明と医学的応用に関する研究	石井文人	皮膚科	700,000	補 委	科学研究費助成事業(科研費) 基盤研究(C)
133	CLEM-FIB/SEMを用いた接触皮膚炎惹起相におけるiSALTの三次元構築	夏秋 洋平	皮膚科	2,295,476	補 委	科学研究費助成事業(科研費) 基盤研究(C)
134	表皮角化細胞が血球へ:表皮に内在する新規万能幹細胞に関する基礎的研究	辛島 正志	皮膚科	1,300,000	補 委	科学研究費助成事業(科研費) 基盤研究(C)
135	子宮頸癌の化学放射線療法におけるPD-L1とCD8陽性T細胞の動態研究	宮田 裕作	放射線科	1,785,266	補 委	科学研究費助成事業(科研費) 若手研究
136	子宮腔内照射による酸素濃度の変化が子宮頸癌の予後に与える影響	宮田 裕作	放射線科	2,730,000	補 委	科学研究費助成事業(科研費) 基盤研究(C)
137	DREADOシステムを利用した脊髄後角HCN4をターゲットとした疼痛治療開発	大下 健輔	麻酔科	1,040,000	補 委	科学研究費助成事業(科研費) 若手研究
138	B型肝炎の個別化医療を目指した臨床ゲノム改変に関する研究と肝炎データストレージの活用法	矢野 博久	病理学(1)	3,900,000	補 委	肝炎等克服実用化研究事業(AMED)
139	肝細胞癌の門脈浸潤の制御分子の同定	矢野 博久	病理学(1)	520,000	補 委	科学研究費助成事業(科研費) 基盤研究(C)
140	異常間質細胞を軸とする微小環境ネットワークによるリンパ腫の支持機構の解明	三好 寛明	病理学(2)	390,000	補 委	科学研究費助成事業(科研費) 基盤研究(B)
141	HTLV-1キャリアおよび成人T細胞性白血病リンパ腫患者における病態進展の解明	山田 恭平	病理学(2)	780,000	補 委	科学研究費助成事業(科研費) 若手研究
142	ホジキン様ATLLと古典的ホジキンリンパ腫の周囲環境	大島 孝一	病理学(2)	1,300,000	補 委	科学研究費助成事業(科研費) 基盤研究(C)

No.	研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額(単位:円)	どちらかに○	補助元又は委託元名
143	膠芽腫の標準治療後病勢を診断する血液バイオマーカーの実用化	古田 拓也	病理学(2)	1,300,000	補 委	革新的がん医療実用化研究事業(AMED)
144	悪性リンパ腫における異常間質細胞の多様性と臨床的特特性の解明	三好 寛明	病理学(2)	2,600,000	補 委	革新的がん医療実用化研究事業(AMED)
145	成人固形がんに対する標準治療確立のための基盤研究	大島 孝一	病理学(2)	1,992,223	補 委	国立がん研究センター研究開発費
146	膠芽腫微小環境が形成する治療抵抗性の解明	古田 拓也	病理学(2)	1,300,000	補 委	科学研究費助成事業(科研費) 基盤研究(C)
147	膠芽腫医療に抜本的変革をもたらす血液バイオマーカーの分子基盤の構築	古田 拓也	病理学(2)	780,000	補 委	科学研究費助成事業(科研費) 基盤研究(A)
148	ホジキンリンパ腫における免疫微小環境のデジタル空間プロファイリング	竹内 真衣	病理学(2)	1,690,000	補 委	科学研究費助成事業(科研費) 基盤研究(C)
149	細胞組織形態に基づく病型識別器の構築と悪性リンパ腫の異型性解析基盤の実現	大島 孝一	病理学(2)	390,000	補 委	科学研究費助成事業(科研費) 基盤研究(B)
150	細胞組織形態に基づく病型識別器の構築と悪性リンパ腫の異型性解析基盤の実現	三好 寛明	病理学(2)	390,000	補 委	科学研究費助成事業(科研費) 基盤研究(B)
151	成人T細胞白血病/リンパ腫の治療を目指したHTLV-1ウイルス標的樹状細胞ワクチン療法の確立:薬事承認を目的とした第Ⅱ相医師主導治験	大島 孝一	病理学(2)	1,040,000	補 委	革新的がん医療実用化研究事業(AMED)
152	未治療高腫瘍量濾胞性リンパ腫に対するオビヌツズマブ+ベンダムスチン療法後のオビヌツズマブ維持療法の省略に関するランダム化第Ⅲ相試験	大島 孝一	病理学(2)	1,950,000	補 委	革新的がん医療実用化研究事業(AMED)
153	慢性活動性EBV病の疾患レジストリ情報に基づく病型別根治療法の確立	大島 孝一	病理学(2)	150,000	補 委	厚生労働科学研究費補助金(難治性疾患政策研究事業)
154	信頼できる悪性リンパ腫病理診断AIシステムの構築と実証	大島 孝一	病理学(2)	10,400,000	補 委	戦略的創造研究推進事業(CREST事業)
155	CHI3L1を介したp53抑制による早期大腸発癌メカニズム	溝口恵美子	免疫学講座	1,000,000	補 委	科研費 基盤研究(C)

No.	研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額(単位:円)	どちらかに○	補助元又は委託元名
156	臍帯血幹細胞&ペプチド強化型新規治療開発による腸管不全患者の静脈栄養完全離脱	加治 建	小児外科	1,160,000	補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究(C)
157	新生児壊死性腸炎の死亡0を目指した核酸医薬RAGEアプタマーによる革新的治療法の開発	古賀 義法	小児外科	1,310,000	補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究(C)
158	プリンシパル制御による代謝・炎症を標的とした多元的IFALD治療法の創出	古賀 義法	小児外科	30,000	補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究(C)
159	核酸医薬品(DNAアプタマー)による糖尿病性腎症の新規治療法の開発	古賀 義法	小児外科	50,000	補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究(C)
160	食道機能検査による小児消化器症状の病態の可視化と治療法の確立	升井 大介	小児外科	1,400,000	補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業 若手研究
161	短腸症候群への経肛門的短鎖脂肪酸投与によるIFALD予防の可能性探索	橋詰 直樹	小児外科	1,600,000	補委	日本学術振興会 科学研究費助成事業 若手研究

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること
2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入す

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題 名	雑誌名・出版年月等	論文種別 (リストから選択)
1	Naito Y, Notohara K, Omori Y, et al.	臨床検査部	Diagnostic Categories and Key Features for Pathological Diagnosis of Endoscopic Ultrasound-Guided Fine Needle Aspiration Biopsy Samples of Pancreatic Lesions: A Consensus Study	Pancreas . 2022 Oct 1;51(9):1105-1111.	Original Article
2	Naito Y, Akiba J, Kinjo Y, et al.	臨床検査部	Predictive and Prognostic Value of SUOX Expression in Pancreatic Ductal Adenocarcinoma	Anticancer Res . 2022 Aug;42(8):4145-4151.	Original Article
3	Nishida T, Kono T, Takagi K, Tayama E, et al	外科	Right-parasternal approach for aortic valve replacement and ascending aortic repair after ante-thoracic route gastric tube reconstruction	JOURNAL OF CARDIAC SURGERY 37(12) : 2022 Dec ; 5505-5508	Case report
4	Kono T, Takagi K, Negoto S, et al	外科	Anterior Papillary Muscle Rupture due to Acute Myocardial Microinfarction of the Small High Lateral Branch	Case Reports in Cardiology 2022 Jul ; 7149724.	Case report
5	Kono T, Takaseya T, Takagi K, et al.	外科	Hypo-attenuated leaflet thickening after Perceval sutureless bioprosthesis implantation	JOURNAL OF CARDIAC SURGERY 37(11) : 2022 Nov ; 3928-3931	Case report
6	Imai S, Tahara N, Igata S, et al	外科	Vascular/perivascular inflammation in IgG4-related disease	Journal of Nuclear cardiology 29(6): 2022 Dec ; 2920-2933	Original Article
7	TAKAHIRO SHIGAKI	外科学	Mismatch repair proteins expression and tumor-infiltrating T-cells in colorectal cancer	ONCOLOGY LETTERS.September 21, 2022 24; 396	Original Article
8	Nakayama G	外科学	Tumour Budding as an Independent Prognostic Factor for Survival in Patients With Distal Bile Duct Cancer	Anticancer research. 2022 Aug 42; 4079-4087	Original Article
9	SUGURU OGATA	外科学	Experimental Exploration for Genes Related to Susceptibility and Resistance to Irinotecan	Anticancer research.2022 Aug 42; 4011-4016	Original Article
10	TETSUSHI KINUGASA	外科学	Chitinase 3-like 1, Carcinoembryonic Antigen-related Cell Adhesion Molecule 6, and Ectopic Claudin-2 in the Carcinogenic Processes of Ulcerative Colitis	Anticancer research.August 2022 42; 4119-4127	Original Article
11	hideaki kaku	外科学	Significance of Intraperitoneal-free KRT20 and CEACAM6 mRNA Expression for Peritoneal Recurrence of Gastric Cancer	Anticancer research.2022 Aug 42; 4003-4010	Original Article
12	Uhi Toh	外科学	Efficacy and Safety of Monthly Minodronate Therapy in Postmenopausal Breast Cancer Patients Receiving Aromatase Inhibitors	Anticancer research.2022 Aug 42; 4139-4143	Original Article
13	Fujiyoshi K	外科学	Risk of first onset of colorectal cancer associated with alcohol consumption in Lynch syndrome: a multicenter cohort study	International Journal of Clinical Oncology 2022 Jun	Original Article
14	Miyake A, Gotoh K, Iwahashi J, et al.	感染制御科	Characteristics of Biofilms Formed by C. parapsilosis Causing an Outbreak in a Neonatal Intensive Care Unit.	J Fungi (Basel). 2022 Jul 1;8(7):700. doi: 10.3390/jof8070700. (オンライン)	Original Article
15	Sakamoto T, Gotoh K, Hashimoto K, et al.	感染制御科	Risk Factors and Clinical Characteristics of Patients with Ocular Candidiasis.	J Fungi (Basel). 2022 May 11;8(5):497. doi: 10.3390/jof8050497. (オンライン)	Original Article
16	Itou J, Furushima K, Haruta M, et al.	眼科	Reduced size of telangiectatic capillaries after intravitreal injection of anti-vascular endothelial growth factor agents in diabetic macular edema	Clin Ophthalmol. 2023 Jan; 17: 239-45	Original Article
17	Sakata K, Rikimaru H, Rikimaru-Nishi Y, et al.	形成外科・顎顔面外科	Application of Neck Lift Technique for Corrections of Concave Deformity and Scar Contracture After Tracheal Fenestration	The journal of Craniofacial Surgery. 2022 May; 33(3): 913-915	Case report
18	Hirashima S, Ohta K, Rikimaru-Nishi Y, et al.	解剖学講座 顕微解剖・生体形成部門	Correlative volume-imaging using combined array tomography and FIB-SEM tomography with beam deceleration for 3D architecture visualization in tissue	Microscopy. 2022 Jun; 71(3): 187-192	Others

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題 名	雑誌名・出版年月等	論文種別 (リストから選択)
19	Han A, Inoue E, Kikuchi K, et al.	解剖学講座 顕微解剖・生体形成部門	Gross anatomical study of the subcutaneous structures that create the three-dimensional shape of the buttocks	Clinical Anatomy. 2023 Mar; 36: 297-307	Original Article
20	Hashiguchi S, Hayakawa K, Inoue E, et al.	形成外科・顎顔面外科	An Anatomical Dissection Method for Observation of Fibrous Facial Structures	Plastic and Reconstructive Surgery. 2023 Mar; 151(3): 569-579	Original Article
21	Osaki K, Sogabe Y, Seki R, et al.	内科学講座 血液・腫瘍内科部門	Factor VII Deficiency Due to Compound Heterozygosity for the p.Leu13Pro Mutation and a Novel Mutation in the HNF4 Binding Region (-58G>C) in the F7 Promoter	Kurume Med J. 2022 Nov 16;67(2.3):83-89.	Original Article
22	東 公一	呼吸器神経膠原病内科	Clinical significance of plasma-free amino acids and tryptophan metabolites in patients with non-small cell lung cancer receiving PD-1 inhibitor: a pilot cohort study for developing a prognostic multivariate model.	J Immunother Cancer. 2022 May;10(5):e004420.	Original Article
23	恒吉 信吾	呼吸器神経膠原病内科	Poor Asthma Control in Schoolchildren May Lead to Lower Lung Function Trajectory from Childhood to Early Adulthood: A Japanese Cohort Study.	J Asthma Allergy. 2022 Jun 30;15:885-896.	Original Article
24	原田 裕美	呼吸器神経膠原病内科	Clinical Characteristics of Anti-TIF-1 γ Antibody-Positive Dermatomyositis Associated with Malignancy.	J Clin Med. 2022 Apr;11(7):1925.	Original Article
25	海江田 信二郎	呼吸器神経膠原病内科	Mast cells can produce transforming growth factor β 1 and promote tissue fibrosis during the development of Sjögren's syndrome-related sialadenitis.	Mod Rheumatol. 2022 Jul 1;32(4):761-769.	Original Article
26	古賀 琢磨	呼吸器神経膠原病内科	Positive Autoantibody Is Associated with Malignancies in Patients with Idiopathic Interstitial Pneumonias.	Biomedicines. 2022 Oct 2;10(10):2469.	Original Article
27	Takaharu Taketomi, Ken Nakamura, Terukazu Sanui, et al.	歯科口腔医療センター	Basal cell adenoma of the minor salivary glands in the buccal mucosa : A case report and literature review.	Oral and Maxillofacial Surgery Cases 8(3) ,2022 Sep	Case report
28	Shinozaki K, Kikuta S, Matsuo K, et al.	歯科口腔医療センター	An extremely rare case of the metastatic small cell neuroendocrine carcinoma of the mandible originating from the lung.	Journal of Oral and Maxillofacial Surgery, Medicine, and Pathology 34(5), P.628-632, September 2022	Case report
29	Kiminobu Sato, Takashi Kurita, Fumihiko Sato, et al.	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学	Three-dimensional fine structures of the maculae flavae of the human vocal fold using correlative light and electron microscopy	Laryngoscope Investig Otolaryngol 7: 1943-1950, 19 October 2022	Original Article
30	Kiminori Sato, Shun-ichi Chitose, Fumihiko Sato, et al.	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学	Ultrastructures of colony-forming tissue stem cells in the human newborn vocal fold mucosa in vivo.	Larynx Japan 34: 151-156, 2022 Dec	Original Article
31	Takeharu Ono, Norimitsu Tanaka, Shun-ichi Chitose, et al.	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学	Comparative Treatment Outcome in T3N0 Glottic Cancer With and Without Vocal Fold Fixation Receiving Radiation Therapy and Concurrent Low-Dose IntraArterial Cisplatin Infusion	Ann Otol Rhinol Laryngol 131: 897-904, 2022 Aug	Original Article
32	Nagamitsu S, Kanie A, Sakashita K., et al.	小児科	Adolescent health promotion interventions using well-care visits and a smartphone cognitive behavioral therapy app: Randomized controlled trial	JMIR mhealth and uhealth 2022 May 23. doi: 10.2196/34154	Original Article
33	Ishii R, Obara H, Nagamitsu S, Matsuoka M., et al.	小児科	The Japanese version of the children's sleep habits questionnaire (GSHQ-J): A validation study and influencing factors.	Brain Dev. 2022 Oct;44(9):595-604.	Original Article
34	Yae Y, Yuge K, Maeda T., et al.	小児科	Exploratory evaluation of an eye-tracking system in patients with advanced spinal muscular atrophy type I receiving nusinersen	Front Neurol doi: 10.3389/fneur.2022 Sep 30.918255	Original Article
35	Matsuoka M, Matsuishi T, Nagamitsu S., et al.	小児科	Sleep disturbance has the largest impact on children's behavior and emotions	Front Pediatr 2022 November DOI: 10.3389/fped.2022.1034057	Original Article
36	Sakaguchi H, Konishi KI, Yasuda R, et al.	小児科	Serum matrix metalloproteinase-7 in biliary atresia: A Japanese multicenter study.	Hepatol Res. 2022 May;52(5):479-487.	Original Article

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題 名	雑誌名・出版年月等	論文種別 (リストから選択)
37	Ishihara J, Arai K, Kudo T, Nambu R, et al.	小児科	Serum Zinc and Selenium in Children with Inflammatory Bowel Disease: A Multicenter Study in Japan.	Dig Dis Sci. 2022 Jun;67(6):2485-2491.	Original Article
38	Mizuochi T, Takei H, Nittono H, et al.	小児科	Inborn errors of bile acid metabolism in Japan.	Pediatr Int. 2023 Jan;65(1):e15490.	Review
39	Fukunaga S, Nakano D, Tsutsumi T,他	消化器内科	Lean/normal-weight Metabolic Dysfunction-Associated Fatty Liver Disease is a Risk Factor for Reflux Esophagitis	Hepatology Research 2022 Aug;52: 699-711	Original Article
40	Arinaga-Hino T, Ide T, Akiba J, 他	消化器内科	Growth differentiation factor 15 as a novel diagnostic and therapeutic marker for autoimmune hepatitis	Scientific Reports 2022 May; 12: 8759	Original Article
41	Shirono T, Iwamoto H, Niizeki T, 他	消化器内科	Durable complete response is achieved by balloon-occluded transcatheter arterial chemoembolization for hepatocellular carcinoma	Hepatology Communications 2022 Sep; 6: 2594-2604	Original Article
42	Tanaka T, Suzuki H, Miwa K,他	消化器内科	Hyperlipidemia as a risk factor for Trousseau syndrome-related cerebral infarction in patients with advanced gastrointestinal cancer	Oncology Letters 2022 Jul; 24: 318	Original Article
43	Tsutsumi T, Nakano D, Kawaguchi M,他	消化器内科	MAFLD associated with COPD via systemic inflammation independent of aging and smoking in men	Diabetology & Metabolic Syndrome 2022 Aug; 14: 115	Original Article
44	Hisanaga H, Takedatsu H, Emori K,他	消化器内科	Effect of Direct-Acting Antiviral Agents on Gastroesophageal Varices in Patients with Hepatitis C Virus-Related Cirrhosis	Medicina (Kaunas) 2022 Aug; 58: 1077	Original Article
45	Shimose S, Iwamoto H, Tanaka M, 他	消化器内科	Association between Adverse Events and Prognosis in Patients with Hepatocellular Carcinoma Treated with Atezolizumab Plus Bevacizumab: A Multicenter Retrospective Study	Cancers 2022 Sep; 14: 4284	Original Article
46	Nakano D, Akiba J, Tsutsumi T,他	消化器内科	Hepatic expression of sodium-glucose cotransporter 2 (SGLT2) in patients with chronic liver disease	Medical Molecular Morphology 2022 Sep; 55: 304-315	Original Article
47	Sakai M, Kawaguchi T, Koya S,他	消化器内科	Subcutaneous Fat Thickness of the Lower Limb is Associated with Trunk Muscle Mass in Patients with Hepatocellular Carcinoma: A Simple Assessment for Sarcopenia Using Conventional Ultrasonography	The Kurume Medical Journal 2022 Sep; 67: 97-105	Original Article
48	Shimose S, Hiraoka A, Tanaka M, 他	消化器内科	Deterioration of liver function and aging disturb sequential systemic therapy for unresectable hepatocellular carcinoma	Scientific Reports 2022 Oct; 12: 17018	Original Article
49	Niizeki T, Tokunaga T, Takami Y, 他	消化器内科	Comparison of Efficacy and Safety of Atezolizumab Plus Bevacizumab and Lenvatinib as First-Line Therapy for Unresectable Hepatocellular Carcinoma: A Propensity Score Matching Analysis	Targeted Oncology 2022 Nov; 17: 643-653	Original Article
50	Morita M, Takedatsu H, Yoshioka S, 他	消化器内科	Utility of Diagnostic Colonoscopy in Pediatric Intestinal Disease	Journal of Clinical Medicine 2022 Sep; 11:5747	Original Article
51	Iwamoto H, Niizeki T, Nagamatsu H, 他	消化器内科	The Clinical Impact of Hepatic Arterial Infusion Chemotherapy New-FP for Hepatocellular Carcinoma with Preserved Liver Function	Cancers 2022 Oct; 14:4873	Original Article
52	Sano T, Amano K, Ide T, 他	消化器内科	A combination of hepatic encephalopathy and body mass index was associated with the point of no return for improving liver functional reserve after sofosbuvir/velpatasvir treatment in patients with HCV-related decompensated cirrhosis	Hepatology Research 2023 Jan; 53:26-34	Original Article
53	Shimose S, Hiraoka A, Casadei-Gardini A, 他	消化器内科	The Beneficial Impact of MAFLD on Lenvatinib Treatment in Patients with Non-viral Hepatocellular Carcinoma	Hepatology Research 2023 Feb; 53:104-115	Original Article
54	Shimose S, Sugimoto R, Hiraoka A, 他	消化器内科	Significance of ramucirumab following atezolizumab plus bevacizumab therapy for hepatocellular carcinoma using real-world data	Hepatology Research 2023 Feb; 53:116-126	Original Article

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題 名	雑誌名・出版年月等	論文種別 (リストから選択)
55	Sasaki M, Sasaki K, Ishizaki Y, et al.	心臓・血管内科	Safety and efficacy of a bodyweight exercise training program in symptomatic patients with severe aortic valve stenosis.	Am J Cardiol. 2023 Jan 1;186:163-169.	Original Article
56	Hori K, Morikawa N, Tayama E, et al.	心臓・血管内科	Use of anti-thrombotic drugs and in-hospital mortality in acute aortic dissection patients.	Diagnostics (Basel). 2022 Sep 26;12(10):2322.	Original Article
57	Ishizaki Y, Sasaki K, Yoshikawa T, et al.	リハビリテーション部	RTA-dh404 decreased oxidative stress in mice ischemic limbs and augmented efficacy of therapeutic angiogenesis by intramuscular injection of adipose-derived regenerative cells in the limbs.	Eur J Pharmacol. 2023 Jan 5;938:175422.	Original Article
58	Bekki M, Tahara N, Tahara A, et al.	心臓・血管内科	Localization of myocardial FDG uptake for prognostic risk stratification in corticosteroid-naïve cardiac sarcoidosis.	J Nucl Cardiol. 2022 Oct;29(5):2132-2144.	Original Article
59	Fukumoto Y	心臓・血管内科	Lifestyle intervention for primary prevention of cardiovascular diseases.	Eur J Prev Cardiol. 2022 Dec 7;29(17):2250-2251.	Others
60	Tahara N, Honda A, Ueda M, et al.	循環器病センター	Popeye's sign and transthyretin amyloidosis.	Eur Heart J. 2022 Aug 14;43(31):3000.	Case report
61	Yamaji K, Tahara N, Honda A, et al.	心臓・血管内科	Potential high-risk sign of cough-induced transient left bundle branch block in severe aortic valve stenosis.	Eur Heart J Case Rep. 2022 May 3;6(5):ytac194.(オンライン)	Case report
62	Nohara-Shitama Y, Takahashi J, Homma T, et al.	心臓・血管内科	Successful laparoscopic pheochromocytoma resection in an adult patient with Fontan physiology: a case report.	Eur Heart J Case Rep. 2022 Oct 28;6(11):ytac429.(オンライン)	Case report
63	Tahara A, Tahara N, Sugiyama Y, et al.	心臓・血管内科	Multimodal imaging of pulmonary artery involvement in large vessel vasculitis.	Eur Heart J Case Rep. 2023 Jan 25;7(2):ytad039.(オンライン)	Case report
64	Maeda-Ogata S, Tahara N, Bekki M, et al.	心臓・血管内科	Carpal tunnel syndrome as an early red-flag sign of ATTRwt amyloidosis.	J Nucl Cardiol. 2022 Dec;29(6):3562-3563.	Case report
65	Tahara N, Sugiyama Y, Tahara A, et al.	循環器病センター	Reverse remodeling of small pulmonary arteries and right ventricle in pulmonary arterial hypertension.	J Nucl Cardiol. 2022 Dec;29(6):3615-3618.	Case report
66	Tahara N, Tahara A, Bekki M, et al.	循環器病センター	Cardiac sarcoidosis with thickening myocardium.	J Nucl Cardiol. 2022 Dec;29(6):3619-3622.	Case report
67	Maeda-Ogata S, Tahara N, Tahara A, et al.	心臓・血管内科	Treatment response to Tafamidis quantitatively assessed by serial bone scintigraphy in transthyretin amyloid cardiomyopathy.	J Nucl Cardiol. 2023 Feb;30(1):403-404.	Case report
68	Shibao K, Murasato Y, Araki M, et al.	心臓・血管内科	Acute hypoxemia caused by Impella in a patient with fulminant myocarditis and patent foramen ovale.	J Cardiol Cases. 2022 Oct 28;27(1):36-40.	Case report
69	Itaya N, Sasaki K, Takaseya T, et al.	心臓・血管内科	Transcatheter aortic valve implantation for aortic valve stenosis 17 years after aortic root remodeling via the Yacoub method.	J Cardiol Cases. 2023 Mar 7;27(6):287-289.	Case report
70	Sugiyama Y, Matsubara H, Shimokawahara H, et al.	心臓・血管内科	Outcome of mean pulmonary arterial pressure-based intensive treatment for patients with pulmonary arterial hypertension.	J Cardiol. 2022 Nov;80(5):432-440.	Original Article
71	Ito S, Hashimoto H, Yamakawa H, et al.	心臓・血管内科	The complement C3-complement factor D-C3a receptor signalling axis regulates cardiac remodelling in right ventricular failure.	Nat Commun. 2022 Sep 15;13(1):5409.	Original Article
72	Fukuda M, Fukami K, Nabeta M	腎臓内科	Association of Baseline Renal Function with Mortality in Patients with Sepsis Requiring Continuous Renal Replacement Therapy for Acute Kidney Injury: A Single-Center Retrospective Study.	Blood Purif. 2022 Dec 7:1-9	Original Article
73	Shibata R, Taguchi K, Kaida Y	腎臓内科	Effect of dapagliflozin on the initial estimated glomerular filtration rate dip in chronic kidney disease patients without diabetes mellitus.	Clin Exp Nephrol. 2023 Jan;27(1):44-53	Original Article
74	Nasu M, Nakagawa N, Hara S	腎臓内科	A nationwide cross-sectional analysis of biopsy-proven Fabry nephropathy: The Japan Renal Biopsy Registry	Clin Exp Nephrol. 2023 Feb;27(2):141-150.	Original Article

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題 名	雑誌名・出版年月等	論文種別 (リストから選択)
75	Yokosuka K, Sato K, Yamada K, et al	整形外科	Computed Tomographic Epidurography in Patients with Low Back Pain and Leg Pain: A Single-Center Observational Study.	Diagnostics (Basel). 2022 May 19;12(5):1267. doi: 10.3390/diagnostics12051267	Original Article
76	Matsuse H, Segal NA, Rabe KG, et al	整形外科	Effect of Neuromuscular Electrical Stimulation During Walking on Pain Sensitivity in Women with Obesity With Knee Pain: A Randomized Controlled Trial.	Arch Phys Med Rehabil S0003-9993(22)00228-3, 2022 Sep	Original Article
77	Hashida R, Matsuse H, Yokoyama S, et al	整形外科	Balance dysfunction the most significant cause of in-hospital falls in patients taking hypnotic drugs: A retrospective study.	PLoS One. 2022 Sep 1;17(9):e0272832. doi: 10.1371/journal.pone.0272832. eCollection 2022 PMID: 36048812 Free PMC article	Original Article
78	Tomoyuki Nakamura, Masaru Tomita, Susumu Hirota, et al.	精神神経科	Impact of Selected Initial Titration Schedules on Safety and Long-Term Effectiveness of Lamotrigine for the Treatment of Mood Disorders	Journal of Clinical Psychopharmacology 2022 Jul; 42 (4): 350-356	Original Article
79	Michiko Matsuoka, Toyojiro Matsuishi, Shinichiro Nagamitsu, et al.	精神神経科	Sleep disturbance has the largest impact on children's behavior and emotions	Frontiers in Pediatrics 2022 Nov:1-12	Original Article
80	Rikitake J, Ashida K, Miura M, et al.	内分泌代謝内科	Reduction of Proteinuria in a Patient With Primary Aldosteronism by Angiotensin II Receptor Blocker Administration	JCEM Case Rep. 2022 Nov 30;1(1):luac021. doi: 10.1210/jcemcr/luac021.	Case report
81	Kikuchi J, Orito K, Sakata K., et al.	脳神経外科	Neurosurgical treatment of patients with posterior fossa acute subdural hematoma right after cardiac surgery.	Neurol Med Chir (Tokyo). 2022 May;62(5):238-245	Original Article
82	Hashimoto Y, Kajiwara S, Furuta K, et al.	脳神経外科	Pediatric acute epidural hematoma caused by contrecoup injury: illustrative case.	Journal of Neurosurgery Case Lessons. 2022 Jun 6; 3(23):CASE2263	Case report
83	Kikuchi J, Uchikado H, Hattori G, et al.	脳神経外科	Cerebrospinal fluid shunt for normal pressure hydrocephalus patient exacerbates cord symptoms due to spinal tumor.	Surgical Neurology International. 2022 Aug 12;13:352	Case report
84	Makizono T, Uchikado H, Ando T, et al.	脳神経外科	A case of mid-thoracic osteoporotic vertebral fracture with the inability to belch syndrome.	Surgical Neurology International. 2022 Oct 7;13:458	Case report
85	Negoto T, Jo M, Nakayama I, et al.	脳神経外科	Profiling chromosomal-level variations in gastric malignancies.	Cancer Science 2022 Nov; 113(11):3864-3876	Original Article
86	Kajiwara S, Nakamura H, Sakata K, et al.	脳神経外科	Endoscopic aqueductal membrane fenestration was effective for intractable hydrocephalus after removal of a nongerminomatous germ cell tumor exhibiting growing teratoma syndrome: a case report.	BMC Pediatr. 2022 Nov 28; 22(1):683	Case report
87	Orito K, Kajiwara S, Takeuchi Y, et al.	脳神経外科	Relationships between transient cortical blindness and contrast medium leakage that occurs after endovascular treatment of posterior circulation aneurysms.	J Neuroendovasc Ther. August 10, 2022; 16(11):535-541	Original Article
88	Ohkubo T, Kajiwara S, Hasegawa Y, et al.	脳神経外科	Bold-S signs on computed tomography angiography are sensitive marker for diagnosing subcortical hemorrhage due to dural arteriovenous fistulae on emergent admission.	Neurol Med Chir (Tokyo). 2023 Mar 15;63(3):97-103	Original Article
89	Fujimori K, Kajiwara S, Hasegawa Y, et al.	脳神経外科	Microscopic observation of morphological changes in cerebral arteries and veins in hyperacute phase after experimental subarachnoid hemorrhage: an in-vivo analysis.	Neuroreport. 2023 Feb 1; 34(3):184-189	Original Article
90	Sakata K, Hashimoto A, Kotaki Y, et al.	脳神経外科	Successful treatment of pure aqueductal pilomyxoid astrocytoma and arrested hydrocephalus with endoscopic tumor resection followed by chemotherapy: A case report and technical considerations.	Neurosurgery Practice. 4(1):e00030, March 2023	Case report
91	Nakamura H, Takami H, Yanagisawa T, et al.	脳神経外科	The Japan Society for Neuro-Oncology guideline on the diagnosis and treatment of central nervous system germ cell tumors.	Neuro-Oncology. 2022 Apr 1; 24(4):503-515	Original Article
92	Hirofumi Kurose, Kosuke Ueda, Naoyuki Ogasawara, et al.	泌尿器科	Impact of Gleason score of the tumor at the positive surgical margin as a prognostic factor	Molecular and Clinical Oncology 2022 Apr;16(4):82	Original Article

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題 名	雑誌名・出版年月等	論文種別 (リストから選択)
93	Kiyooki Nishihara , Kosuke Ueda , Hirofumi Kurose , et al.	泌尿器科	Survival outcomes of non-definitive therapy for muscle-invasive bladder cancer	Oncology Letters 2022 Apr;23(4):126	Original Article
94	Makoto Nakiri , Naoyuki Ogasawara , Hirofumi Kurose ,et al.	泌尿器科	Clinical outcomes of iodine-125 low-dose-rate brachytherapy for localized prostate cancer: a single-institution review in Japan	Journal of Contemporary Brachytherapy 2022 Apr;14(2):157-168	Original Article
95	Kosuke Ueda , Shigetaka Suekane , Hirofumi Kurose , et al.	泌尿器科	Immune-related adverse events are clinical biomarkers to predict favorable outcomes in advanced renal cell carcinoma treated with nivolumab plus ipilimumab	Japanese journal of clinical oncology 2022 May 5; 52(5): 479-485	Original Article
96	Shigetaka Suekane , Shigeru Yutani , Uhi Toh ,et al.	泌尿器科	Immune responses of patients without cancer recurrence after a cancer vaccine over a long term	Molecular and Clinical Oncology 2022 Jun;16 (6):112	Original Article
97	Tasuku Hiroshige , Kei-Ichiro Uemura , Shingo Hirashima , et al.	泌尿器科	Three-dimensional analysis of interstitial cells in the lamina propria of the murine vas deferens by confocal laser scanning microscopy and FIB/SEM	Scientific Reports 08 June 2022; 12(1): 9484	Original Article
98	Kosuke Ueda , Shigetaka Suekane , Hirofumi Kurose ,et al.	泌尿器科	Improved Survival of Real-world Japanese Patients With Advanced Renal Cell Carcinoma Treated With Immuno-oncology Combination Therapy	Anticancer research 2022 Sep;42(9): 4573-4580	Original Article
99	Kei-Ichiro Uemura, Toshiyuki Iwahata , Hisamitsu Ide , et al.	泌尿器科	Preoperative testosterone and follicle stimulating hormone levels are important predictors for sperm retrieval by microdissection testicular sperm extraction in non-mosaic Klinefelter syndrome	Andrologia 2022 Dec;54(11) :e14588	Original Article
100	Shirahama T, Hamada T, Abe T, et al.	皮膚科	Dermoscopic furrow ink test of the palmar lesion in loricrin keratoderma	J Dermatol. 2022 Aug; 49: 783-6	Original Article
101	Miyata Y, Murakami N, Okuma K,et al.	放射線科	Salvage image-guided freehand interstitial brachytherapy for pelvic sidewall recurrence after hysterectomy for uterine malignancies.	Brachytherapy.2022 Sep-Oct; 21(5): 647-657, doi: 10.1016/j.brachy.2022.04.009	Original Article
102	Miyata Y, Ogo E, Abe T,et al	放射線科	Dynamics in the expression of programmed death ligand 1 and cluster of differentiation 163 in the tumor microenvironment of uterine cervical cancer: a single-center retrospective study.	Radiation Oncology.2023 Feb; doi: 10.1186/s13014-023-02230-7	Original Article
103	Kuhara A, Sumi A, Chikasue T,et al.	放射線科	Utility of non-contrast-enhanced magnetic resonance imaging in predicting preoperative clinical stage and prognosis in patients with thymic epithelial tumor.	Jpn J Radiol.2023 Mar;41(3): 302-311, doi: 10.1007/s11604-022-01358-y	Original Article
104	Chikasue T, Sumi A, Tanoue S,et al.	放射線科	Human T-cell lymphotropic virus type 1 (HTLV-1)-associated bronchioloalveolar disorder required differentiation from fibrotic chronic hypersensitivity pneumonitis.	Radiology Case Reports.2022 May;17: 2448-2452	Case report
105	Sawano M, Tanoue S, Tanaka N,et al.	放射線科	Super-selective and staged glue embolization for labral AVMs using ultra-thin microcatheters : report of two cases.	CVIR Endovascular.2022 Nov; doi: 10.1186/s42155-022-00335-w	Case report
106	Hara Masato, Hyodo Ayako, Kimura Hiroko, et al	麻酔科	Transfenestration Doppler assessment during laparoscopic pheochromocytoma resection in a patient with Fontan circulation.	J Cardiothorac Vasc Anesth. 2022 Sep; 36(7): 3655-3661.	Case report
107	Kensuke Oshita, Shin Tokuyama, Shosaburo Jotaki, et al	麻酔科	Anesthetic management of a patient with methamphetamine-associated pulmonary arterial hypertension undergoing laparoscopic cholecystectomy.	JA Clin Rep. 2023 Feb 20;9(1):10.	Case report
108	Yanagida E, Miyoshi H, Takeuchi M, et al.	病理学(2)	Clinicopathological analysis of immunohistochemical expression of immune checkpoint molecules in follicular lymphoma.	Hematol Oncol. 2022 Oct;40(4):530-540.	Original Article
109	Low D, Swarup N, Okada T, Mizoguchi E	免疫学	Landscape of inflammatory bowel disease in Singapore	Intestinal Research 2022 Jul;20(3):291-296	Review

計 109件

注1 当該特定機能病院に所属する医師等が前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。

注2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る。)

注3 「発表者氏名」に関しては、英文で、筆頭著者を先頭に論文に記載された順に3名までを記載し、それ以上は、他、またはet al.とする。

注4 「筆頭著者の所属」については、和文で、筆頭著者の特定機能病院における所属を記載すること。

注5 「雑誌名・出版年月等」欄には、「雑誌名 出版年月(原則雑誌掲載月とし、Epub ahead of printやin pressの掲載月は認めない); 巻数: 該当ページ」の形式で記載すること(出版がオンラインのみの場合は雑誌名、出版年月(オンライン掲載月)の後に(オンライン)と明記すること)。
記載例: Lancet. 2015 Dec; 386: 2367-9 / Lancet. 2015 Dec (オンライン)

注6 「論文種別」欄には、Original Article、Case report、Review、Letter、Othersから一つ選択すること。

※ 商業雑誌への掲載や研究発表は含まれません。

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題 名	雑誌名・出版年月等	論文種別 (リストから選択)
1	内藤嘉紀,草野弘宣,金城賢尚,他	臨床検査部	胆管腫瘍病理	診断病理 39巻1号 Page25-34(2022.01)	Review
2	音琴真也,廣松伸一,姉川朋行 他	外科学	Paget-Schroetter症候群と類似した病態を呈したが ん関連上肢深部静脈血栓症の1例	静脈学 33(3):2022;283-287	Case report
3	高松正行,藤吉健司,合志健一,他	外科	経皮的膿瘍ドレナージと蛍光尿管カテーテル併用手 術により低侵襲かつ安全な手術が行えた穿孔性虫 垂炎の1例	手術.76(13)2009-2013 2022.8	Case report
4	福田純也,藤田文彦,川本祐輔,他	外科	直腸癌術後局所再発に対する治療法の検討	癌と化学療法.49(13)1509-1511 2022.12	Original Article
5	中川将視,梅谷有希,赤木由人,他	外科	腹腔鏡下手術が適応可能であると考えられた絞扼 性閉塞の1例	日本腹部救急医学会雑誌.42(3)473-476 2022	Case report
6	藤崎正寛,的野吾,森直樹,他	外科	切除不能食道癌に対する化学放射線療法後に発症 した食道胃接合部癌の1切除例	日本気管食道科学会会報.73(1)29-35 2022	Case report
7	吉山康一,橋口 俊洋,小野 博典,他	外科	気胸手術が契機となり偶然発見されたブラ壁発生肺 癌の1切除例(会議録)	肺癌.62(6)809 2022.11	Case report
8	仕垣隆浩,執行ひろな,岡洋右,他	外科	S状結腸憩室内に両端が嵌入したヘアピンを腹腔鏡 内視鏡合同手術で経肛門的に摘除し得た1例	日本腹部救急医学会雑誌.42(3)473-476 2022	Case report
9	仕垣隆浩,岡洋右,執行ひろな,他	外科	肺高血圧の精査で胃癌原発のPulmonary tumor thrombotic microangiopathy (PTTM)の 診断に至つ た1例	臨床と研究.99(8)1039-1042 2022.8	Case report
10	原田世衣子,岡洋右,執行ひろな,他	外科	特発性胃軸捻転症に対し腹腔鏡下胃固定術を施行 し気胸を合併した1症例	臨床と研究.99(10)1267-1270 2022.10	Case report
11	的野吾,松尾敏弘,赤木由	外科	肺癌リンパ節転移に伴う悪性食道狭窄・肺食道瘻に 対し食道ステントを留置した1例	臨床と研究.99(12)1509-1512 2022.12	Case report
12	古賀史記,尾崎邦博,横山新太郎,他	外科	胆道系感染症が原因と推察された成人肝鎌状間膜 膿瘍の1例	臨床と研究.99(7)894-896 2022.7	Case report
13	三宅 淳	感染制御科	新生児集中治療室にてアウトブレイクを起こしたC. parapsilosisのバイオフィルム解析	Bacterial Adherence & Biofilm, 36: 51-52, 2022	Original Article
14	橋本佳典,春田雅俊,吉田茂生	眼科学講座	裂孔原性網膜剥離の発症を契機に増殖糖尿病網膜 症と診断された2例	眼科臨床紀要. 2022 Dec; 15: 818-21	Case report
15	加藤喜大,吉田茂生,春田雅俊	眼科学講座	糖尿病網膜症に対する抗VEGF薬と網膜光凝固の 使い分けについて教えて下さい	臨床眼科. 2022 Nov; 76: 206-9	Others
16	春田雅俊	眼科学講座	Sturge-Weber症候群に伴う緑内障	あたらしい眼科. 2022 Sep; 39: 1223-4	Others
17	迫菜央子,辻拓也,西原由華, et al.	眼科学講座	緑内障患者の配合剤への変更によるアドヒアランス の検討	あたらしい眼科. 2022 Aug; 39: 1125-9	Original Article
18	佛坂扶美,門田遊,佐々木研輔, et al.	眼科学講座	眼痛を伴う水疱性角膜症に対する羊膜移植術の長 期成績	あたらしい眼科. 2022 May; 39: 666-71	Original Article
19	中村 薫乃,守永 圭吾,井野 康,他	形成外科・顎顔面外科	腹腔内感染を伴う腸管露出創に対し、 創内持続陰圧洗浄療法とその工夫を行った1例	創傷 13(2); 84-88, 2022年4月	Case report

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題 名	雑誌名・出版年月等	論文種別 (リストから選択)
20	牧 希光枝、力丸 英明、 大石 王、他	形成外科・顎顔面外科	HIV感染症が原因で小耳症の再建耳介に難治性潰瘍を生じた1例	形成外科 65(6) ; 651-654, 2022年6月	Case report
21	岡村 友保子、上村 哲 司、 楊井 哲、他	形成外科・顎顔面外科	左側頭部pterional regionに生じたdermoid cyst of scalp の1例	日本形成外科学会誌 42(7) ; 375-382, 2022年7月	Case report
22	佐藤 真央、原 茂、 右田 尚、他	形成外科・顎顔面外科	漏斗胸と鳩胸の合併症に対しRavitch変法を行った1例	形成外科 65(8) ; 989-997, 2022年8月	Case report
23	古賀 文貴、右田 尚、 森久 陽一郎、他	形成外科・顎顔面外科	耳下腺より前方のほぼ同じ場所に発生し、 病理診断がすべて異なった頬部下腫瘍の4例	形成外科 66(1) ; 58-65, 2023年1月	Case report
24	Morishige S, Yamasaki Y, Oya S, et al.	内科学講座 血液・腫瘍内科部門	Allogeneic hematopoietic stem cell transplantations for relapsed and refractory acute lymphoblastic leukemia following inotuzumab ozogamicin treatment	Rinsho Ketsueki. 2022;63(4):271-276.	Case report
25	Aoyama K, Yamasaki Y, Mouri F, et al	内科学講座 血液・腫瘍内科部門	FLT3-ITD and NPM1 mutation positive acute myeloid leukemia with cuplike blasts mimicking acute promyelocytic leukemia	Rinsho ketsueki. 2022;63(7):764-769.	Case report
26	Nagafuji K.	内科学講座 血液・腫瘍内科部門	COVID-19 vaccination for allogeneic hematopoietic stem cell recipients	Rinsho Ketsueki. 2022;63(9):1067-1077.	Original Article
27	恒吉 信吾	呼吸器神経膠原病内科	IgG4-related lung disease showing a desquamative interstitial pneumonia pattern in radiology and pathology.	BMJ Case Rep. 2022 Aug 1; 15 (8): e249998.	Case report
28	Kajiyama T, Fukuda M, Rikitake Y, et al.	高度救命救急センター	Atypical Hemolytic Uremic Syndrome Secondary to Pancreatitis: A Case Report.	Cureus. 2023 Feb 24;15(2):e35434.	Case report
29	Fukuda M, Fukami K, Nabeta M, et al.	高度救命救急センター	Association of Baseline Renal Function with Mortality in Patients with Sepsis Requiring Continuous Renal Replacement Therapy for Acute Kidney Injury: A Single-Center Retrospective Study.	Blood Purif. 2023;52(2):148-156.	Original Article
30	Hirayu N, Nakamura A, Morita T, et al.	高度救命救急センター	Pharmacokinetics of Teicoplanin in a Patient with Coronavirus Disease 2019 Receiving Veno-venous Extracorporeal Membrane Oxygenation.	J Crit Care Med (Targu Mures). 2022 Nov 12;8(4):288-291.	Case report
31	Fukuda M, Nabeta M, Hirayu N, et al.	高度救命救急センター	Systemic Capillary Leak Syndrome Induced by Influenza Type A Infection: A Case Report.	Cureus. 2023 Jan 25;15(1):e34213	Case report
32	岡村 優, 西尾 真, 大草 貴史, 他	産婦人科	再発子宮頸癌の進展により壊死性筋膜炎を発生した症例	福岡産科婦人科学会雑誌 2022 Jul;46(1):13 - 18	Case report
33	那須洋紀, 朴 鐘明, 田崎 和人, 他	産婦人科	経腔的内視鏡手術 (vNOTES) の導入と初期経験	福岡産科婦人科学会雑誌 2022 Jul;46(1):62 - 67	Case report
34	清水隆宏, 津田尚武, 井 上麻実, 他	産婦人科	腹腔鏡下広汎子宮全摘術後に外傷性外腸骨動 脈解離による急性下肢虚血を来した1例	久留米医学会雑誌 2022 Aug;85(6~8):100 - 105	Case report
35	武井雄介、中村芳明、松 尾勝久、et al.	歯科口腔医療センター	10歳児の口底に発生した神経鞘腫の1例	日本口腔科学会雑誌 71 (3), P.186-191, 2022	Case report
36	篠崎勝美、喜久田翔伍、 松尾勝久、et al.	歯科口腔医療センター	原発性骨内癌に対し下顎骨のsagittal split sliding osteotomyと筋突起移植術を併用した顎骨即時再建 後にインプラントによる機能回復を行った1例	日本口腔腫瘍学会誌 34(2), P.73-80,2022	Case report
37	福岡修子、古賀真、田上 隆一郎、et al.	歯科口腔医療センター	口腔出血を初発とし急激な経過をたどった突発性血 小板減少性紫斑病の1例	日本口腔診断学会雑誌35(1),P12-17,2022	Case report
38	Takaharu Taketomi, Ken Nakamura, Terukazu Sanui, et al.	歯科口腔医療センター	Basal cell adenoma of the minor salivary glands in the buccal mucosa : A case report and literature review.	Oral and Maxillofacial Surgery Cases 8(3) ,2022 Sep	Case report

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題 名	雑誌名・出版年月等	論文種別 (リストから選択)
39	Shinozaki K, Kikuta S, Matsuo K, et al.	歯科口腔医療センター	An extremely rare case of the metastatic small cell neuroendocrine carcinoma of the mandible originating from the lung.	Journal of Oral and Maxillofacial Surgery, Medicine, and Pathology 34(5), P.628-632, 2022	Case report
40	佐藤 公則	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学	私の研究歴 臨床と研究にバランスよく秀でた臨床医を目指して	JOHNS 38:231-235, 2022	Original Article
41	千年 俊一, 深堀光緒子 栗田 卓, 他	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学	内視鏡下嚥下機能改善手術	日気食会報 73:97, 2022	Original Article
42	千年 俊一, 深堀光緒子 栗田 卓, 他	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学	内視鏡下嚥下機能改善手術	日気食会報 73:162-164, 2022	Original Article
43	佐藤 公則, 千年 俊一 佐藤 公宣, 他	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学	ヒト声帯粘膜の組織幹細胞—in vivo におけるコリニ形成の役割—	日気食会報 73:162-164, 2022	Original Article
44	Kiminori Sato, Shun-ichi Chitose, Kiminobu Sato, et al.	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学	Laryngeal spaces in the newborn larynx	Auris Nasus Larynx 49: 652-657, 2022	Original Article
45	佐藤 公則, 千年 俊一 佐藤 公宣, 他	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学	最近の菌性上顎洞炎の病態と歯科治療に先行させる内視鏡下副鼻腔手術	日耳鼻 125:1315-1316, 2022	Original Article
46	佐藤 公則	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学	歯と上顎・上顎洞の臨床組織解剖	耳鼻臨床 補160:1-22, 2022	Original Article
47	佐藤 公則	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学	菌性上顎洞炎の病態	耳鼻臨床 補160:23-48, 2022	Original Article
48	佐藤 公則	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学	菌性上顎洞炎の診断	耳鼻臨床 補160:49-62, 2022	Original Article
49	佐藤 公則	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学	菌性上顎洞炎の治療	耳鼻臨床 補160:63-86, 2022	Original Article
50	佐藤 公則	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学	上顎洞性菌性病変による菌性上顎洞炎の病態・診断・治療 臨床と研究にバランスよく秀でた臨床医を目指して	耳鼻臨床 補160:87-97, 2022	Original Article
51	佐藤 公則	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学	口腔インプラント治療による上顎洞炎の病態	耳鼻臨床 補160:98-104, 2022	Original Article
52	佐藤 公則	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学	口腔インプラント治療による上顎洞炎の治療	耳鼻臨床 補160:105-128, 2022	Original Article
53	佐藤 公則	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学	上顎洞底挙上術による上顎洞炎の病態と治療	耳鼻臨床 補160:129-146, 2022	Original Article
54	佐藤 公則	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学	口腔インプラント体上顎洞内迷入による上顎洞炎の病態・診断・治療	耳鼻臨床 補160:147-156, 2022	Original Article
55	栗田 卓, 千年 俊一	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学	声帯運動障害	MB ENT 276:135-142, 2022	Original Article
56	深堀光緒子, 千年 俊一	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学	嚥下機能を改善する手術を決断するタイミングと術式	耳鼻咽喉科 1:800-808, 2022	Original Article
57	小野 剛治	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学	上・中頸部腫脹 リンパ節転移, 炎症性, 嚢胞などの鑑別	JOHNS 38:903-906, 2022	Original Article

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題 名	雑誌名・出版年月等	論文種別 (リストから選択)
58	佐藤 公宣, 三橋 亮太 三橋 順敏, 他	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学	内視鏡下 Transcanal-infrapetrosal approachにより 治療した錐体尖コレステリン肉芽腫	Otol Jpn 32:311-319, 2022	Original Article
59	小野 剛治, 田中 法瑞 千年 俊一, 他	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学	局所進行上顎洞癌に対する集学的治療—臓器温存 と救済手術—	日耳鼻 61:181-182, 2022	Original Article
60	関 正大, 進 保朗 宮崎 瑞穂, 他	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学	下咽頭に生じた巨大な軟部腫瘍の2症例	頭頸部外科 32:39-46, 2022	Original Article
61	佐藤 公宣, 梅野 博仁	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学	Prader-Willi 症候群に合併した小児睡眠時無呼吸に 対する手術治療	口咽科 35:69-75, 2022	Original Article
62	梅野 博仁	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学	音声障害診療ガイドライン2018年版のエッセンスと活	日耳鼻 125:232-237, 2022	Original Article
63	梅野 博仁	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学	頭痛診療の Up to Date 二次性頭痛の診療耳鼻咽 喉科疾患	臨床と研究 99:879-882, 2022	Original Article
64	佐藤 公宣, 小野 剛治 栗田 卓, 他	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学	下歯肉扁平上皮癌の臨床的検討	頭頸部外科 32:139-144, 2022	Original Article
65	向井純平、長井孝二郎、 山下裕史朗	小児科	気管切開を要した胸腺腫合併の 小児全身型重症筋無力症クリーゼの1例	日本小児救急医学会雑誌 21(3):410-413,2022.1	Case report
66	Kitamura M, Nishioka J, Matsumoto T, et al.	小児科	Estimate incidence and predictive factors of pediatric central diabetes insipidus in a single- institute study	Endocrine and Metabolic Science. 2022;7- 8:100119.	Case report
67	Ushijima-Fuchino K, Koga Y, Umino S, et al.	小児科	Urinary stone in a 12-year-old adolescent with new-onset type 1 diabetes and diabetic ketoacidosis	Clinical Pediatric Endocrinology. 2022;31(3):199-204.	Case report
68	Kawaguchi T, Torimura T	消化器内科	Leaky Gut-Derived TNF- α Causes Sarcopenia in Patients with Liver Cirrhosis	Clinical and Molecular Hepatology 2022 Apr;28:177-180	Others
69	Kawaguchi T, Tsutsumi T, Nakano D, 他	消化器内科	MAFLD: Renovation of Clinical Practice and Disease Awareness of Fatty Liver	Hepatology Research 2022 May;52:422-432	Review
70	Kawaguchi T, Tsutsumi T, Nakano D, 他	消化器内科	MAFLD Enhances Clinical Practice for Liver Disease in the Asia-Pacific region	Clinical and Molecular Hepatology 2022 Apr;28:150-163	Review
71	Suzuki H, Sano T, Shimasaki Y, 他	消化器内科	TAFRO Syndrome that Responded to Prednisolone- only Treatment: Evaluating Changes in IL-6	Internal Medicine 2022 Oct;61:2967-2972	Case report
72	Suzuki H, Arinaga-Hino T, Sano T, 他	消化器内科	A Rare Case of Benign Recurrent Intrahepatic Cholestasis-Type 1 With a Novel Heterozygous Pathogenic Variant of ATP8B1	Frontiers in Medicine 2022 Apr;9: 1-6	Case report
73	Fukunaga S, Mukasa M, Tsutsumi T, 他	消化器内科	A sharp solution for a pointed problem: foreign body removal from an infant's upper gastrointestinal tract	American Journal of Gastroenterology 2022 Sep;117: 1404	Case report
74	Suzuki H, Niizeki T, Shirono T, 他	消化器内科	Robust Effect of Hepatic Arterial Infusion Chemotherapy and Radiation Therapy on Hepatocellular Carcinoma Arising from Fontan- associated Liver Disease	Internal Medicine 2022 Apr;61: 1145-1150	Case report
75	Iwamoto H, Shimose S, Niizeki T, 他	消化器内科	Clinical significance of the discrepancy between radiological findings and biochemical responses in atezolizumab plus bevacizumab for hepatocellular carcinoma	Clinical and Molecular Hepatology 2022 Jul;28: 575-579	Letter
76	Suzuki H, Iwamoto H, Shimose S, 他	消化器内科	Case Report: Exacerbation of varices following atezolizumab plus bevacizumab treatment of hepatocellular carcinoma: A case series and literature review	Frontiers in Oncology 2022 Jul;12: 948293	Case report

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題 名	雑誌名・出版年月等	論文種別 (リストから選択)
77	Tanaka T, Suzuki H, Ushijima T, 他	消化器内科	Case report: Changes in serum bevacizumab concentration in a hemodialysis patient with unresectable colorectal cancer treated with FOLFIRI plus bevacizumab	Frontiers in Oncology 2022 Aug; 12: 947013	Case report
78	Kawaguchi T, Kato A	消化器内科	Recent Progress of Nutritional Management for Liver Cirrhosis	Journal of Nutritional Science and Vitamanology 2022 Nov; 68: 73-75	Review
79	川口 巧	消化器内科	脂肪肝の新概念: Metabolic dysfunction-associated fatty liver disease (MAFLD)	肝臓 2023 Feb; 64: 33-43	Review
80	鈴木浩之、城野智毅、新関 敬、他	消化器内科	肝細胞癌に対する肝動注化学療法中に感染性仮性大腿動脈瘤を形成し、治療に難渋した1例	日本消化器病学会雑誌 2023 Mar; 120: 263-268	Case report
81	Tsutsumi T, Nakano D, Hashida R, 他	消化器内科	The Inter-Organ Crosstalk Reveals an Inevitable Link between MAFLD and Extrahepatic Diseases	Nutrients 2023 Feb; 15: 1123	Review
82	Kawaguchi T, Takahashi H, Gerber H L	消化器内科	Clinics in Liver Disease: Update on Nonalcoholic Steatohepatitis: Sarcopenia and Nonalcoholic Fatty Liver Disease	Clinics in Liver Disease 2023 Feb; 27: 275-286	Others
83	深水 圭	腎臓内科	注目の新薬 フォシーガ(ダパグリフロジン)	診断と治療社 110(4), 521-525, 2022	Original Article
84	山本 遼、児玉 豪、深水 圭	腎臓内科	腎機能障害に対する保護	泌尿器科 科学評論社 15(5): 557-563, 2022	Original Article
84	柴田 了、深水 圭	腎臓内科	認知症・フレイルとCKM	腎臓内科 科学 15(4), 443-451, 2022	Original Article
85	深水 圭、牛嶋浩子	腎臓内科	カルニチン・亜鉛の解説&患者指導	透析ケア メディカ出版28(7), 62-68, 2022	Original Article
86	久保沙織、伊藤佐久耶、深水 圭	腎臓内科	サルコペニア・フレイルとカルニチン	科学評論社16(1): 129-135, 2022	Original Article
87	深水 圭	腎臓内科	透析患者におけるカルニチン代謝異常	日本透析医会雑誌 VOL.37 No.2, 220-227, 2022	Original Article
88	深水 圭	腎臓内科	腎症合併糖尿病患者に対するSGLT2阻害薬への期待	室医会報 学術特集号 Vol 20, 23-26, 2022	Original Article
89	柴田 了、森山智文、深水 圭	腎臓内科	慢性腎臓病(CKD)患者のwell-being実現に向けて 医師の立場から: 患者・医師双方向により実現する well-being	日本腎臓リハビリテーション学会雑誌 1(2):205-215, 2022	Original Article
90	小田原健一、森山智文、伊藤佐久耶	腎臓内科	腹膜透析患者における尿中・透析液に含まれるリン排泄量の変化	腎と透析 Vol93別冊 腹膜透析90-91, 2022	Original Article
91	松本有里子、田口顕正、深水 圭	腎臓内科	心腎症候群・腎心症候群 腎臓症候群(第3版)	別冊日本臨床 日本臨床社15-20, 2022	Original Article
92	吉田史郎、仲摩憲次郎、松浦充洋、他	整形外科	橈骨遠位端骨折手術における腕橈骨筋腱付着部切離の併用	骨折: 44(3), 574-576, 2022 05	Original Article
93	家守由貴、松瀬博夫、佐々木健一郎、他	リハビリテーション	従来の急性期心臓リハビリテーション実施困難例に対するベルト電極式骨格筋電気刺激療法	心臓リハビリテーション28巻2号 Page154-161(2022.06)	Original Article
94	甲斐慎一郎、松瀬博夫、広田桂介、他	リハビリテーション	地域在住高齢者の身体機能とロコモティブシンドロームに対する square stepping exercise介入効果	運動器リハビリテーション(2187-8420) 33巻1号 Page23-31(2022.06)	Original Article

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題 名	雑誌名・出版年月等	論文種別 (リストから選択)
95	久米慎一郎、原口敏昭、 山木宏道、他	整形外科	寛骨臼骨切り術既往のある患者に対してサルベージ手術として行ったキアリ骨盤骨切り術の検討	Hip Joint.48:393-396,2022 08	Original Article
96	赤塚孝太、坂井健介、 秋吉 寿、他	整形外科	思春期の斜指症に対して矯正骨切りを行った1例	骨折44(3): 563-565,2022 05	Original Article
97	小俣京子、石田哲也、千葉 比呂美、他	精神神経科	女優の自殺を契機に症状が悪化した複雑性PTSD の1例－治療関係再検討の果たす役割－	最新精神医学 2022 Sep; 27 (5): 383-390	Case report
98	児玉英也、森田喜一郎、吉 村絵美、他	精神神経科	ものわずれ予防検診における単一「しりとり」課題 施行中の脳酸素化ヘモグロビンの変動：嗅覚障害、 睡眠障害を踏まえて	老年期認知症研究会誌 2023 Mar; 24 (4): 46- 49	Original Article
99	梶原壮翔、河野隆幸、大 久保 卓、古田啓一郎、橋 本 彩、長谷川 雄、廣畑 優、森岡基浩	脳神経外科	くも膜下出血WFNS grade Vの頭蓋内コントロールに barbiturate step-down infusionが有効であった2症 例.	脳血管攣縮. 2022:37:46-52	Case report
100	梶原壮翔、河野隆幸、青 木孝親、折戸公彦、牧園 剛大、藤森香奈、大久保 卓、菊池 仁、古田啓一 郎、廣畑 優、森岡基浩	脳神経外科	術中脳血管撮影を用いた、脳動静脈奇形(AVM)摘 出後のnormal perfusion pressure breakthroughや occlusive hyperemiaの発症リスクについての検討.	脳卒中の外科. 2022:50(3):205-211	Original Article
101	下川尚子、高守史子、吉 岡史隆、有水弘太、田尻 涼、川口 淳、石井一夫、 角間辰之、古川恭治、阿 部竜也、森岡基浩	脳神経外科	National Databaseオープンデータおよび外来サン プリングデータ解析で明らかにする本邦の小児鎮静 MRI検査の実態.	脳と発達. 2022:54(5): 323-329	Original Article
102	折戸公彦、森岡基浩	脳神経外科	X V. 脳梗塞総論 4. 急性期治療 (5)虚血性脳卒 中に対する急性期外科治療. 最新臨床脳卒中 (第2版)下－最新の診断と治療－	日本臨床社 2022:60-64	Original Article
103	梶原壮翔、森岡基浩	脳神経外科	III. Clinical Topics 4. 外傷 1重症頭部外傷の急 性期管理.	Annual Review神経2022 鈴木則宏・荒木信 夫・宇川義一・桑原 聡・塩川芳昭編集 中外 医学社 2022:203-209	Original Article
104	廣畑 優、折戸公彦、森岡 基浩	脳神経外科	特集 脳動脈瘤 解離性脳動脈瘤に対する脳血管 内手術の有用性と問題点.	脳神経外科ジャーナル 2022:31(2):107-115	Original Article
105	梶原壮翔、森岡基浩、田 上秀一	脳神経外科	脳神経外科医のための疾患・症状別当直マニュアル 知っておきたい正常画像・バリエーション.	脳神経外科速報 2022:32(2):185-191	Original Article
106	折戸公彦、森岡基浩	脳神経外科	特集 STA-MCAバイパス術－日本が世界に誇る技 を学ぶ IIバイパス術の実際 STA-MCAバイパス 術のバリエーション.	脳神経外科 2022:50(4):752-758	Original Article
107	下川尚子	脳神経外科	特集 小児脳神経外科－エキスパートはこうしてい る I小児の周術期管理と鎮静 小児の鎮静MRI検 査にまつわる諸問題と今後の方向性.	脳神経外科 2022:50(6):1141-1149	Original Article
108	下川尚子	脳神経外科	「医師の働き方改革」と脳神経外科医の取り組み 「働き方改革」に向けた組織としての取り組み④ 脳 神経外科とDEI:第一歩としての女性医師の活躍推 進.	脳神経外科速報 2022:32(6):779-783	Original Article
109	黒瀬 浩文、 小宮 景介、 小笠原 尚之 他	泌尿器科	夜間多尿に伴う高齢男性の夜間頻尿に対するデス モプレシンの効果 —初期投与量50 μg の有効性と 安全性の検討—	日本泌尿科学会雑誌 2022;113(4):115~121	Original Article
110	田上秀一、安陪等思、廣 畑 優、他	放射線科	血栓回収療法と放射線防護	脳神経外科速報2022年増刊 2022 10 血栓回収療法リニューアル 適応・画像診断・ デバイスの新常識, 373: 70-81	Review
111	Abe T	放射線科	The Effort for Radiation Protection Increases the Value of Interventional Radiology	Interv Radiol 2022 Jun 7(2): 37-39	Review
112	奥村勝亮、吉田和弘、 塚本秀行、他	麻酔科	レミフェタニルの血管外漏出により抜管後に意識 障害と呼吸抑制をきたした1例	日歯麻誌. 2023; 51(1): 7-9	Case report
113	西尾由美子、大下健輔、 太田 聡、他	麻酔科	傍気管嚢胞を合併した患者に対する全身麻酔管理	日臨麻会誌. 2023; 43(1):16-19.	Case report

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題 名	雑誌名・出版年月等	論文種別 (リストから選択)
114	広田桂介, 神谷俊次, 橋本成矢	リハビリテーション部	血液腫瘍疾患における化学療法を受けた患者の発熱に関する要因の検討	理学療法福岡(36): 102-108, 2023.	Original Article
115	広田桂介, 神谷俊次, 福島竜也	リハビリテーション部	重症COVID-19患者に対する急性期リハビリテーション治療の効果	The Japanese Journal of Rehabilitation Medicine 59(10): 1045-1055, 2022.	Original Article
116	福島竜也, 広田桂介, 神谷俊次	リハビリテーション部	重症COVID-19患者の急性期における骨格筋萎縮とその要因の検討	理学療法学 49(2): 106-113, 2022.	Original Article
117	家守由貴, 松瀬博夫, 佐々木健一郎	リハビリテーション部	従来の急性期心臓リハビリテーション実施困難例に対するベルト電極式骨格筋電気刺激療法	心臓リハビリテーション 28(2): 154-161, 2022.	Original Article
118	川端潤	高度救命救急センター看護部	Effects of a financial incentive scheme for dementia care on medical and long-term care expenditures: A propensity score-matched analysis using LIFE study data.	PLoS One. 2023.10;18(3) 2023年3月10日	Original Article

注1 当該医療機関に所属する医師等が前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

注2 記載方法は、シート2の「高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文」の記載方法に準拠すること。

※ 商業雑誌への掲載や研究発表は含まれません。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1) 倫理審査委員会の開催状況

① 倫理審査委員会の設置状況	有 無
② 倫理審査委員会の手順書の整備状況	有 無
・ 手順書の主な内容 倫理委員会の組織体制、審査体制、各種申請手続き方法	
③ 倫理審査委員会の開催状況	年 1 2回

(注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に○印を付けること。
2 前年度の実績を記載すること。

(2) 利益相反を管理するための措置

① 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況	有 無
② 利益相反の管理に関する規定の整備状況	有 無
・ 規定の主な内容 委員会の構成及び運営、委員会の審議事項 等	
③ 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況	年 1 2回

(注) 前年度の実績を記載すること。

(3) 臨床研究の倫理に関する講習等の実施

① 臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況	年 1回
・ 研修の主な内容 臨床研究における指針及び臨床研究法、臨床研究の基礎知識、研究審査のための解説及び臨床研究機関の体制整備	

(注) 前年度の実績を記載すること。

高度の医療に関する臨床研修の実施

様式4-1 別紙①

	診療科	研修内容	統括者氏名	
1	内科	腹部超音波検査	消化器内科	川口 巧
		上部消化管内視鏡検査		
		心臓カテーテル検査・冠動脈形成術・末梢動脈形成術	心臓・血管内科	福本 義弘
		経胸壁心エコー・経食道エコー検査		
		ペースメーカー（リードレス含む）・除細動器植え込み術・心臓再同期療法術心筋焼灼術（カテーテルアブレーション）		
		腎臓エコー検査	腎臓内科	深水 圭
		透析技術研修		
		エコーガイド下における甲状腺腫瘍に対する穿刺吸引細胞診	内分泌代謝内科	野村 政壽
造血器疾患の診断と治療、特に造血器悪性腫瘍の診断と造血細胞移植	血液・腫瘍内科	長藤 宏司		
気管支鏡	呼吸器・神経・膠原病内科	星野 友昭		
2	整形外科	整形外科疾患に対する診療診断技術と術式の研修、周術期の管理	整形外科	平岡 弘二
3	形成外科・顎顔面外科	形成外科基本的手術手技の研修（局所麻酔手術の執刀）	形成外科・顎顔面外科	清川 兼輔
		形成外科基本理論研修（創傷治癒、皮膚切開、皮膚縫合、採皮、植皮）		
4	脳神経外科	DSA	脳神経外科	森岡 基浩
		神経内視鏡手術		
		穿頭術		
5	外科	ABI検査	外科	藤田 文彦
		上部消化管（造影）検査		
		上部消化管（内視鏡）検査		
		下部消化管（造影）検査		
		下部消化管（内視鏡）検査		
		マンモグラフィ検査		
乳腺エコー検査				
6	小児外科	外科研修（小児外科領域）	小児外科	加治 建
7	泌尿器科	腹部エコー	泌尿器科	井川 掌
8	産婦人科	ハイリスク妊婦に対する産科医療	産婦人科	津田 尚武
9	麻酔科	手術麻酔（手術管理）	麻酔科	平木 照之
10	皮膚科	皮膚科学の各論および基本的手技に関する研修	皮膚科	名嘉真 武國
11	精神神経科	精神神経科専門医研修	精神神経科	小曾根 基裕
12	眼科	眼科基本的診療及び治療の学習	眼科	吉田 茂生
		網膜光凝固術等の眼科処置の習得		
13	放射線科	放射線治療位置決め並びに治療の理解に対する研修	放射線科	安陪 等思
		CT・MRIの総合的画像診断学理解と読影手技の研修		
		IVRの手技の研修		
		核医学の読影と適応疾患の理解に対する研修		
14	小児科	心房中隔欠損症に対するカテーテル治療	小児科	山下 裕史朗
		脊髄性筋萎縮症に対するヌシネルセン療法		
		ムコ多糖Ⅱ型患者に対する酵素補充療法		
		重症新生児仮死に対する脳低温療法		
		予防接種		
15	高度救命救急センター	重症外傷患者に対する戦略的アプローチ	高度救命救急センター	高須 修
		心肺停止蘇生後患者に対する体温管理療法		
		心肺停止患者に対する体外式人工心肺（ECMO）を用いた心肺蘇生法		
		産科危機的出血に対する産科・救急医連携による急性期治療		

研修統括者

様式4-1 別紙②

研修統括者氏名	診療科	役職	臨床経験年数	特記事項
星野 友昭	呼吸器・神経・膠原病内科	診療部長	34	
谷脇 考恭		診療部長	38	
井田 弘明		診療部長	35	
川口 巧	消化器内科	診療部長	29	
福本 義弘	心臓・血管内科	診療部長	32	
深水 圭	腎臓内科	診療部長	30	
野村 政壽	内分泌代謝内科	診療部長	36	
長藤 宏司	血液・腫瘍内科	診療部長	34	
小曾根 基裕	精神神経科	診療部長	40	
山下 裕史朗	小児科	診療部長	40	
藤田 文彦	外科	診療部長	28	
平岡 弘二	整形外科	診療部長	30	
清川 兼輔	形成外科・顎顔面外科	診療部長	39	
森岡 基浩	脳神経外科	診療部長	37	
加治 建	小児外科	診療部長	36	
名嘉真 武國	皮膚科	診療部長	35	
井川 掌	泌尿器科	診療部長	34	
津田 尚武	産婦人科	診療部長	26	
吉田 茂生	眼科	診療部長	28	
梅野 博仁	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	診療部長	34	
安陪 等思	放射線科	診療部長	38	
楠川 仁悟	歯科口腔医療センター	診療部長	35	
平木 照之	麻酔科	診療部長	26	
高須 修	高度救命救急センター	センター長	33	

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

4 医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

① 医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況（任意）
<ul style="list-style-type: none">・研修の主な内容・研修の期間・実施回数・研修の参加人数
② 業務の管理に関する研修の実施状況（任意）
<ul style="list-style-type: none">・研修の主な内容・研修の期間・実施回数・研修の参加人数
③ 他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況
<ul style="list-style-type: none">・研修の主な内容・研修の期間・実施回数・研修の参加人数

(注) 1 高度の医療に関する研修について、前年度実績を記載すること。

(注) 2 「③他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況」については、医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院についてのみ記載すること。また、日本全国の医療機関に勤務する医療従事者を対象として実施した専門的な研修を記載すること。

(様式第 5)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	1. 計画 2. (現状)
管理責任者氏名	病院長 野村 政壽
管理担当者氏名	診療関係：各診療科部長（別紙1参照） 管理関係：事務部長 江口 訓史

		保管場所	管理方法	
診療に関する諸記録	規則第二十二條の三第三項に掲げる事項	病院日誌	<ul style="list-style-type: none"> ・ 外部倉庫 ・ 病院資料室 ・ 各診療科医局・資料室 ・ 各診療科受付 ・ 薬剤部 	<p>①紙媒体【入院】 番号法：一元番号法 保管法：ターミナルプリント 保管対象：平成15年4月1日～平成25年9月30日 診療録・診療諸記録（外部倉庫） レントゲンフィルム（セミアクティブカルテ室・外部倉庫・診療科医局資料室） 一部は平成21年4月1日より、スキャンセンター作業室内のPACSにおいて電子保存（現在も作業進行中） ※平成15年3月31日以前の診療録に関しては、外部倉庫及び各診療科の医局管理にて資料室等に保管されているものもあり。</p> <p>②紙媒体【外来】 番号法：一元番号法 保管法：ターミナルプリント 保管対象： ・最終来院日より1年以内（各診療科受付） ・最終来院日より1～10年以内（外部倉庫） ・最終来院日より10年以上（セミアクティブカルテ室・外部倉庫・診療科医局資料室）</p> <p>③電子媒体【入院・外来】 平成25年10月1日以降の診療記録については、紙媒体で発生したのももスキャンし、全てを電子媒体で保存している。</p>
		各科診療日誌		
		処方せん		
		手術記録		
		看護記録		
		検査所見記録		
		エックス線写真		
		紹介状		
		退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書		

病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第二十二條の三第三項に掲げる事項	従業者数を明らかにする帳簿	管理課	部門ごとに、電子媒体や紙ファイルにて保管・管理している。 以下同じ。
		高度の医療の提供の実績	管理課	
		高度の医療技術の開発及び評価の実績	管理課	
		高度の医療の研修の実績	管理課	
		閲覧実績	管理課	
		紹介患者に対する医療提供の実績	管理課	
	規則第一條の十一第一項に掲げる事項	入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	病院経営室 薬剤部	
		医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医療安全管理部 医療安全管理事務室	
		医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医療安全管理部 医療安全管理事務室	
		医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医療安全管理部 医療安全管理事務室	
		医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医療安全管理部 医療安全管理事務室	

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一条の十一第二項第一号から第三号までに掲げる事項	院内感染対策のための指針の策定状況	感染制御部
		院内感染対策のための委員会の開催状況	医療安全管理事務室
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	医療安全管理事務室
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	感染制御部
		医薬品安全管理責任者の配置状況	薬剤部
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	薬剤部
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	薬剤部
		医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	薬剤部
		医療機器安全管理責任者の配置状況	臨床工学センター
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	医療安全管理事務室 臨床工学センター
医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	臨床工学センター		
医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	臨床工学センター		

感染関連マニュアル(電
カル及び紙媒体)

感染対策委員会会議資
料、ICT会議資料(メー
ル送信)

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第九条の二十の二第二項第一号から第十三号まで及び第十五条の四各号に掲げる事項	医療安全管理責任者の配置状況	医療安全管理部 医療安全管理事務室
		専任の院内感染対策を行う者の配置状況	感染制御部
		医薬品安全管理責任者の業務実施状況	薬剤部
		医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	診療情報管理室
		診療録等の管理に関する責任者の選任状況	診療情報管理室
		医療安全管理部門の設置状況	医療安全管理部 医療安全管理事務室
		高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況	高難度新規医療技術管理部
		未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況	未承認新規医薬品・医療機器管理部
		監査委員会の設置状況	医療安全管理部 医療安全管理事務室
		入院患者が死亡した場合等の医療安全管理部門への報告状況	医療安全管理部 医療安全管理事務室
		他の特定機能病院の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況	医療安全管理部 医療安全管理事務室
		当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	医療安全管理部 医療安全管理事務室
		医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況	内部監査室
		職員研修の実施状況	医療安全管理部 医療安全管理事務室
		管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況	医療安全管理部 医療安全管理事務室
管理者が有する権限に関する状況	管理課		
管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況	内部監査室		
開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の整備状況	病院経営室		

(注)「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

管理担当者一覧

様式5 別紙①

診療科	管理担当者氏名	診療科	管理担当者氏名
呼吸器・神経・膠原病内科	星野 友昭	泌尿器科	井川 掌
消化器内科	川口 巧	産婦人科	津田 尚武
心臓・血管内科	福本 義弘	眼科	吉田 茂生
腎臓内科	深水 圭	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	梅野 博仁
内分泌代謝内科	野村 政壽	放射線科	安陪 等思
血液・腫瘍内科	長藤 宏司	歯科口腔医療センター	楠川 仁悟
精神神経科	小曾根 基裕	麻酔科	平木 照之
小児科	山下 裕史朗	高度救命救急センター	高須 修
外科	藤田 文彦	呼吸器病センター	星野 友昭
整形外科	平岡 弘二	消化器病センター	岡部 義信
形成外科・顎顔面外科	清川 兼輔	循環器病センター	田山 栄基
脳神経外科	森岡 基浩	内科総合外来	深水 圭
小児外科	加治 健	乳腺外科・一般外科 総合外来	藤田 文彦
皮膚科	名嘉真 武國	薬剤部	福本 義弘

(様式第6)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	1. 計画 2. 現状
閲覧責任者氏名	病院長 野村 政壽
閲覧担当者氏名	診療関係:各診療科部長(別紙1参照) 管理関係:事務部長 江口 訓史
閲覧の求めに応じる場所	第3会議室
閲覧の手続の概要 「病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧請求書」を提出し、病院長決裁後、第3会議室にて閲覧。	

(注)既に医療法施行規則第9条の20第5号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数		延	0	件
閲覧者別	医師	延	0	件
	歯科医師	延	0	件
	国	延	0	件
	地方公共団体	延	0	件

(注)特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

閲覧担当者一覧

様式6 別紙①

診療科	管理担当者氏名	診療科	管理担当者氏名
呼吸器・神経・膠原病内科	星野 友昭	泌尿器科	井川 掌
消化器内科	川口 巧	産婦人科	津田 尚武
心臓・血管内科	福本 義弘	眼科	吉田 茂生
腎臓内科	深水 圭	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	梅野 博仁
内分泌代謝内科	野村 政壽	放射線科	安陪 等思
血液・腫瘍内科	長藤 宏司	歯科口腔医療センター	楠川 仁悟
精神神経科	小曾根 基裕	麻酔科	平木 照之
小児科	山下 裕史朗	高度救命救急センター	高須 修
外科	藤田 文彦	呼吸器病センター	星野 友昭
整形外科	平岡 弘二	消化器病センター	岡部 義信
形成外科・顎顔面外科	清川 兼輔	循環器病センター	田山 栄基
脳神経外科	森岡 基浩	内科総合外来	深水 圭
小児外科	加治 健	乳腺外科・一般外科 総合外来	藤田 文彦
皮膚科	名嘉真 武國	薬剤部	福本 義弘

規則第1条の11第1項各号に掲げる医療に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	(有)・無
<p>・ 指針の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 安全管理に関する基本的考え方 2. 安全管理のための委員会その他医療機関内の組織に関する基本的事項 3. 安全管理のための職員研修に関する基本方針 4. 事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策に関する基本方針 5. 医療事故等発生時の対応に関する基本方針 6. 医療従事者と患者との間の情報の共有に関する基本方針 7. 患者からの相談への対応に関する基本方針 8. その他医療安全の推進のために必要な基本方針 	
② 医療に係る安全管理のための委員会の設置及び業務の状況	
<p>・ 設置の有無 ((有)・無)</p> <p>・ 開催状況：年 12回</p> <p>・ 活動の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 重大な問題その他委員会において取り扱う問題が発生した場合における速やかな原因究明のための調査及び分析、その結果を活用した医療に係る安全確保を目的とした改善のための方策の立案、実施及び職員への周知 2. 改善のための方策の実施状況調査及び必要に応じた当該対策の見直し 3. 医療の安全管理の啓発及びその評価を図るために必要な事項 4. 医療安全管理マニュアルの改訂及び各部署の安全対策に関する手順の作成指導 5. リスクマネジャー会議招集 6. 医療安全に係る患者からの相談に関する対応 7. 医療事故調査制度に基づく死亡症例に関する事項 8. その他委員長が必要と認める事項 <p>主な内容： 事件事例報告、各下部小委員会からの報告、警鐘事例報告、死亡症例報告、医薬品管理状況報告、医療安全監査委員会報告、医療安全に資する診療内容のモニタリング結果報告、福岡県四大学病院安全会議報告、日本医療機能評価機構からの事故情報報告、PMDAからの情報報告、医療安全関連規則およびマニュアルの制定・改廃審議、その他</p>	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年 32回
<p>・ 研修の内容（すべて）：別紙1のとおり</p>	
④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の実施状況	
<p>・ 医療機関内における事故報告等の整備 ((有)・無)</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 医療安全推進委員会（多職種）で業務改善計画書を作成し、院内の問題点抽出、計画、実施、評価 改善活動を実施、中間及びまとめを委員会報告 2. インシデント小委員会での内容の審議、対策立案、周知 3. セイフティコントロールチームでは、チームで再発予防策を検討すべきインシデント・合併症・併発症事例に対して、再発予防策の実施状況や改善状況の確認、フィードバック 4. RRS症例検討委員会で、適切にRRTが起動した事例や改善が必要な事例を選出し、職員の教育を行っている。 5. M&Mカンファレを複数診療科の医師や部門の職種を参集して開催し、原因や対策を考察し、改善の方法やその効果(可能性)について議論し、今後の診療に繋がる提案を具体的に導き出しながら、事例の振り返りを行っている。 6. 上記の内容を医療安全管理対策委員会で報告し職員へ周知する。 	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第1号に掲げる院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	(有)・無
<p>・ 指針の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 医療関連感染対策に関する基本的な考え方 2. 委員会の組織に関する基本的な事項 3. 職員研修に関する基本方針 4. 感染発生状況の報告に関する基本方針 5. 感染発生時対応に関する基本方針 6. 新興感染症発生時対応に関する基本方針 7. 抗菌薬適正使用にかんする基本指針 8. 他の医療機関との連携に関する基本方針 9. 指針の閲覧に関する基本方針 	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年 12回
<p>・ 活動の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. VRE積極的監視培養の結果報告 2. ICTからの活動報告（抗生剤適正使用状況監視、耐性菌サーベイランス結果報告） 3. 針刺し・切創体液曝露報告 4. 病棟ラウンド、外来ラウンド状況報告 5. 感染リンクナース委員会の活動状況報告 等 	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年 12回
<p>・ 研修の内容（すべて）：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 流水手洗い演習 2. 血流感染と輸液ルート管理 3. 針刺し・切創・体液曝露対策 4. N95マスクフィットテストチェック 5. PPE着脱演習 6. 感染症トピックス （別紙2参照） 	
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況	
<p>・ 病院における発生状況の報告等の整備 (有)・無)</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 血培陽性者及び感染症法に定められた感染症に関する菌（耐性菌）ウィルスに関しては感染制御部スタッフが電子カルテ上で確認し、その都度アウトブレイク対応表に準じてICD/ICNが介入している。 ・ 検査部門・NICU部門におけるJANISに参加している。 ・ 耐性菌発生時は状況に応じて、管轄保健所や九州厚生局などへ報告を行っている。 ・ 院内感染対策推進として、院内でICT/LN活動を積極的に行い、病棟出張勉強会に力を注いでいる。院外では地域病院と連携し研修・講習会を実施している。 ・ COVID-19関連では全職員及び地域に向けての教育研修を行っている。 	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第2号に掲げる医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品安全管理責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年 11回
<p>・ 研修の主な内容：</p> <p>2022年4月1日 令和4年度新採用者オリエンテーション 「処方箋と医薬品の取扱い」</p> <p>2022年4月11日 令和4年度新採用者異動者オリエンテーション 「処方箋と医薬品の取扱い」</p> <p>2022年5月12日、13日 久留米大学病院看護部研修 「病棟での薬剤師の業務について/薬剤の知識と危険性について/麻薬の取り扱い方法」</p> <p>2022年4月11日～2023年3月24日 第204回久留米大学病院TQM講習会 「医薬品の安全使用について」</p> <p>2022年5月27日 西9階病棟勉強会 「抗がん剤治療について考える」</p> <p>2022年6月21日～ スキルドナーズセミナー 「がん薬物治療について」</p> <p>2022年7月6日 東5階病棟勉強会 「救急カート内薬品について」</p> <p>2022年11月19日 久留米大学病院院内認定看護師研修会 「在宅療養を見据えた薬剤師の関わり」</p> <p>2022年9月 中央手術部 麻酔科 「麻薬の取扱いについて」</p> <p>2022年10月19日 内科総合外来 「レブラミドについて」</p> <p>2023年2月20日 西9階病棟勉強会 「麻薬事故再発予防のために」</p>	

③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況

- ・ 手順書の作成 (有・無)
- ・ 手順書の内訳に基づく業務の主な内容：
 - (1) 病棟・外来での医薬品（定数配置薬、麻薬、向精神薬、毒薬、消毒薬、医薬用外毒物・劇物を含む）管理状況の定期的チェック（定数見直し、数、有効期限も含む）
 - (2) 病棟・外来での医薬品情報の整理・周知状況の定期的チェック
 - (3) 手順書順守状況の確認（医薬品の受領、与薬、調製、ダブルチェック等）

④ 医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況

- ・ 医薬品に係る情報の収集の整備 (有・無)
- ・ 未承認等の医薬品の具体的な使用事例（あれば）：

再発性喉頭乳頭腫の補助療法としてシドフォビルを使用（1例）
- ・ その他の改善のための方策の主な内容：
 - (1) 未承認薬については未承認新規医薬品・医療機器管理部を担当部門として、未承認新規医薬品等評価委員会を設置し、適切な使用方法等を審議し、使用の情報を得ている。
 - (2) 未承認薬等医薬品の申請手続きの周知徹底を図るため、各診療科への「周知文」を毎年度初めに配付するとともに、院内イントラネットに申請義務、内部通報、手順書を明示している。
 - (3) 適応外使用等については薬剤部において疑義照会で把握した者はDI室で情報を管理し、薬事委員会、医薬品安全管理責任者へ報告し、病院倫理委員会への申請を促している。
 - (4) 最新の医薬品情報を収集・管理し、各職種に迅速に提供できる体制を整備している。緊急安全性情報・安全性速報、PMDA及び日本機能評価機構の医薬品に関する安全性情報等については、電子カルテシステムのメッセージ機能により情報提供を行い、掲示板の「お知らせ」及び「薬剤部医薬品情報室」に掲載し、文書でも関連部署に配付している。

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第3号に掲げる医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器安全管理責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年 40回
<ul style="list-style-type: none"> ・ 研修の主な内容： 放射線検査（MRI含む）に関する研修（研修医・新人看護師） MRI磁場体験 放射線治療装置の安全取扱い研修 デジタルX線TVシステム新規導入時の研修 一般撮影装置更新時の研修 X線透視装置更新時の研修 人工心肺及び補助循環装置の研修 人工呼吸器の研修 血液浄化装置の研修 除細動器の研修 閉鎖式保育器の研修 	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 医療機器に係る計画の策定 (有・無) ・ 機器ごとの保守点検の主な内容： 日常点検、定期点検（一部メーカーによる点検あり） 	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる未承認等の医療機器の使用の状況その他の情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 医療機器に係る情報の収集の整備 (有・無) ・ 未承認等の医療機器の具体的な使用事例（あれば）： ・ その他の改善のための方策の主な内容： パルス透視のフレームレート調整による被ばく線量の低減 被ばく線量管理システムを使用した患者被ばく線量管理 透視線量が多い循環器血管造影装置の更新 水晶体被ばく線量が多い従事者へ水晶体被ばく線量計の配布 水晶体被ばくに関する注意喚起線量設定及び注意喚起文書の送付 水晶体被ばくが多い医師に対する面接及び被ばく低減方法の指導 	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第9条の20の2第1項第1号から第13号の二に掲げる事項の実施状況

① 医療安全管理責任者の配置状況	有・無
<p>・責任者の資格 (医師・歯科医師)</p> <p>・医療安全管理責任者による医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者の統括状況</p> <p>1. 医療安全担当副院長を医療安全責任者として配置している。</p> <p>2. 医療安全、医薬品安全及び医療機器安全について必要な知識を有している</p> <p>3. 医療安全に関わる研修を定期的に受講している</p> <p>(業務)</p> <p>1. 病院長と連携し、医療安全に資する診療内容のモニタリング、医療安全の認識の浸透度の確認を行ない、各部門の安全管理業務を把握する。</p> <p>2. 専門分野責任者と連携し、各部門の安全管理を推進・指導する</p> <p>3. 医療事故、警鐘事例について周知、指導する</p> <p>4. 医療安全管理上の問題、対策について周知、指導する</p>	
② 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	有 (3名) ・ 無
<p>③ 医薬品安全管理責任者の業務実施状況</p> <p>・ 医薬品に関する情報の整理・周知に関する業務の状況</p> <p>最新の医薬品情報を収集・管理し、各職種に迅速に提供できる体制を整備している。緊急安全性情報・安全性速報、PMDA 及び日本機能評価機構の医薬品に関する安全性情報等については、電子カルテシステムのメッセージ機能により情報提供を行い、掲示板の「お知らせ」及び「薬剤部医薬品情報室」に掲載し、文書でも関連部署に配付している。</p> <p>・ 未承認等の医薬品の使用に係る必要な業務の実施状況</p> <p>(1) 未承認薬については、未承認新規医薬品・医療機器管理部を担当部門として、未承認新規医薬品等評価委員会を設置し、適切な使用方法等を審議し、使用の情報を得ている。</p> <p>(2) 未承認薬等医薬品の申請手続きの周知徹底を図るため各診療科への「周知文」を毎年度初めに配付するとともに、院内イントラネットに申請義務、内部通報、手順書を明示している。</p> <p>(3) 適応外使用等については薬剤部において疑義照会で把握したものは DI 室で情報を管理し、薬事委員会、医薬品安全管理責任者へ報告し、病院倫理委員会への申請を促している。</p> <p>・ 担当者の指名の有無 (有・無)</p> <p>・ 担当者の所属・職種：</p> <p>(所属： 薬剤部 ， 職種 薬剤師) (所属： ， 職種)</p> <p>(所属： ， 職種) (所属： ， 職種)</p> <p>(所属： ， 職種) (所属： ， 職種)</p> <p>(所属： ， 職種) (所属： ， 職種)</p>	

④ 医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	(有)・無
<p>・医療の担い手が説明を行う際の同席者、標準的な説明内容その他説明の実施に必要な方法に関する規程の作成の有無 ((有)・無)</p> <p>・説明等の実施に必要な方法に関する規程に定められた事項の遵守状況の確認、及び指導の主な内容 : 管理責任者はリスクマネジャー(診療部長)とし、診療録のインフォームド・コンセントに関する監査をサブリスクマネジャー(病棟医長)が毎月5事例程度監査を実施する。監査対象患者はリスクマネジャーが選択する。年に1回インフォームド・コンセントに関する監査の実施状況について定点調査を実施し、7つの監査項目の評価状況を確認。集計結果を医療安全管理対策委員会で報告し、改善が必要な項目について指導している。</p>	

⑤ 診療録等の管理に関する責任者の選任状況	(有)・無
<p>・診療録等の記載内容の確認、及び指導の主な内容 :</p> <p>・医療情報センター長を管理責任者として配置している。 ・診療情報システム管理委員会(以下委員会)統括の下、定期的に相互監査(病棟医長・看護師長が相互に他診療科の診療録監査を行う。)を実施している。 相互監査はチェックリストに基づいて診療記録の内容を確認し、必要に応じて記載方法等について指導を行っている。 委員会統括の下、定期的に科内監査(診療部長・外来医長・病棟医長等で自らの診療科の診療録監査を行う。)を実施している。必要に応じて作成者へ指導を行っている。 監査の結果は、委員会へ報告し、必要に応じて啓蒙や是正勧告を行っている。</p>	

⑥ 医療安全管理部門の設置状況	(有)・無
<p>・所属職員：専従 (7) 名、専任 (1) 名、兼任 (6) 名 うち医師：専従 (1) 名、専任 () 名、兼任 (4) 名 うち薬剤師：専従 (1) 名、専任 () 名、兼任 (1) 名 うち看護師：専従 (3) 名、専任 () 名、兼任 () 名 うち臨床工学技士：専従 () 名、専任 () 名、兼任 (1) 名 うち事務職員：専従 (2) 名、専任 (1) 名、兼任 () 名</p> <p>(注) 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること</p> <p>・活動の主な内容 :</p> <p>1. 医療安全確保のための業務改善計画書を作成し、それに基づく医療安全対策実施状況を把握、分析し、医療安全に必要な業務改善等の具体低な対策を策定する。</p> <p>2. 事故その他の医療安全管理部門において取り扱うことが必要なものとして、病院長が認める事象</p>	

が発生した場合における診療録及びその他の診療諸記録、患者及び家族への説明、その他の対応状況を把握し、当該事象の発生の原因の究明及び当該結果に基づく対策の実施等について職員へ指導する。

3. 医療安全に資する診療内容のモニタリング及び医療安全の認識の浸透度の確認等を行なう。
4. 医療安全管理対策に係る体制を確保するための職員研修の企画、実施、実績を記録する。
5. 医療安全管理対策に係る取り組みの評価等を行なうカンファレンスを週1回開催する。
6. 医療安全管理対策委員会との連携状況および事務取り扱いに関すること。
7. 患者等の相談件数及び相談内容、相談後の取り扱いに関すること。
8. 医療安全管理者の活動実績の記録に関すること。
9. 医療事故、インシデント・合併症/併発症報告書の収集と集計、分析、対策の実施に関すること。
10. 医療機関等の医療安全に係る情報収集及び医療安全情報発行、職員への周知及び指導に関すること。
11. 医療安全管理マニュアル等の作成、整備に関すること。

・その他医療安全に関すること

※ 診療モニタリング

- ・全入院患者に対する静脈血栓塞栓症予防対策実施状況（リスク評価、予防策実施状況、予防計画立案、予防策説明状況など）
- ・高難度新規医療技術 説明書・同意書 取得状況、診療記録内容、IC同席率
- ・3b以上事故事例に関するIC同席率
- ・鎮静下で行う処置・検査時のモニタリング・記録実施状況
- ・検査結果報告書見落とし防止策（患者への説明と記録）の実施状況
- ・全死亡症例カルテ確認（入院、侵襲的処置・検査時、退院時のIC記録）
- ・画像診断および病理診断報告書の目的外診断発生時の対応状況
- ・転倒・転落発生率
- ・IC記録に関する監査
- ・RRS要請件数
- ・一般病棟より救命センター・SICUへ転科転棟した症例
- ・院内急変患者モニタリング
- ・心肺蘇生講習会開催・受講者管理
- ・検体採取時のPDA認証実施率

※ 平成二八年改正省令附則第四条第一項及び第二項の規定の適用を受ける場合には、専任の医療に係る安全管理を行う者が基準を満たしていることについて説明すること。

※ 医療安全管理委員会において定める医療安全に資する診療内容及び従事者の医療安全の認識について

の平時からのモニタリングの具体例についても記載すること。

⑦ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況

- ・前年度の高難度新規医療技術を用いた医療の申請件数（ 5 件）、及び許可件数（ 5 件）
- ・高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の設置の有無（ 有・無 ）
- ・高難度新規医療技術を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（ 有・無 ）
- ・活動の主な内容：

高難度新規医療技術の提供の適否、実施を認める条件等に関する委員会を開催し、その意見を踏まえて、当該高難度新規医療技術の提供、実施を認める条件等について決定した上で、診療科の長に対しその結果を通知する。

定期的に手術記録、診療録等の記載内容を確認し、当該高難度新規医療技術が適正な手続きに基づいて提供されていたか否かを確認する。また必要に応じて報告書等の提出を依頼する。

決定事項、確認事項等について病院長に報告する。

- ・規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（ 有・無 ）
- ・高難度新規医療技術評価委員会の設置の有無（ 有・無 ）

⑧ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況

- ・前年度の未承認新規医薬品等を用いた医療の申請件数（ 1 件）、及び許可件数（ 1 件）
- ・未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の設置の有無（ 有・無 ）
- ・未承認新規医薬品等を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び未承認新規医薬品等の使用条件を定め使用の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（ 有・無 ）
- ・活動の主な内容：

未承認新規医薬品等の使用の適否、使用条件等に関する委員会を開催し、その意見を踏まえて、未承認新規医薬品等の使用の適否、使用条件等について決定した上で、診療科の長に対しその結果を通知する。

定期的に診療録等の記載内容を確認し、当該未承認新規医薬品等が適正な手続きに基づいて使用されていたか否かを確認する。また必要に応じて報告書等の提出を依頼する。

決定事項、確認事項等について病院長に報告する。

- ・規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（ 有・無 ）
- ・未承認新規医薬品等評価委員会の設置の有無（ 有・無 ）

⑨ 入院患者が死亡した場合などの医療安全管理部門への報告状況

- ・入院患者が死亡した場合の医療安全管理部門への報告状況：年 348 件（死産 50 件）
- ・上記に掲げる場合以外の場合であって、通常の経過では必要がない処置又は治療が必要になったものとして特定機能病院の管理者が定める水準以上の事象が発生したとき当該事象の発生の事実及び発生前の状況に関する医療安全管理部門への報告状況：年 79 件
- ・上記に関する医療安全管理委員会の活動の主な内容
 1. 死亡、死産症例報告件数、報告状況、医療事故調査支援センターへの報告状況の共有
 2. 報告すべき有害事象に関する報告内容検討

⑩ 他の特定機能病院等の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況

- ・他の特定機能病院等への立入り（有）（病院名：福岡大学病院）・無）
- ・他の特定機能病院等からの立入り受入れ（有）（病院名：福岡大学病院）・無）
- ・技術的助言の実施状況 なし

⑪ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況

- ・体制の確保状況
 1. 患者相談窓口に関する規約に沿って実施。
 2. 医療安全管理部は、相談窓口担当者と連携を図り、医療安全対策に係る患者・家族の相談に適切に応じる体制を支援。
 3. 医療安全に関する相談について、医療安全管理部医療安全管理者が対応する。
 4. 医療安全管理対策委員会で報告。
 5. 相談窓口は医療連携センターにおき、患者から受けた相談について、担当部署で審議対応する。

⑫ 職員研修の実施状況

- ・研修の実施状況
- 別紙 1 のとおり

（注）前年度の実績を記載すること（⑥の医師等の所属職員の配置状況については提出年度の10月1日の員数を記入すること）

⑬ 管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況

・研修の実施状況

1. 特定機能病院管理者養成研修（日本医療機能評価機構）
2. 日本病院薬剤師会医薬品安全管理者責任者講習会
3. 令和4年度 管理者・実務者セミナー（日本医師会、日本医療安全調査機構）
4. 令和4年度 国公立大学附属病院医療安全セミナー（大阪大学）
5. 医療安全に関するワークショップ（九州厚生局）

（注）前年度の実績を記載すること

⑭ 医療機関内における事故の発生の防止に係る第三者による評価の受審状況、当該評価に基づき改善のために講ずべき措置の内容の公表状況、当該評価を踏まえ講じた措置の状況

・第三者による評価の受審状況

○ 日本医療機能評価機構 令和元年9月6日認定 有効期間 令和6年4月18日
一般病院3（主たる機能）、精神科病棟（副機能）、緩和ケア病院（副機能）

2024年2月に日本医療機能評価機構（3rdG:Ver3.0）受審予定

・評価に基づき改善のために講ずべき措置の内容の公表状況

公表する方向で検討中

・評価を踏まえ講じた措置

（注）記載時点の状況を記載すること

2022年度 「安全対策」 研修会受講者数 (2023/3/31現在)

日 時	開催時間	内 容	講 師	医 師	看護業務者	コメディカル	事 務 (メディカルを含む)	計
1		使用しない(予備)						
2	4月28日(水) 2023年3月24日(金)	- 令和4年度 放射線安全取扱研修 e-Learning	放射線障害防止委員長 安陪 等思 先生 RI施設・医学部放射線取扱主任者 久志野 彰寛 先生	567	609	142	17	1,335
3	4月1日(金) 4月30日(土)	- NSTセミナー(4月)「重症患者の早期経腸栄養管理」e-Learning	小児科学講座 小児外科部門 七種 伸行 先生	95	342	55	17	509
4	4月11日(月) 2023年3月24日(金)	- 第204回TQM講習会「医薬品の安全使用について」e-Learning	感染制御部 薬剤師 酒井 義朗 先生	349	901	205	108	1,563
5	4月11日(月) 2023年3月24日(金)	- 第205回TQM講習会「医療ガスの安全使用について」e-Learning	臨床工学センター 安達 梢 先生	263	819	172	85	1,339
6	6月1日(火) 6月30日(木)	- 令和4年度 虐待防止研修会「小児虐待について」e-Learning	CPTメンバー 小児科 酒井 さやか 先生	65	527	67	41	700
7	4月9日(金) 2023年3月24日(金)	- 令和4年度 医療機器安全講習 「透析の基本から安全管理(血液浄化装置)」e-Learning	臨床工学センター 今井 徹郎 先生	164	687	89	29	969
8	4月9日(金) 2023年3月24日(金)	- 第207回TQM講習会「インフォームドコンセント インシデント・アクシデント報告の流れ医療安全に係る具体的事例の改善策」e-Learning	医療安全管理部 看護師長 早川 晴美 先生	182	708	115	49	1,054
9	6月1日(水) 6月30日(木)	- NSTセミナー(6月)「栄養管理計画書の作成方法」e-Learning	NST 看護師会	40	430	38	13	521
10	6月1日(水) 2023年3月24日(金)	- 令和4年度 医療機器安全講習 「～人工心臓・補助循環～」(人工心臓) e-Learning	臨床工学センター 石井 義和 先生	110	638	91	15	854
11	4月1日(金) 2023年3月24日(金)	TeamSTEPPS DVD研修	2020年 医療安全推進委員会作成	0	10	0	0	10
12	6月30日(木)	13:30 14:00 トリロジーEvoシリーズ説明会 (在宅呼吸器)	東6階病棟 看護師長 川野佐由里 先生	11	19	0	0	30
13	7月1日(金) 7月31日(日)	- 第208回TQM講習会「インスリンの使用について」e-Learning	内分泌代謝内科 永山 綾子 先生	43	357	41	10	451
14	7月1日(金) 7月31日(日)	- NSTセミナー(7月)「肝臓と栄養」e-Learning	消化器内科 中野 暖 先生	41	324	40	10	415
15	7月11日(月)	患者確認シミュレーション研修 (病棟等)	東8階病棟 荒木美和子 先生等、東5階病棟、その他	8	77	0	0	85
16	7月14日(木) 2023年3月24日(金)	- 救急蘇生講習会(実技) AEDの使い方等説明会	救命救急センター 山下典雄先生 医療安全管理部 早川晴美先生、林ゆかり先生、合原則隆先生	2	3	8	7	20
17	8月1日(月) 2023年3月24日(金)	- 令和4年度 医療機器安全講習「保育器」(閉鎖式保育器)e-Learning	臨床工学センター 吉開友佳 先生	84	535	58	23	700
18	4月20日(水)	16:45 17:15 救急カート点検・管理方法についての研修会開催について	医療安全管理部 合原則隆先生	2	1	33	1	37
19	9月1日(木) 9月30日(金)	- 第210回TQM講習会「脂肪肝を治す食事と運動」 e-Learning	消化器内科 川口 巧 先生	44	302	49	20	415
20	9月1日(木) 2023年3月24日(金)	- 令和4年度 医療機器安全講習「除細動器について」(除細動器)e-Learning	臨床工学センター 吉田知弘 先生	171	619	85	25	900
21	10月3日(月) 10月31日(月)	- 「臨床倫理研修会」 e-Learning	病院長 志波 直人先生 病院倫理委員会委員長 野村 政壽先生 病院倫理委員会委員 兼 臨床倫理コンサルテーションチーム委員 塗木 京子先生	35	775	76	18	904

2022年度 「安全対策」研修会受講者数 (2023/3/31現在)

日 時	開催時間	内 容	講 師	医 師	看護業務者	コメディカル	事 務 (メディカルワーク含)	計
22	9月29日(木)	令和4年度 放射線安全取扱研修(筑水会館実施分)	放射線障害防止委員長 安陪 等思 先生 RI施設・医学部放射線取扱主任者 久志野 彰寛 先生	55	7	19	8	89
23	11月1日(火) 11月30日(水)	NSTセミナー(11月)「久留米大学病院における経腸栄養剤の種類」 e-Learning	外科学講座 小児外科部門 東館 成希 先生	56	464	38	10	568
24	11月1日(火) 2023年3月24日(金)	令和4年度 医療機器安全講習「人工呼吸療法と覚醒試験(SAT)・離脱試験(SBT)」(人工呼吸器) e-Learning	臨床工学センター 佐々木 俊輔 先生	90	493	29	7	619
25	12月5日(月) 12月31日(土)	第213回TQM講習会「多職種協働に向けたクリニカルパスの活用」 e-Learning	クリニカルパス委員会 七種 伸行 先生	46	269	24	6	345
26	12月10日(土) 12月31日(土)	NSTセミナー(12月)「役に立つ栄養アセスメント」 e-Learning	外科学講座 小児外科部門 七種 伸行 先生	20	200	16	5	241
27	12月28日(水) 2023年1月31日(火)	NSTセミナー(1月)「肥満症に対する治療 減量・代謝改善手術」 e-Learning	外科学講座 消化管部門 石橋 生哉 先生	20	289	18	5	332
28	12月28日(水) 2023年1月31日(火)	第214回TQM講習会「がん疼痛治療指針update(第8版)」 e-Learning	緩和ケアチーム薬剤師 牧瀬 智美 先生	28	297	21	4	350
29	2023年2月1日(水) 2023年3月24日(金)	第215回TQM講習会「特定機能病院の承認要件に関わる外部監査報告と日常診療における個人情報保護の留意点」 e-Learning	医療安全管理部 部長 横山 晋二 先生	23	238	18	7	286
30	2023年2月1日(水) 2023年2月28日(火)	NSTセミナー(2月)「安全な栄養管理を目指して」 e-Learning	外科学講座 小児外科部門 加治 建 先生	29	215	17	2	263
31	2023年1月20日(金)	医療機器チェック研修会(在宅呼吸器について)	外科学 向井 純平 先生 総合周産期母子医療センター 木下 正啓 先生	9	10			19
32	2023年3月1日(水) 2023年3月24日(金)	e-Learning 第217回TQM講習会「TQM大会」 ＜クリニカルパス委員会＞ 「パスを活用したチーム医療の推進 ～早期栄養介入パスによる多職種連携～」 ＜医療安全管理対策委員会＞ 「活動方針及び実施計画・実績報告」 ＜感染対策委員会＞ 「久留米大学病院におけるCOVID-19対策 2020年4月から2022年12月までの変遷 ～入院受入数・治療薬・検査・ワクチン～」 ＜褥瘡対策委員会＞ 「褥瘡対策委員会 2022年度活動報告 密避けて褥瘡予防は濃密に」 ＜緩和ケアセンター運営委員会＞ 「緩和ケアセンター活動報告」 ＜栄養サポート(NST)運営委員会＞ 「2022年度 NST運営委員会 活動報告 ～特別食提供率を上げるための取り組み～」	＜クリニカルパス委員会＞ クリニカルパス委員会 後藤 千津 先生 ＜医療安全管理対策委員会＞ 医療安全管理部 早川 晴美 先生 ＜感染対策委員会＞ 感染制御部 三浦 美穂 先生 ＜褥瘡対策委員会＞ 褥瘡対策チーム 高木 孝実 先生 ＜緩和ケアセンター運営委員会＞ 緩和ケアセンター 塗木 京子 先生 ＜栄養サポート運営委員会＞ 栄養治療部 丸山 奈津実 先生	53	148	20	13	234
計				2,705	11,313	1,584	555	16,157

	医 師	看護業務者	コメディカル	事務 (メディカルワーク含)	計
2022年度受講者数	2,705	11,313	1,584	555	16,157

2023年3月1日 現在 (管理課提供の職員数)

現員数 (年度平均)	616	1,116	379	172	2,283
------------	-----	-------	-----	-----	-------

参加率	439.1%	1013.7%	417.9%	322.7%	707.7%
-----	--------	---------	--------	--------	--------

2022年度 「感染対策」研修会受講者数 (2023/3/31現在)

日 時	開催時間	内 容	講 師	医 師	看護業務者	コメディカル	事 務 (IT・カルテ・検査)	計	
1	-	使用しない(予備)						—	
2	4月1日(木) 7月31日(土)	-	第206回TQM講習会「2021年度 COVID-19対策まとめと感染対策の取組報告および2022年度 感染対策委員会 ICT等 活動目標について」e-Learning	感染制御部 三浦 美穂 先生	294	728	249	132	1,403
3	4月9日(金) 2023年3月24日(金)	-	流水手洗い演習(感染対策勉強会)	感染制御部 片山 英希 先生 ICTの担当 先生	143	634	116	83	976
4	6月15日(水) 2023年3月24日(金)	-	血流感染と輸血ルート管理について(演習)	感染制御部 三浦 美穂 先生 感染制御部 片山 英希 先生	14	134	2	0	150
5	6月10日(金)	17:00 18:00	感染症発生時の拡大予防策	感染制御部 三浦 美穂 先生	0	74	0	0	74
6	6月1日(水) 2023年3月24日(金)	-	針刺し・切創事故防止DVD視聴	感染制御部 三浦 美穂 先生	0	60	4	0	64
7	6月15日(水) 10月31日(月)	-	第209回TQM講習会「中央滅菌材料部のはたらき」e-Learning	中央滅菌材料部 高野 正代 先生	305	755	271	93	1,424
8	9月8日(木)	9:00 15:00	N95マスクフィットチェック(演習)	看護部管理室、感染制御部	0	51	3	5	59
9	6月15日(水) 2023年3月31日(金)	-	PPE着脱演習	感染制御部、リンクナース	2	252	0	0	254
10	11月1日(火) 2023年1月31日(火)	-	第211回TQM講習会「抗酸菌検査について」e-Learning	臨床検査部 堀田 吏乃 先生	353	688	146	56	1,243
11	11月7日(月) 2022年12月31日(土)	-	第212回TQM講習会「褥瘡治療を多職種連携で乗り越える」e-Learning	皮膚科学講座 添田 麻莉 先生	262	589	98	26	975
12	2023年2月1日(水) 2023年3月24日(金)	-	e-Learning 第216回TQM講習会「手術室における針刺し・切創対策」	感染制御部 / 中央手術部	118	289	37	17	461

2022年度 「感染対策」 研修会受講者数 (2023/3/31現在)

日 時	開催時間	内 容	講 師	医 師	看護業務者	コメディカル	事 務 (メディカルワーク含)	計
2023年3月1日(水)	-	e-Learning 第217回TQM講習会「TQM大会」 <クリニカルパス委員会> 「パスを活用したチーム医療の推進 ～早期栄養介入パスによる多職種連携～」 <医療安全管理対策委員会> 「活動方針及び実施計画・実績報告」 <感染対策委員会> 「久留米大学病院におけるCOVID-19対策 2020年4月から2022年12月までの変遷 ～入院受入数・治療薬・検査・ワクチン～」	<クリニカルパス委員会> クリニカルパス委員会 後藤 千津 先生 <医療安全管理対策委員会> 医療安全管理部 早川 晴美 先生 <感染対策委員会> 感染制御部 三浦 美穂 先生 <褥瘡対策委員会> 褥瘡対策チーム 高木 孝実 先生	53	148	20	13	234
2023年3月24日(金)	-	<褥瘡対策委員会> 「褥瘡対策委員会 2022年度活動報告 密避けて 褥瘡予防は 濃密に」 <緩和ケアセンター運営委員会> 「緩和ケアセンター活動報告」 <栄養サポート(NST)運営委員会> 「2022年度 NST運営委員会 活動報告 ～特別食提供率を上げるための取り組み」	<緩和ケアセンター運営委員会> 緩和ケアセンター 塗木 京子 先生 <栄養サポート運営委員会> 栄養治療部 丸山 奈津実 先生					0
計				1,544	4,402	946	425	7,317

	医 師	看護業務者	コメディカル	事務 (メディカルワーク含)	計
2022年度受講者数	1,544	4,402	946	425	7,317
2023年3月1日現在 (管理課提供の職員数)	616	1,116	379	172	2,283
参加率	250.6%	394.4%	249.6%	247.1%	320.5%

規則第7条の2の2第1項各号に掲げる管理者の資質及び能力に関する基準

<p>管理者に必要な資質及び能力に関する基準</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 基準の主な内容 <ol style="list-style-type: none"> (1) 医師免許を有している者 (2) 高度な医療を司る病院の管理運営上必要な資質・能力を有する者 (3) 医療安全確保のために必要な資質・能力を有する者 (4) 久留米大学医学部附属病院及び同医療センターの臨床系の教授であるもの (5) 久留米大学医学部附属病院及び同医療センターにおいて、各々が掲げる理念・目標を実現するために必要な資質・能力を有する者 ・ 基準に係る内部規程の公表の有無 (<input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無) ・ 公表の方法 大学ホームページ
--

規則第7条の3第1項各号に掲げる管理者の選任を行う委員会の設置及び運営状況

前年度における管理者の選考の実施の有無	<input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 選考を実施した場合、委員会の設置の有無 (<input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無) ・ 選考を実施した場合、委員名簿、委員の経歴及び選定理由の公表の有無 (<input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無) ・ 選考を実施した場合、管理者の選考結果、選考過程及び選考理由の公表の有無 (<input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無) ・ 公表の方法 				
管理者の選任を行う委員会の委員名簿及び選定理由				
氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	特別の関係
別紙参照				有・無
				有・無
				有・無
				有・無

規則第9条の23第1項及び第2項に掲げる病院の管理及び運営を行うための合議体の設置及び運営状況

合議体の設置の有無	(有) 無		
<ul style="list-style-type: none"> ・ 合議体の主要な審議内容 <ul style="list-style-type: none"> (1) 大学病院の規則に関する事項 (2) 大学病院の管理運営に関する重要事項 (3) 臨床研修に関する事項 (4) その他重要事項 ・ 審議の概要の従業者への周知状況 <p style="margin-left: 20px;">診療部長会メンバー以外に、事務・コメディカル等の各部門（所属）長も陪席で会議に参加している。会議終了後、会議参加者より各部門の職員へ周知を行っている。</p> ・ 合議体に係る内部規程の公表の有無 ((有) 無) ・ 公表の方法 <p style="margin-left: 20px;">大学内ホームページに掲載</p> ・ 外部有識者からの意見聴取の有無 (有 (無)) 			
合議体の委員名簿			
氏名	委員長 (○を付す)	職種	役職
※別紙1のとおり			

規則第15条の4第1項第1号に掲げる管理者が有する権限に関する状況

管理者が有する病院の管理及び運営に必要な権限

- ・ 管理者が有する権限に係る内部規程の公表の有無（有・無）
- ・ 公表の方法
大学内ホームページに掲載

- ・ 規程の主な内容
 - (1) 大学病院に病院長及び副院長を置く。
 - (2) 病院長は、久留米大学医学部附属病院長等選考内規に基づき選出し、理事長が選任する。
 - (3) 副院長は、病院長が選定し、診療部長会の了承を得るものとする。
 - (4) 副院長は、前項で選定された者の他、医療安全管理部、医療安全管理対策委員会、医薬品安全管理責任者、医療機器安全管理責任者の業務を統括する医療安全管理責任者及び看護部長が就く。
 - (5) 病院長は、大学病院全般の管理、運営にあたる。
 - (6) 副院長は、病院長を補佐し、病院長に事故があるときは、その職務を代行する。

- ・ 管理者をサポートする体制（副院長、院長補佐、企画スタッフ等）及び当該職員の役割
副院長：病院長を補佐し、病院長に事故があるときは、その職務を代行する。
病院長特別補佐：病院長を補佐し、大学病院の運営全般に関し、病院長に助言等を行うとともに、病院長が必要と認める事項について業務を行う。

- ・ 病院のマネジメントを担う人員についての人事・研修の状況
各種委員会の委員長等の就任及び運営すること等を通じて、病院長の指示のもとに病院経営・運営の一端を担うことができおり、病院のマネジメント力に資する有効な経験を積むことができている。

規則第15条の4第1項第2号に掲げる医療の安全の確保に関する監査委員会に関する状況

監査委員会の設置状況	有・無
<p>・ 監査委員会の開催状況：年2回</p> <p>直近2回</p> <p>令和4年9月26日 久留米大学病院医療安全監査委員会開催</p> <p>令和5年2月20日 久留米大学病院医療安全監査委員会開催</p> <p>・ 活動の主な内容：</p> <p>福岡大学病院から3名（医師、看護師、薬剤師）、医療を受ける者1名を委員として実施</p> <p>・ 監査委員会の業務実施結果の公表の有無（有・無）</p> <p>・ 委員名簿の公表の有無（有・無）</p> <p>・ 委員の選定理由の公表の有無（有・無）</p> <p>・ 監査委員会に係る内部規程の公表の有無（有・無）</p> <p>・ 公表の方法：</p> <p>ホームページで公表</p>	

監査委員会の委員名簿及び選定理由（注）

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
古賀 和徳	産業医科大学 病院	○	医療安全の知識 を持つ医師	有・無	1
手島 康德	産業医科大学 病院		医療安全の知識 を持つ看護師	有・無	1
中村 圭佑	産業医科大学 病院		医療安全の知識 を持つ薬剤師	有・無	1
平田 ナツ子			医療を受ける者	有・無	2
				有・無	
				有・無	

(注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1~3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者（1.に掲げる者を除く。）
3. その他

規則第15条の4第1項第3号イに掲げる管理者の業務の執行が法令に適合することを確保するための体制の整備に係る措置

管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況

・体制の整備状況及び活動内容

学校法人久留米大学内部監査室を設置している。

内部監査規程に基づき活動を行っている。

・ 専門部署の設置の有無 (有 無)

・ 内部規程の整備の有無 (有 無)

・ 内部規程の公表の有無 (有 無)

・ 公表の方法

大学内ホームページに掲載

規則第15条の4第1項第3号ロに掲げる開設者による業務の監督に係る体制の整備に係る措置

開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の状況			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 病院の管理運営状況を監督する会議体の体制及び運営状況 病院の管理運営に関する重要事項を監督する委員会として、理事長の下に「久留米大学病院経営企画委員会」を設置している。委員には法人理事も含まれており、病院の管理運営に関する事項、稼働状況に関する事項、事業計画に関する事項等について審議している。 ・ 会議体の実施状況（ 年6回 ） ・ 会議体への管理者の参画の有無および回数（ <input checked="" type="radio"/>有・無 ）（ 年6回 ） ・ 会議体に係る内部規程の公表の有無（ <input checked="" type="radio"/>有・無 ） ・ 公表の方法 大学内ホームページに掲載 			
病院の管理運営状況を監督する会議体の名称：			
会議体の委員名簿			
氏名	所属	委員長 (○を付す)	利害関係
			有・無
			有・無
			有・無
			有・無

(注) 会議体の名称及び委員名簿は理事会等とは別に会議体を設置した場合に記載すること。

規則第15条の4第1項第4号に掲げる医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付ける窓口の状況

窓口の状況
<ul style="list-style-type: none">・ 情報提供を受け付けるための窓口の設置の有無 (<input checked="" type="radio"/> 有 ・ <input type="radio"/> 無)・ 通報件数 (年0件)・ 窓口に提供する情報の範囲、情報提供を行った個人を識別することができないようにするための方策その他窓口の設置に関する必要な定めの有無 (<input checked="" type="radio"/> 有 ・ <input type="radio"/> 無)・ 窓口及びその使用方法についての従業者への周知の有無 (<input checked="" type="radio"/> 有 ・ <input type="radio"/> 無)・ 周知の方法 <p>院内通知および医療安全管理マニュアルへ掲載</p>

久留米大学医学部附属病院長等候補者選考委員会 名簿

様式6-3 別紙資料

No	氏名	カナ氏名	所属	職名	選定理由	特別の関係	備考	委員長
1	有馬 彰博	アリマ アキヒロ	久留米大学	常務理事	久留米大学医学部附属病院長等候補者選考委員会要項第2条第1項に基づく、理事長が指名する理事	有・無		○
2	内村 直尚	ウチムラ ナオヒサ	久留米大学	学長	久留米大学医学部附属病院長等候補者選考委員会要項第2条第2項に基づく、学長	有・無		
3	矢野 博久	ヤノ ヒロヒサ	久留米大学	医学部長	久留米大学医学部附属病院長等候補者選考委員会要項第2条第3項に基づく、医学部長	有・無		
4	國武 栄子	クニタケ エイコ	久留米大学	医学部附属病院看護部長	久留米大学医学部附属病院長等候補者選考委員会要項第2条第4項に基づく、医学部附属病院看護部長	有・無		
5	原崎 礼子	ハラサキ レイコ	久留米大学	医学部附属医療センター看護部長	久留米大学医学部附属病院長等候補者選考委員会要項第2条第4項に基づく、医学部附属医療センター看護部長	有・無		
6	高木 一希	タカキ カズユキ	久留米大学	事務局長	久留米大学医学部附属病院長等候補者選考委員会要項第2条第5項に基づく、事務局長	有・無		
7	北園 孝成	キタノ タカナリ	九州大学	医学研究院長	久留米大学医学部附属病院長等候補者選考委員会要項第2条第6項に基づく、理事長が委嘱する学外の有識者	有・無	九州大学大学院医学研究院病態機能内科学教授	
8	小玉 正太	コタマ ショウタ	福岡大学	医学部長	久留米大学医学部附属病院長等候補者選考委員会要項第2条第6項に基づく、理事長が委嘱する学外の有識者	有・無	福岡大学医学部 再生・移植医学講座主任教授	
9	赤木 由人	アカキ ヨシト	久留米大学	医学部附属病院副院長	久留米大学医学部附属病院長等候補者選考委員会要項第2条第7項に基づく、その他理事長が必要と認める者	有・無		
10	中島 宗敏	ナカシマ ムネシ	久留米大学	医学部附属医療センター副院長	久留米大学医学部附属病院長等候補者選考委員会要項第2条第7項に基づく、その他理事長が必要と認める者	有・無		
11	蓮澤 浩明	ハスザワ ヒロアキ	福岡県医師会	会長	久留米大学医学部附属病院長等候補者選考委員会要項第2条第7項に基づく、その他理事長が必要と認める者	有・無	医療法人(社)信和会 大牟田保養院理事長	
12	植田 省吾	ウエダ ショウゴ	久留米医師会	会長	久留米大学医学部附属病院長等候補者選考委員会要項第2条第7項に基づく、その他理事長が必要と認める者	有・無	医療法人 植田泌尿器科医院院長	

診療部長会名簿

様式6-3 別紙①

No.	メンバー名	職種	役職（部署名）
1	野村 政壽	医師	病院長
2	福本 義弘	医師	心臓・血管内科診療部長
3	渡邊 浩	医師	感染制御科診療部長
4	高須 修	医師	高度救命救急センター長
5	梅野 博仁	医師	耳鼻咽喉科・頭頸部外科診療部長
6	國武 栄子	看護師	看護部長
7	星野 友昭	医師	呼吸器・神経・膠原病内科診療部長
8	谷脇 考恭	医師	呼吸器・神経・膠原病内科診療部長
9	井田 弘明	医師	呼吸器・神経・膠原病内科診療部長
10	川山 智隆	医師	呼吸器・神経・膠原病内科診療部長
11	川口 巧	医師	消化器内科診療部長
12	古賀 浩徳	医師	消化器内科診療部長
13	黒松 亮子	医師	消化器内科診療部長
14	深水 圭	医師	腎臓内科診療部長
15	長藤 宏司	医師	血液・腫瘍内科診療部長
16	山下 裕史朗	医師	小児科診療部長
17	須田 憲治	医師	小児科診療部長
18	西小森 隆太	医師	小児科診療部長
19	安陪 等思	医師	放射線科診療部長
20	藤本 公則	医師	放射線科診療部長
21	淡河 悦代	医師	放射線科診療部長
22	田中 法瑞	医師	放射線科診療部長
23	内山 雄介	医師	放射線科診療部長
24	小曾根 基裕	医師	精神神経科診療部長
25	名嘉眞 武國	医師	皮膚科診療部長
26	藤田 文彦	医師	外科診療部長
27	光岡 正浩	医師	外科診療部長
28	田山 栄基	医師	外科診療部長

診療部長会名簿

様式6-3 別紙①

No.	メンバー名	職種	役職（部署名）
29	唐 宇飛	医師	外科診療部長
30	久下 亨	医師	外科診療部長
31	石橋 生哉	医師	外科診療部長
32	加治 建	医師	小児外科診療部長
33	森岡 基浩	医師	脳神経外科診療部長
34	廣畑 優	医師	脳神経外科診療部長
35	中村 英夫	医師	脳神経外科診療部長
36	吉里 俊幸	医師	産科診療部長
37	津田 尚武	医師	婦人科診療部長
38	井川 掌	医師	泌尿器科診療部長
39	千年 俊一	医師	耳鼻咽喉科・頭頸部外科診療部長
40	平岡 弘二	医師	整形外科診療部長
41	佐藤 公昭	医師	整形外科診療部長
42	平木 照之	医師	麻酔科診療部長
43	清川 兼輔	医師	形成外科・顎顔面外科診療部長
44	力丸 英明	医師	形成外科・顎顔面外科診療部長
45	吉田 茂生	医師	眼科診療部長
46	門田 遊	医師	眼科診療部長
47	春田 雅俊	医師	眼科診療部長
48	楠川 仁悟	医師	歯科口腔医療センター長
49	松岡 秀洋	医師	総合健診センター
50	秋葉 純	医師	病理部長
51	内藤 嘉紀	医師	臨床検査部長
52	内野 俊郎	医師	臨床研修センター長
53	山下 典雄	医師	臨床工学センター長
54	横山 晋二	医師	医療安全管理部長
55	松瀬 博夫	医師	リハビリテーション部長
56	牛島 高介	医師	保険診療管理部長

診療部長会名簿

様式6-3 別紙①

No.	メンバー名	職種	役職（部署名）
57	江口 訓史	事務	病院事務部長
58	岡部 義信	医師	消化器病センター長
59	田原 宣広	医師	循環器病センター

(様式第 7)

専門性の高い対応を行う上での取組みに関する書類 (任意)

1 果たしている役割に関する情報発信

① 果たしている役割に関する情報発信の有無	有・無
<p>・ 情報発信の方法、内容等の概要</p> <p>クリニカルインディケーター (CI) を久留米大学病院のホームページに掲載</p>	

2 複数の診療科が連携して対応に当たる体制

① 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の有無	有・無
<p>・ 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の概要</p> <p>消化器病センター (消化器内科、消化器外科)、循環器病センター (心臓血管内科、心臓血管外科)、呼吸器病センター (呼吸器内科、呼吸器外科) を外来部門に設置している。</p> <p>また、がん治療の診療方針の検討等を行っている。</p>	